



運動の苦手な子をめぐって

東京成徳大学教授
深谷和子

子ども時代の回顧

子ども時代を振り返るとき、どんな情景が思い起こされるだろうか。勉強ができた子は、授業のおもしろさや授業中に手を挙げて指されたときのいい気分を思うだろうし、運動が得意だった子は運動会で先頭を切って走り、校庭いっぱい歓声の中でテープを切る晴れがましさを思い出すかもしれない。

しかし筆者について言えば、そうした運動会の歓声は常に他人のものだった。

戦中戦後にまたがる筆者の小学生時代は、食糧が欠乏して人々はまさに飢餓状態にいた。大都市ではとりわけ状況が悪く、まだ給食もなく、弁当を持ってこられない級友が、毎日何人もいたのだった。辛うじて親が持たせてくれた弁当箱の中身も、カボチャやサツマイモ、雑穀のご飯であった。東京では餓死者も出た。そんな中では体育の時間など、子どもを消耗させ、卒倒させるのがオチだったから、まともな体育の授業はやらなかったような気がする。

筆者は後になって自分を、俗に言う「運動神経がない」人間に属するタイプだと知るので

だが、そうしたいい加減な体育の時間のおかげで、ありがたいことに当時は自分の能力のなさに気づかずにいた。

もっとも当時、子どもの間で運動神経の有無が問われるのは、遊びの中でだった。長なわとびで友だちと比べてどのくらい引っかからずに跳べるか、ゴム段でどこまで跳べるか。外を竹箒で掃除しているとき、退屈した子どもは箒を逆さにして1本指でどのくらい箒の平衡を保てるかを競い合うなど、そうした遊びの中では、運動神経の優劣など大したことではなかった。遊びは所詮、虚構の世界である。子どもたちは、友だちとケンカしたことも、ドジったことも、恥をかいたこともその都度ケロリと忘れ、場面ごとにいつも仕切り直しをしながら暮らしていたようなものだった。どんくさい子でも、それで仲間の中で強い劣等意識を持ったり、人間関係に障害を起こしたりはしなかった。

食べ物がどうにか食べられるようになって、筆者は中学に入学した。すでに体育の授業は復活していたが、通常の授業より運動会の方が重荷になっていた。できれば運動会だけは休みたいと思ったりした。

問題は徒競争で、フロックがなくて能力差

だけが嫌でも鮮明に外に出る機会だから、自我形成の進んだ過敏な年頃の女の子にはつらかった。全校の生徒だけでなく、地域の人からも、親きょうだいをも前にして、惨めな姿を晒すのは苦痛であった。

しかし高校になると、運動の苦手な子がふてくされてぐずぐずと体育の時間を過ごしても、先生からそれほど文句が出ることはなかった。体育の成績が悪いことを恥じるよりも、どこの大学に合格できそうかが、生徒一般の関心事になっていく時期だったからであろう。

その後、社会人になって筆者が始めたスポーツはボーリングとゴルフだった。とにかく、相手に迷惑をかけないスポーツは気が楽だった。高校ではそれでもテニス部へ入ったのだが、返ってくる球を打ち損ねて相手をコート内外に走りまわらせ、その都度「すみませ〜ん」と叫ばなければならぬのはつらかった。その点、ボーリングもゴルフも、ひどいスコアで恥はかくが、相手に迷惑をかけないので長続きしているのだろう。スタイルがよくて水着が着られたら、水泳もやってみたかったものの1つだった。人は恥の感情やこだわりを持つ動物で、それが環境適応にしばしばやっかいな働きかけをし、邪魔をする。

「いじめ」問題の発生

しかしその後、思いもかけない部分で、学級の中の〈運動の苦手な子〉の存在が浮かび上がる。三十数年前から日本の学校で不登校が発生し広がっていく中で、不登校を引き起こしたケースの多くに、仲間からの「いじめ」があることが浮かび上がってきた。

「いじめ」のターゲットになる子の特徴として、「弱くて、のろくて、運動の苦手な子」が指摘され、それにしばしば「成績のいい子」の条件が加わるケースもあるようで、筆者は改めて「運動の苦手な子」だった自分の立場を思い出した。自分の成育史を振り返ってみると、子ども時代にもう少し子どもの世界が荒れていれば、自分が「いじめ」のターゲッ

トになっていたかもしれないのである。

運動の苦手な子の 住む世界を明らかに

いま「いじめ」が子どもの世界に横行する時代にあって、運動の苦手な子の暮らしている環境を改めて思ってみる。運動の苦手な子を見つめる友人たちの眼差しの下で、運動の苦手な子がどんな社会的不利益をこうむり、どんな性格形成上の問題を発生させているか。

こうした状況は他人ごととは思われず、過去に同じ条件を持っていた人々には、ぜひ明らかにしたいものの1つであろう。さらに、もしそうした状況があるとしたら、どうすれば運動が苦手な子を作らずにすむか。むろん運動能力の劣性がそれほどはっきり外に出ないような体育の時間の持ち方や、評価の方法も考えられるであろうが、それ以前に子どもの成長過程で、何らかの対応策が講じられないものだろうか。多少の能力差は仕方がないとしても、微差にとどまり、誰もが劣等感を持たずに運動にいそしむ状況が作り出せないものだろうか。

こうした問題意識は長い間、われわれの研究会の中にあっただのだが、最近、モノグラフ同人の中に運動の専門家が加わったことから、一挙にこのテーマでの調査が可能になった。

今後の研究と実践を期待して

この号はしたがって、少し通常より固い内容になっている。文献の収集も試みて巻末につけ加えた。本報告書の最後には、運動の専門家である及川研氏に、今回の調査データを踏まえながら運動の苦手な子を作らないための提言をまとめていただいた。

それらを読んで考えた。筆者も幼少期にもう少し違った成長環境にあれば、同じ遺伝因子を親から受け継いでいても、現在もう少し運動することに消極的にならず、スポーツに親しむ自分がありえたのかもしれない。走る

ことは苦手だったが、なぜか竹箒の空中上げには、誰よりもいちばん長く竹箒を倒さずにバランスをとり続けた子どもだったのである。能力にムラはあっただろうが、どこかに取り柄もあったのかもしれない。走ることが多くのスポーツの基本とはいえ、現在のような<運動ダメ人間>にはならずすんだかもしれない。

この号の中で多少とも明らかになった知見を踏まえて、いま親や教師の立場にある人々が、子どもの中に運動能力の大きな差を作らず、どの子どももっとスポーツに親しみ、もっと人生を明るく積極的に過ごす人間になることができるように、子どもの成長環境や学校

教育の内容に配慮してやること、そしていま運動が苦手になりかけている子に急いで何らかの対応策を講じてくださることを願っている。

この号でも明らかにしたように、<運動の苦手な子>の問題は、運動学のテーマであると同時に極めて心理学的なテーマでもある。われわれが今回手がけたこの問題について、今後多数の運動学的、心理学的研究が行われ、データが積み重ねられることを期待している。それによって、運動の苦手意識から少なからぬ子どもたちが解放され、どの子の上にもより健やかな成長が果たされることを願うものである。

〔調査レポート〕

運動の苦手な子

東京成徳大学教授	深谷和子（5章）
東京学芸大学講師	及川 研（1～4章・まとめに代えて）
田無市立谷戸小学校教諭	小川正代（1章）
日野市立東光寺小学校教諭	猿田恵一（3・4章）
東京学芸大学大学院生	吉野真弓（5章）



『モノグラフ・小学生ナウ』Vol.20 - 1

調査レポート

運動の苦手な子

要 約

調査概要

1. 調査テーマ 運動の苦手な子
2. 調査視点 運動が苦手な子は本当に苦手なのか、それとも単に苦手意識の持ち主なのか。苦手な子、苦手意識を持った子の成育歴上の問題を明らかにし、現在、苦手意識がどのように自己像や行動上に歪みを生み出しているかをみる。
3. 調査項目 運動の好き嫌い、得意・苦手意識、実際の運動種目の能力記録の数値、家族がするスポーツ、放課後の行動、幼少期の運動体験、運動の苦手な子の自己像、運動の苦手な子のイメージ、友人関係など。
4. 調査時期 1999年9月
5. 調査対象 東京・千葉・神奈川の小学5年生～6年生
6. 調査方法 学校通しによる質問紙調査
7. サンプル数

(人)

	5年	6年	合計
男子	521	482	1,003
女子	492	488	980
合計	1,013	970	1,983

1. 運動の好き嫌いと得意・苦手

運動は「何でも大好き」または「かなり好き」と答えた子は半数。「あまり好きでない・嫌い」と答えた子は約15%、その内訳は女子に多く約70%、学年が上がるとやや嫌いな子が増える(図1-1)。

運動が嫌いな理由を拾ってみると「かったるい」「動くと疲れるから」「体力のムダ」「面倒くさい」「着替えが面倒」「体育着がイヤ」などの億劫派の他に、「運動会でいつもビリだから」「男子にからかわれるから」「リレーやボールゲームで仲間の足を引っ張るのがイヤ」「皆ができて自分だけできないのがイヤ」など、仲間関係の中での運動嫌いも見いだされる。

2. 得意な運動、苦手な運動

子どもに苦手とされる運動は2種類で、1つは「マラソン」「けんすい」のように身体的にきついもの。もうひとつは「サッカー」「ドッジボール」「ボール投げ」のように、相手のあるボールゲームで、うまい人のペースについていかなければおもしろくないもの。つらい、こわいと思われるものである(図2-1、図2-2)。

逆に苦手と答えた子が少ない種目は、「水泳」「とびばこ」の他に女子の「なわとび」など。つらければ自分のペースで休みながらやれるもの、相手との接触や奪い合い、ぶつけ合いをせずに、自分の動作でスタートし、自分のペースやリズムで行えるものである。自分は運動が苦手という子でも、「水泳」「なわとび」には「とても得意」と答えるケースも多かった(図2-3)。

運動が苦手な子がスポーツをするときは、本人の好みの他に、ボールゲームや集団スポーツではなくて、「水泳」など個人競技が向いているのではなかろうか。



3. 家族と一緒にする運動

父親と一緒にするスポーツは、男子では「キャッチボール」がダントツ。男子の2位と女子の1位は「水泳」である。また女子でも父親とよく「キャッチボール」をすると答えている子が多くいる。

母親と一緒にするスポーツは、全体で「バドミントン」「水泳」が多い。また男子の場合、「キャッチボール」につきあう母親が多かった。

家族そろってするスポーツは、「水泳」「バドミントン」「キャッチボール」「サイクリング」「テニス」「山登り」などがあがっている。また、「テニス」「ゴルフ」など、父母の趣味につきあう子どもも見受けられる(表3-1)。

4．苦手な子は、家族でのスポーツ体験が少ない

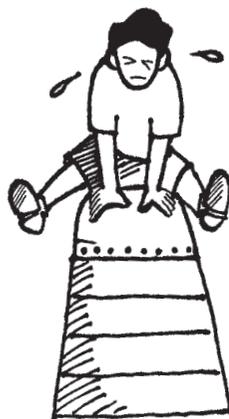
とても苦手な種目が5つ以上ある子では、家族とする運動の数が苦手でない子の約半分。また家族と一緒に運動をしない子は、「運動が苦手でも、得意になりたいと思わない」など、運動に対して屈折した思いを持っているかのようである（表3 - 2）。運動嫌いにならないためには、両親とのスポーツが一役買いそうである。

5．運動の得意な子は塾にもスポーツ教室にも通う

塾に通っているのは、全体の約5割だったが、運動が得意な子ほど塾に行っている割合が高い。また運動の得意群の7割近くがスポーツ教室に通っているが、苦手群では3割を切る（表3 - 4）。運動の得意な子は苦手な子より、積極的な生活をしているといえそうだ。

6．いちばん好きな教科は「体育」

最も好まれている教科は「体育」の33%、2位以下は10%台だが、「図工」「音楽」「家庭科」であった。主要4教科はどうしたのだろう。また運動の得意さからみると、「体育」が好きかどうかには差があるのは当然だが、運動の苦手な子は「理科」「図工」「音楽」を好む傾向がみられる（表3 - 5）。



7. テレビの視聴時間、テレビゲームをする時間

運動の得意な子は外で運動し、逆に苦手な子ほどテレビゲームに夢中というイメージがありそうだが、今回の結果は逆であった。

運動の苦手群でテレビゲームを「ぜんぜんしない」は23%だが、得意群では18%。また、テレビゲームをする日が多いと答えた子も、運動の得意な子の方に多かった(図3-1)。運動の得意な子は、テレビゲームにも関心が高いのは何を意味するのだろうか。



8. 汗をかく遊びが好きか

運動の得意群は外遊びや汗をかく遊びを好み、苦手群は家の中の遊びや汗をかかない遊びを好む傾向がみられる。例えば、苦手群で「ぜったい汗をかく遊び」を好むのは5%と大変少ないことがそれを示している(図3-3)。



9. 放課後、外に遊びに行く度合い

運動の得意群には強い「外遊び志向」があり、苦手群は「家の中志向」がある。例えば「たまに遊びに行く・ほとんど遊びに行かない」子の割合は、得意群で33%、苦手群で62%である(図3-4)。

10. 小さい頃に両親とする遊びの意味

「小さい頃、両親がよく外で遊んでくれた」子の方が、いま、運動が苦手でない傾向にあり、「小さい頃、家で遊ぶ方が多かった」「部屋でのんびりしたり本を読んだりするのが好き」な子は逆に、運動が苦手になっている場合が多かった。ただし「テレビやビデオをよく見ていた」はあまり差がなく、最近の子どもは運動が好きの子も嫌いの子もテレビをよく見ているのであろう(図4-2~5)。

11. 幼少期に様々な遊び体験を

遊びの中の様々な動作を写真で示して得意群・苦手群で比べてみると、「よく・ときどきやった」割合は、どの項目でも苦手群に一樣に少ない(表4 - 1)。

とくに得意群と苦手群で差が大きいのは、得意群で「木登り」の体験率が70%だが、苦手群では26%。また「いろいろなところにぶら下がる」「高いところによって遊ぶ」「斜めのところやガケをかけおる」なども同様の差があった。このような<高さの変化がある動き>の体験が、苦手群では少ないように見受けられる。

小さい頃から登ったり飛び降りたりができる場所へ行き、<高さの変化がある動き>に少しずつ慣れ親しんでいる子は活動的な子であろう。運動の好き嫌いを自覚するより前の幼少の段階で、こういう遊びに馴染む機会をおとなが与えるか、それとも危ないから「やめなさい」と遠ざけてしまうか、後には大きな差が生じると思われる。

運動の苦手な子を作らないためには、こうした点についておとなの配慮が重要であろう。



12. 「運動の苦手な子」の否定的な自己像

運動の得意・苦手による差があるものを拾ってみると、男女ともに運動の得意群は「友だちが多い」「がんばる」「勉強が得意」「よくリーダーになる」「心がやさしい」「親切」、苦手群は「気が弱い」「太っている」「どんくさい」「疲れやすい」「いじめられやすい(男子のみ)」「おとなしい(女子のみ)」「あまり質問しない(女子のみ)」などである。両群で、肯定的なイメージと否定的なイメージにはっきり分かれる結果であった(表5 - 4)。

たかが運動能力の差がこれほど性格形成に影響するとしたら、運動の苦手な子の運動能力を高める取り組みや、苦手意識を取り払う取り組みを、もっと工夫すべきではないだろうか。

13. 「運動の苦手な子」というイメージ

運動が苦手な子と聞いて思い浮かぶイメージは、上位から「疲れやすい」「気が弱い」「おとなしい」「太っている」「あまり質問しない」となっており、運動の苦手な子のイメージから遠いのが「よくリーダーになる」「友だちが多い」「親切」であった(表5 - 6)。

このイメージが、逆に自己像や友だちイメージを形成することもありそうだ。

14. 「運動の苦手な子」の友人関係の問題

「いじめられた経験」は、とくに男子では得意群 8 % と苦手群 19 % という差があり、男子の運動の苦手な子が「いじめ」の対象になりやすい教室の状況が裏づけられている（表 5 - 9）。

また、仲良しグループに「入っていない」子の割合は、男女ともに、苦手群は得意群の 2 倍から 3 倍であり、気の合う友だちが「いない」子も苦手群に多い（表 5 - 10、表 5 - 11）。

運動の苦手な子の場合、「友だちから大事に思われていない」「友だちと一緒にいると疲れる」「休み時間はたいてい 1 人でいる」「クラスが替わると、なかなか友だちができない」「友だちから無視されているような気がする」「あまり得意なものがない」「わりとよく失敗する」「学校に行きたくないと思うことがある（女子のみ）」とほとんどすべての項目で、自分に否定的なイメージを持っている（表 5 - 15、表 5 - 16、図 5 - 2）。

運動の苦手な子は友人関係の中で孤立しやすく、自己否定的で抑鬱感情が強い。学校生活の中でこうした体験や否定的な自己像の中にいることと、運動の苦手なことは相互に影響し合っています。ますます悪いものになっていくように思われる。

15. 提言 - 運動の苦手な子をなくすために

1. 幼少期の運動体験を大切に
2. 苦手意識が生まれる前に
3. 個人でできる種目から始める
4. 性格の改善
5. 上手に励ます
6. 運動の < 苦手意識 > をなくす
7. 運動に誘い込む
8. 努力しようという気持ちにどうもっていくか

そのためには、次のような子どもを育てようとするイメージをわれわれが常に心の中に持ち続けることが必要である。

< こんな子どもに >

見ることでもいいから運動に親しみを感じ、うまくできなくても楽しんで体を動かす、できないことを負い目を感じず友だちとも活動する、うまくなりたいという希望を持っている

おとなたちがこうした配慮をしていくことで、どの子どもにも大きく先の道が開けるのではなかろうか。



1

運動への意識や志向



好き嫌い、得意・苦手をめぐって)))

1) 運動の好き嫌い

運動が嫌いな子はどのくらいいるのだろうか。一般的に「運動が好きか」と尋ねた結果を男女別と学年別に集計したのが図1-1である。

およそ半数が「何でも大好き」または「かなり好き」と答え、3分の1が「半々」と答えている。女子は男子に比べて「好き」な割合が少なく、6年生は5年生に比べて「好き」な割合が少ない。運動が「嫌い」と答えた子は64人で全体の3%、その内訳は男子30%女子70%、5年生48%6年生52%であった。

運動が好きな理由を聞いてみると、最も多いのが「気持ちいい」、次に「気分転換」、さらには「おもしろい」と体を動かすこと自体

を楽しむ子どもらしい姿がみえる。また「勉強よりもおもしろい」「勉強の疲れがとれる」「ストレスがとれる」と答えた子どももかなりいる。積極的にかかわるほど好きではないが、つまらない勉強に比べればという消極的な肯定であるように思われ、現代の子どもの特徴の一面がみえるかのようである。あまり多くはないが、「親譲りだから」との答えもあった。親が運動好きでその資質を受け継いだり、運動に親しめる環境を与えられたりすると、子どもも運動好きになるのではと想像できる。

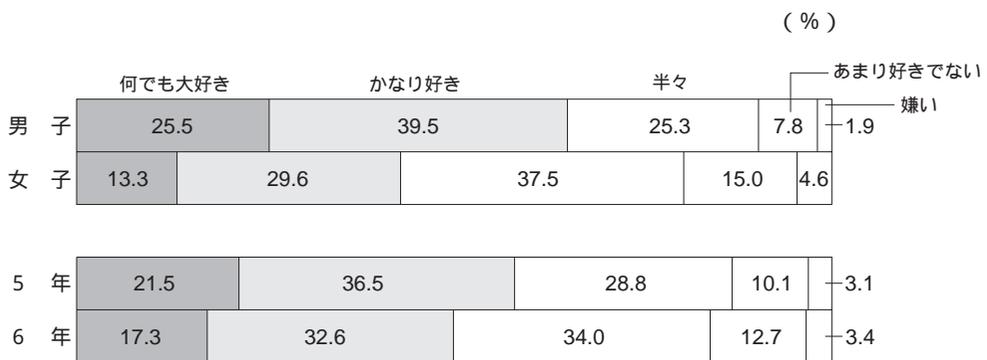
反対に、運動が嫌いな理由は、「つまらない」「かったるい」「動くと疲れるから」「面倒くさい」という内容が多数を占めた。具体的には、「動くと疲れる」「疲れると腰が痛く

なる」「体がもたない」「疲れると翌日ぐったりしてしまう」「ケガをするから」「体力のムダ」など、運動好きの子とは正反対の記述が目立つ。運動嫌いな子は体を動かすことに大きな抵抗がある様子も見受けられ、「体重が増えてきて動きづらい」「考えることの方が好き」「着替えが面倒」「体育着がイヤ」などの回答もあった。また、「基本である走ることがダメだから」「運動会でいつもビリだから」「運動会が疲れる」「運動会がイヤ」という答えもあった。軽やかにさっそうと動きたいが体が思うように動かない、だから面倒に感じるという悪循環が、運動嫌いを助長する

一因となっているのではなかろうか。

もうひとつ、運動嫌いを作らないためのヒントになりそうな答えがある。友だちとの関係やクラスメートとの比較などからくるもので、「リレーなどで仲間の足を引っ張るのがイヤ」「皆ができて自分だけできないのがイヤ」「友だちがうまくて恥ずかしい」「男子にからかわれるから」「ドッジボールで狙われるから」などである。このうちの一部は、後述の「運動の苦手を克服したい理由」としてもあげられていて、指導する立場としてはぜひともうまく対処してやりたい部分である。

図1 - 1 「運動が好きか」× 性・学年



2) 運動の得意・苦手

一般的な尋ね方で聞いた「運動が得意か」について、男女別と学年別に集計したのが図1-2である。「とても・わりと得意」と答えた子が約40%、3分の1が「ふつう」と答えている。これも、女子は男子に比べて「得意」な子の割合が少ない。また、学年による差はわずかであった。運動が「とても苦

手」と答えた子は148人で、全体の8%。そのうちの64%が女子、58%が6年生であった。

この質問で「とても苦手」と答えた148人を「運動の苦手な子」として、以下で考察する際に注目することとした。本文中で単に「得意群」「苦手群」と表現する場合は、表1-1にあげたように、この質問の回答によって分けたグループを指すこととする。

図1-2 「運動が得意か」×性・学年

(%)

	とても得意	わりと得意	ふつう	少し苦手	とても苦手
男子	17.4	30.9	32.2	14.1	5.4
女子	7.8	22.3	34.6	25.7	9.6
5年	13.2	28.5	32.7	19.4	6.2
6年	12.0	24.6	34.1	20.4	8.9

表1-1 「運動が得意か」への回答と「得意群」「苦手群」の設定

(%)

回 答	とても得意	わりと得意	ふつう	少し苦手	とても苦手
人数の割合	12.6	26.6	33.4	19.9	7.5
分析時の群	「得意群」			「苦手群」	

3) 運動が得意になりたいか

「運動が得意になりたいか」を男女別に集計したのが、図1-3の上段である。上述の「運動が得意か」では「とても・わりと得意」が50%以下だったのに、ここでは「とてもになりたい」と答えた子だけで約50%となっている。「かなりになりたい」までを合わせると約70%、「少しになりたい」までを合わせると約95%にもなる。男女差も少なく、実際の得意・苦手によらず、たいいていの子は運動が「得意になりたい」と思っているわけである。「運動が得意か」の質問では、「苦手」と答えたのは女子に多かったが、ここでは「得意になりたい」と答えた女子は少なかった。

全体で「ぜんぜんなりたくない」と答えた子が28人いたので、次にその理由をみてる。また、どのような特徴を持った子がそう答えているのかについても、2節4項の「運動が得意になりたくない子」で考察してみる。

では以下に、「得意になりたい理由」「得意になりたくない理由」について、それぞれ例をあげてみよう。

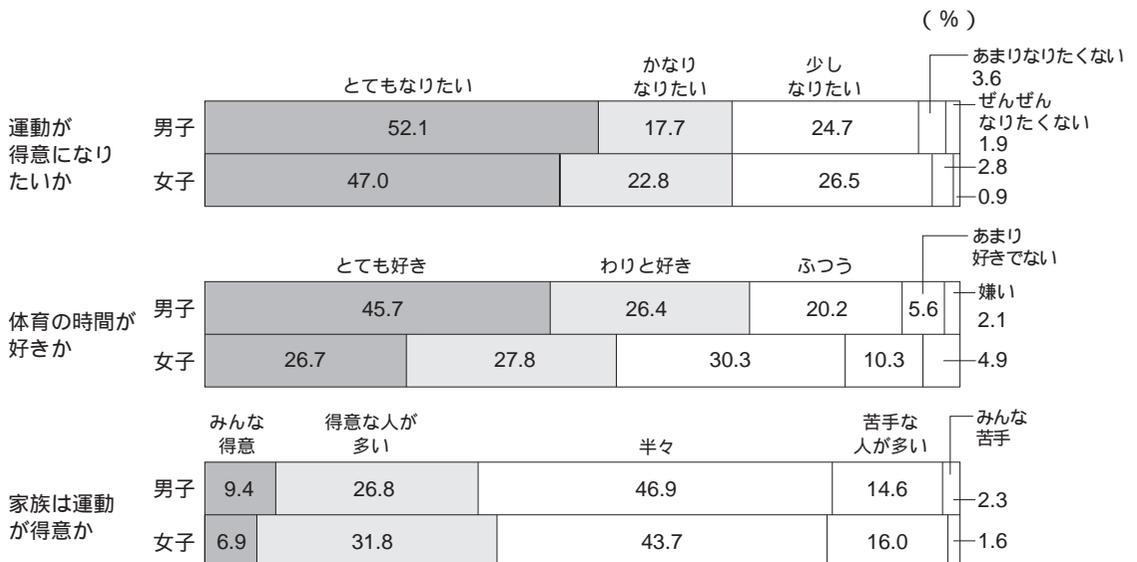
「運動が得意になりたい」という切実な願

望の理由でまず目についたのは、「かっこいい」であった。この年齢の子どもにとって運動が得意な子は、文句なく「かっこいいスーパー・ヒーロー」なのである。この発想からの「目立ってみたい」「人気者になりたい」「お手本になりたい」というヒーロー願望や、その延長にある「将来テレビに出るようなスポーツ選手になりたい」という夢などのほか、「役に立つから」「得意だと何かと便利」という便利・損得観も結構あった。スポーツ番組の華やかな時代にいる子どもたちの意識の現れであろう。

また、意欲・向上心の現れもみられる。「1位になりたい」「ライバルに負けたくない」「みんなを見返したい」「記録を伸ばしたい」「もっとうまくなりたい」「ビリになりたくない」などが、その代表的なものである。子ども自身の意識の中に「運動が得意になると全部のことが楽しくなる」「運動ができると自信がつく」というポジティブなとらえ方もあるようだ。

また、運動嫌いの理由で触れたように、友だちの間で感じている負い目からの答えとして、「リレーなどで仲間の足を引っ張らない

図1-3 運動や体育の時間についての意識 × 性



ようになりたい」「得意になるといろいろな友だちと遊べる」「得意だと友だちといろいろな遊び方ができる」「すぐ苦しくなると友だちと遊びにくいから克服したい」などがあった。仲間関係にかかわる部分は、指導の仕方によって、子どもたちの間の感じ方がよくも悪くもなると思われるので、工夫する材料としたいところである。

また「体育の授業が好きになる、楽しくなる」という答えや、「健康的に過ごしたい、体を強くしたい」という健康の価値観からの答え、「恥ずかしい、うらやましい、くやしい、ダサイ、皆にバカにされる」のを克服したいという答えも多数あった。

他方で、「得意になりたくない理由」の背景は興味深い。まず勉強に関連することとして「考えることの方が好き」「運動ができて勉強ができればダメ」と答える子は、どのクラスにも何人かはいそうである。また「運動には関心がない」「スポーツマンになりたくない、ならなくてもいい」という女子の意見もあった。これらは、まあ得意に越したことはないけれど、という弱い否定かもしれない。

積極的に否定している子どもには「得意になりたくない」というよりも、運動への拒否感がみてとれる。「得意になっても意味がない」「得意になってもムダ」「トクすることがない」「あまりいいことはない」などのように、ものの考え方に起因する拒否感のようなものが感じられる。これらの子どもたちの中には、一生懸命に体を動かして練習や運動に励む子に対して、「別にそんな得意になっても……」と冷やかすような見方があり、いざ

自分をそういう場面に置いてみると、「得意になるまでの道のりが疲れる」「得意になるまでががんばらなくてはいけないから」のように気持ちが逃げているのがわかる。運動だけでなく、物事に対する考え方がネガティブな傾向もあるのではなからうか。

4) 体育の好き嫌い

「体育の時間が好きか」を聞いた結果を男女別に集計したのが、図1-3の中段である。結果は「運動が好きか」の集計結果とよく似たものとなっている。若干の違いは、運動の好き嫌いに比べて「とても好き」と答えた子の割合が10～20%も多くなっていることで、体育の時間は多くの子どもたちから好まれているようだ。

「運動が得意になりたいか」で「なりたくない」が少なかったのに比べると、「体育の時間が好きか」では「あまり好きでない・嫌い」の回答が少し多くなっている。全体としては好評であっても、嫌いな子が一定数いることは見逃せない。

体育の時間が「嫌い」と答えた子は69人で全体の4%、そのうちの70%が女子、58%が6年生であった。

5) 家族の運動の得意・苦手について

「あなたの家の人たちは、運動が得意か」と尋ねた結果も同様に図1-3の下段に示した。「みんな得意」が約10%、「得意な人が多い」が約30%でいわゆる正規分布に近く、子ども自身の得意・苦手よりも若干辛目の評価になっている。男女差や学年差はほとんどみられなかった。

運動の得意・苦手や好き嫌い、 体育の好き嫌い)))

運動の苦手意識がどうして形成されるかを考える材料として、「運動の好き嫌い」「運動の得意・苦手」「体育の時間の好き嫌い」の相互の関連、また「運動の得意・苦手」と「運動が得意になりたいか」との関連をみてみよう。そのために、それぞれのクロス集計を行うとともに、いずれの項目も回答が5段階の選択肢になっているので、この回答の値をもとに相関係数^{*}も算出した。

1) 「運動の好き嫌い」×「運動の得意・苦手」

「運動が好きか」×「運動が得意か」の回答は表1-2の通りで、相関係数が0.73となるなど関連が強かった。

双方の質問に同じ数字を答える子が多く、回答の傾向が似ていることがわかる。実際にクロス集計表を、左上から右下へ順に斜めにみることで同じ数字を答えているケースを数えてみると48%、1つ違うだけのケースは36%+9%で、ここまでで全体の93%になる。50%近くの子が両方に同じ数字を答え、36%が「運動の得意・苦手」の回答より1

つ「好き」に近い方に「運動の好き嫌い」に答えているわけで、「運動の得意・苦手」の意識より「運動の好き嫌い」の方が少しずつよいイメージになっていると読むことができる。

「運動の好き嫌い」と「運動の得意・苦手」はほぼ同じ回答になる傾向があったが、どちらかという「得意か」と聞かれたときより、「好きか」と聞かれたときの方が肯定しやすいようであった。裏を返せば、自分のことを「苦手」と評することはあるが、それに比べると「嫌い」とは答えにくい傾向がみられたわけである。

「運動の好き嫌い」で「嫌い」と答えた子は62人、「運動の得意・苦手」で「とても苦手」と答えた子は148人であり、双方ともに該当する者は46人で、全体の2%であった。46人の中では女子が67%、6年生が61%であった。

* 相関係数 = 2つ以上の変数の統計的な関連を示す。1.00であれば、2つの変数の間には完全な対応がある。調査データでは、ふつう0.5前後でかなりの関連があるとみなされる。

表1-2 「運動が好きか」×「運動が得意か」

	(%)				
	とても得意	わりと得意	ふつう	少し苦手	とても苦手
何でも大好き	9.1	7.1	2.9	0.4	0.0
かなり好き	3.4	15.6	13.6	1.6	0.3
半々	0.2	3.5	15.0	11.3	1.4
あまり好きでない	0.0	0.3	1.6	6.1	3.5
嫌い	0.0	0.0	0.3	0.5	2.3

(相関係数 $r = 0.73$)

2) 「運動の好き嫌い」×「体育の時間が好きか」、「運動の得意・苦手」×「体育の時間が好きか」

「運動が好きか」×「体育の時間が好きか」、「運動が得意か」×「体育の時間が好きか」のクロス集計の結果はそれぞれ表1-3、表1-4に示した。

相関係数については、「運動の好き嫌い」×「体育の時間の好き嫌い」では0.74、「運動の得意・苦手」×「体育の時間の好き嫌い」では0.67であり、やはり関連があることがよくわかる。

これも、50%以上が「運動の好き嫌い」と「体育の時間の好き嫌い」に同じ数字を答えており、さらに33%が「運動の好き嫌い」から1つ「嫌い」に近い方を回答していた。つまり、「運動の好き嫌い」と「体育の時間

の好き嫌い」の回答はほぼ同じになる傾向だが、体育の時間の方により「好き」と答える子が3分の1あった。これについては、体育の時間の方が嫌いな子が多いのではないかと予想したのだが、意外な結果であった。

「運動の得意・苦手」×「体育の時間の好き嫌い」についても、「運動の得意・苦手」と「体育の時間の好き嫌い」に同じ回答した子が36%、「体育の時間の好き嫌い」の方に1つ「好き」に近い方を書いた子が41%、2つ少ない数を書いた子は15%だった。合わせると90%以上の子どもたちにとって、「体育の時間は好き」となる。自分で「運動が苦手」と思っている子でも「体育の時間が嫌い」とは答えられない場合も多くあった。

表1-3 「運動が好きか」×「体育の時間が好きか」

	(%)				
	とても好き	わりと好き	ふつう	あまり好きでない	嫌い
何でも大好き	16.9	1.6	0.6	0.1	0.1
かなり好き	16.6	13.8	3.9	0.4	0.1
半々	2.3	10.8	15.1	2.9	0.3
あまり好きでない	0.3	0.7	5.1	4.0	1.1
嫌い	0.0	0.1	0.6	0.6	2.0

(相関係数 $r = 0.74$)

3) 運動好きの体育嫌い

前述のように、「運動が苦手」でも「体育の時間は好き」と回答する傾向もみえる。

少し前に「運動好きの体育嫌い」という現象が話題にされたことがあるが、今回の結果では、「運動好き」の「体育嫌い」や「運動が得意」で「体育嫌い」という傾向は非常に少なかった。体育の授業方法の工夫などによって「運動好きの体育嫌い」のような現象は減っているのだろうか。

わずかしかなかった「体育嫌い」のケースについて自由記述などを調べたところ、次のような特徴があった。1つのケースは、運動種目はすべて「とても得意」なこと、家族ともいろいろなスポーツをすること、ゴルフ教室に通うことなどを誇らしく思っている様子が感じられた。熱中しているものはサバイバ

ルゲームやエアガンと現代的遊びである。

自己像については、「学校に行きたくないと思うことがある」「友だちと一緒にいると疲れる」「給食を残す」に「そう」と答え、「よくリーダーになる」「心がやさしい」には「違う」と答えている。つまり、何かがまんしたり自分のこと以外の人のことにつきあわされるのがイヤとでも思っているかのような感じが伝わってくる。性格的なことだが「体育嫌い」につながることもかもしれない。

別のケースでは、「友だちから大事に思われていない」「友だちと一緒にいると疲れる」「あまり質問しない」などに「そう」と答え、「親切」「心がやさしい」「よくリーダーになる」には「違う」と答えていた。こちらも、意欲や仲間関係の面でややネガティブな回答となっている様子がみられた。

表1 - 4 「運動が得意か」×「体育の時間が好きか」

(%)

	とても好き	わりと好き	ふつう	あまり好きでない	嫌い
とても得意	11.1	1.1	0.4	0.0	0.1
わりと得意	15.0	8.8	2.2	0.4	0.0
ふつう	8.6	12.9	10.1	1.3	0.4
少し苦手	1.1	4.0	10.3	3.8	0.7
とても苦手	0.3	0.4	2.2	2.5	2.3

(相関係数 $r = 0.67$)

4) 「運動が得意になりたくない子」

「運動が得意か」×「運動が得意になりたいか」の関係については表1-5に示した通りである。

この組み合わせでの相関係数は0.37であり、前項までの表1-2～表1-4に述べた組み合わせに比べて、回答はあまり類似しない傾向にあった。「運動が苦手」であるのに「とても(得意に)になりたい」と意欲的に答える子ども約10%いることは興味深い。

また「得意になりたい」と考える子が圧倒的に多い中で、「運動がとても苦手なのに、得意にぜんぜんなりたくない」と答えた子が14人(0.7%)、「少し苦手」や「あまりなりたくない」まで含めると47人(2.4%)もみられた。さらに、その子どもたちに共通した特徴があるかどうかを調べてみた。

その結果、該当者の多くが「家族みんなが運動が苦手」と答える傾向にあり、家族とするスポーツは皆無であった。自由記述に表れた本人の気持ちも、「とにかく嫌い」といった拒否感や「すぐ疲れるから」「太っているから」など、運動することに慣れてこなかった様子が推測できて悲しくなるようなものが多かった。

ただ、このような傾向を示すものでも、「どんな運動が好きか」との質問に対して、「水泳」「野球」「なわとび」など、何か1つは記入している場合が多かったことは明らかな材料であり、該当者の半数以上が水泳教室に通っていることも目につくことであった。

さらに、学校での仲間関係や自分に対する自己イメージについての回答をみみると、いくつかのパターンがみられた。最も典型的なのは、仲間関係も自己イメージも極端に悪く、どの運動も苦手で体を使った遊びもまったくしないというネガティブなものである。また室内志向が強く、テレビ視聴も12時間と答え、いじめられた経験があって、好きな運動はパターゴルフというものもあった。別の例では、外へはほとんど遊びに行かず、1週間の7日全部に塾へ通っていて仲良しグループにも入っていない子もいた。このケースでは「運動が苦手」というよりも「運動に価値観を認めない」ような印象の記述もあり、家族も運動に縁がない様子であった。

以上とは少し違ったパターンだが、外遊びや運動の機会がないわけではなく運動への意欲もあるのに、「自分自身の有能感が低い」ために「得意になりたくない」と答えているのではないかと思われるケースもあった。

表1-5 「運動が得意か」×「運動が得意になりたいか」

(%)

	とても なりたい	かなり なりたい	少し なりたい	あまり なりたくない	ぜんぜん なりたくない
とても得意	11.2	0.6	0.5	0.1	0.2
わりと得意	17.3	4.8	4.0	0.3	0.1
ふつう	12.5	9.0	10.4	1.3	0.2
少し苦手	5.6	5.0	8.2	0.9	0.2
とても苦手	3.0	0.8	2.5	0.6	0.7

(相関係数 $r = 0.37$)

2

運動種目の得意・苦手と実際の運動能力



運動種目の得意・苦手)))

具体的な運動種目の得意・苦手についての結果を図2-1に示したが、ほとんどの種目で回答は「とても得意」から「苦手」まで、同じように分布している。図2-2は男女別にみたものであるが、「とても・わりと得意」(以下「得意」)の割合でみると、男子の方が高いのが「ボール投げ」や「ドッジボール」で約50%、逆に女子の方が高いのが「なわとび」である。また、「サッカー」は男子の中でもさほど高順位ではないが、女子では極端に「得意」が少なく「ちょっと苦手・苦手」が多くなっている。

その他の種目では男女とも似た傾向を示しており、「水泳」「とびばこ」などで「得意」が40~50%と高く、逆に「ちょっと苦手・苦手」が高いのは40~50%の「マラソン」や

60%以上の「けんすい」であった。「かけっこ」や「ドッジボール」は男女ともその中間に位置している。

回答が5段階評価であるので、その平均値を計算して(表2-1)、その種目の「得意度」の指標にすると、「水泳」では男女差がなく、「なわとび」で女子の方がやや「得意」である他はいずれも男子の方が0.2~1.0ポイント「得意」側に寄っていて、具体的な運動種目の「得意・苦手」でも、男子が優位であった。

このうち「水泳」や「とびばこ」は、時に運動嫌いを作る原因となるといわれるが、ここでは「得意」の評価が多い。授業などで個別の到達目標の設定や、個別の指導が工夫されているのかもしれないし、また動作的にも相手に合わせる必要が少なく、自分自身のペ

ースやリズムで運動できることなどが影響して、「得意」が多くなったのかもしれない。

逆に「ちょっと苦手・苦手」の評価が多かった種目では、理由が2通り考えられる。1つは「マラソン」や「けんすい」で、身体的にきついスポーツである。「とびばこ」なら工夫次第で「こわくない」ようにできるかもしれないが、「マラソン」や「けんすい」は途中でやめてはいけないという意識で行われるから、やり方を変えても、ある程度「つらい」ことは変えようがなく、克服感や達成感を味わいにくいのかもかもしれない。

もうひとつの傾向は、とくに女子のグラフ

からわかるように、相手のあるボールゲームで「ちょっと苦手・苦手」が多くなっている。これは、「ドッジボール」や「サッカー」では「水泳」や「とびばこ」と逆に、うまい人や速い人のペースについていかなければならず、「楽しくない」とか「つまらない」「こわい」という思いをしやすいためであろう。5、6年生にもなると、得意な子どものレベルはどんどん高くなって、動きの差も広がるが、「とびばこ」や「水泳」のように課題を調節してレベルを下げることはあまり行われず、ゲーム形式ともなれば、みな本気を出す。

図2-1 具体的運動種目の得意・苦手

(%)

	とても得意	わりと得意	ふつう	ちょっと 苦手	苦手
水泳	20.4	27.9	31.2	12.5	8.0
とびばこ	17.4	25.7	31.0	16.3	9.6
ボール投げ	23.4	19.4	30.9	16.2	10.1
かけっこ	18.7	23.1	29.2	16.7	12.3
なわとび	13.4	26.1	37.4	17.0	6.1
ドッジボール	14.3	23.4	33.9	16.8	11.6
マラソン	12.5	16.4	28.5	22.1	20.5
サッカー	9.6	14.5	32.7	22.8	20.4
けんすい	4.4	9.3	23.3	28.0	35.0

図2 - 2 具体的運動種目の得意・苦手 × 性

		(%)				
		とても得意	わりと得意	ふつう	ちょっと苦手	苦手
水泳	男子	21.3	28.0	30.7	12.1	7.9
	女子	19.6	27.8	31.6	12.9	8.1
とびばこ	男子	22.0	25.7	31.8	13.1	7.4
	女子	12.8	25.7	30.1	19.7	11.7
ボール投げ	男子	33.1	21.6	26.7	11.3	7.3
	女子	13.5	17.2	35.3	21.1	12.9
かけっこ	男子	22.1	23.8	27.9	14.5	11.7
	女子	15.2	22.3	30.6	19.0	12.9
なわとび	男子	13.5	23.4	35.8	20.0	7.3
	女子	13.2	28.9	39.1	13.9	4.9
ドッジボール	男子	18.5	28.3	33.9	12.6	6.7
	女子	10.1	18.5	33.8	21.0	16.6
マラソン	男子	17.6	18.4	28.8	17.7	17.5
	女子	7.3	14.3	28.4	26.6	23.4
サッカー	男子	16.3	20.8	36.0	16.9	10.0
	女子	7.9	29.3	28.9	31.1	
けんすい	男子	5.5	11.3	23.9	28.0	31.3
	女子	3.3	7.3	22.7	28.1	38.6

とくに「サッカー」などでは、ひときわ上手な子どもがボールをキープして、他の子を一気に抜き去ろうとする光景を見かける。こういう子どもがいては、鈍い子はどうしようもない。「ドッジボール」でも、弱い子は力のある子に真っ先にターゲットにされる。

そう考えると上位に並んでいる種目は、「水泳」や「とびばこ」の他に、女子の「なわとび」など、つらければ自分のペースで休みながらやれるもの、相手との接触や奪い合

い・ぶつけ合いではなく、自分の動作でスタートし自分のペースやリズムで行えるものである。同じボールゲームでも「ボール投げ」の場合は、自分のペースやリズムで投げ始められるようなやり方ができる分だけ、「得意」寄りのポイントになっているのではないだろうか。

以上のような点に、＜運動の苦手意識＞につながる要素が隠れているのかもしれない。

表 2 - 1 具体的運動種目の「得意度」× 性

(平均値)

	男子	女子
水泳	2.6	2.6
とびばこ	2.5	2.9
ボール投げ	2.4	3.0
かけっこ	2.7	2.9
なわとび	2.8	2.7
ドッジボール	2.6	3.2
マラソン	3.0	3.4
サッカー	2.8	3.8
けんすい	3.7	3.9

(値が小さい方が「得意」である)

運動の苦手な子の得意な種目、苦手な種目)))

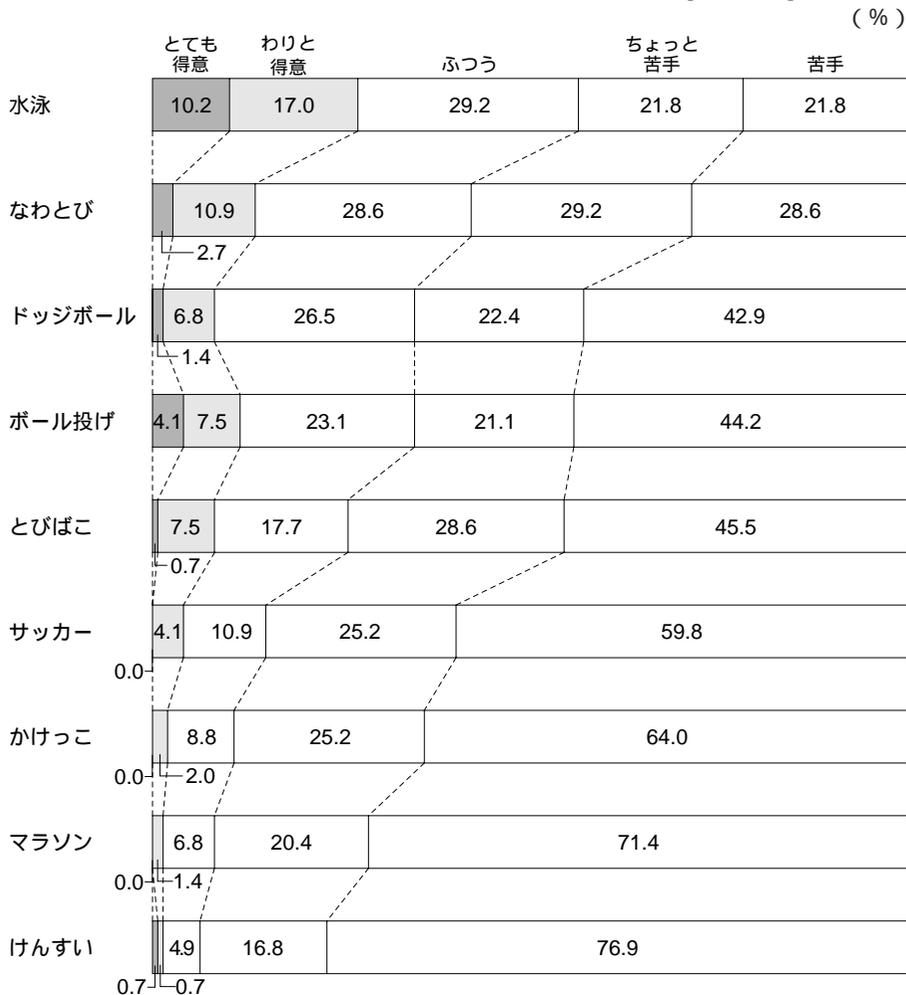
運動が得意か苦手かを聞いた質問で「とても苦手」と答えた「苦手群」(148人)だけを対象にして、具体的な運動種目の得意・苦手についての結果を図2-3に表した。

この図は「ちょっと苦手・苦手」の回答の少ない項目から並べてある。

「けんすい」は図2-1の全体においても「得意」と答えた子が少ないので、ここで

「ちょっと苦手・苦手」が94%であるのは妥当な結果だが、「かけっこ」「マラソン」についての「ちょっと苦手・苦手」は全体では30~40%であったのに、ここではともに約90%が「ちょっと苦手・苦手」と答えている。この3種目については約6~8割が「苦手」と回答しており、「かけっこ」「マラソン」「けんすい」が運動の苦手意識につながる種目

図2-3 具体的運動種目の得意・苦手(苦手群)



だという予想を指示する結果であった。

「とびばこ」は、全体では「得意」が約40%で上位にあったが、苦手群においては「得意」はほとんどいなくなってしまう。その分、全体では10%であった「苦手」の回答が苦手群の50%近くにもなることがわかる。先に、体育の授業などでの個別課題の設定や指導方法の工夫などにより達成感を得られれば「得意」の自己評価も増える可能性があることを述べたが、それでもうまくできなかった子には余計にがっかりした気持ちが起こりやすいかもしれない。「かけっこ」や「マラソン」と並んで、従来から苦手意識の原因となりやすいと考えられている理由はそうしたところにあるのだろうか。ただ、全体では肯定的評価をする子が多かったことをみれば、「とびばこ」の苦手については周囲が対処してあげられるものであるように思われてならない。

「水泳」や「なわとび」の場合は、先にも述べた通り自分のペースで動作を起こし動きやリズムを自分でコントロールできるものであるので、「苦手」は比較的少なく、「得意」

と答えた子も約20%いる。運動全般のイメージとして自分は運動が苦手だと思っている子が、この種目については「とても得意」と答えられるのだから、苦手意識の克服を考える際に参考にしたい結果である。

ボールゲームの場合も先に述べた通りで、人からの攻撃を受けたり力量の差が現れやすいなどの要素があるほど苦手と感じやすいはずだが、「ボール投げ」「ドッジボール」とも40%以上が「苦手」と答えている中に、わずかながら「得意」の回答がみられた。ボール投げでは能動的な楽しみ方がありうることや、「ドッジボール」ではチーム編成やゲーム方法の工夫によって、自称「運動の苦手な子」にも活躍の機会が与えられる可能性がいま見える。この点「サッカー」は「とても得意」が皆無になるなど結果は思わしくない。上手な子の独り舞台になりやすいなど、「運動の苦手な子」には出番がなくなるような競技特性があるという見方もできるが、「水泳」や「なわとび」とは逆の意味で、運動の苦手意識克服を考えるヒントになるだろう。

運動の〈得意・苦手意識〉 と実際の得意・苦手)))

実際の運動種目の得意・苦手も5段階の選択肢で尋ねたので、この数字をもとに相関係数を求めて表2-2に示した。また、例として「かけっこ」の場合について、クロス集計結果を表2-3に示してある。

「かけっこ」「マラソン」「とびばこ」などの得意・苦手は、一般的な運動の得意・苦手の自己評価との相関が高かった。「運動の得意・苦手」において「とても苦手」と答えた苦手群148人についてみると、「かけっこ」「マラソン」「とびばこ」の個々にも「苦手」と答えた子はそれぞれ94人、105人、67人であった。逆に「水泳」の得意・苦手は一般的

な運動の得意・苦手の自己評価との相関があまり高くなく、運動の苦手意識とは別の次元で考えられているようであった。一般的な「運動の得意・苦手」において「とても苦手」と答えていて「水泳」にも「苦手」と答えたのは32人で、上の3種目よりぐっと少ない。そればかりか運動が「とても苦手」と自己評価をしていながら「水泳」については「とても得意」と答えた子が15人もあって、「かけっこ」「マラソン」「とびばこ」では「とても得意」がそれぞれ0人、0人、1人であったのとはかなりの違いがある。

今回の調査だけではこの理由を明らかにす

ることはできないが、学校のプールやスイミングの人気の高いことが関係しているのであろうか。それとも「水泳」という種目自体の特性であろうか。

いずれにしても、運動が苦手な子がそれを

克服するためにスポーツをするなら、本人の好みを最優先するのは当然であるが、手始めにはボールゲームや集団スポーツではなくて「水泳」が向いているということはいえるかもしれない。

表 2 - 2 「具体的運動種目」 × 「運動が得意か」(相関係数)

	相関係数 r
かけっこ	0.71
とびばこ	0.56
マラソン	0.56
ドッジボール	0.50
サッカー	0.49
ボール投げ	0.49
なわとび	0.44
けんすい	0.43
水泳	0.21
合計スコア	0.75

表 2 - 3 「運動が得意か」 × 「かけっこが得意か」

(%)

		かけっこ				
		とても得意	わりと得意	ふつう	ちょっと苦手	苦手
運 動	とても得意	8.7	2.8	1.0	0.1	0.0
	わりと得意	7.2	11.8	5.8	1.2	0.6
	ふつう	2.4	7.4	16.2	5.0	2.4
	少し苦手	0.3	0.8	5.7	8.5	4.6
	とても苦手	0.0	0.1	0.7	1.9	4.8

運動種目で苦手が多い子の傾向))

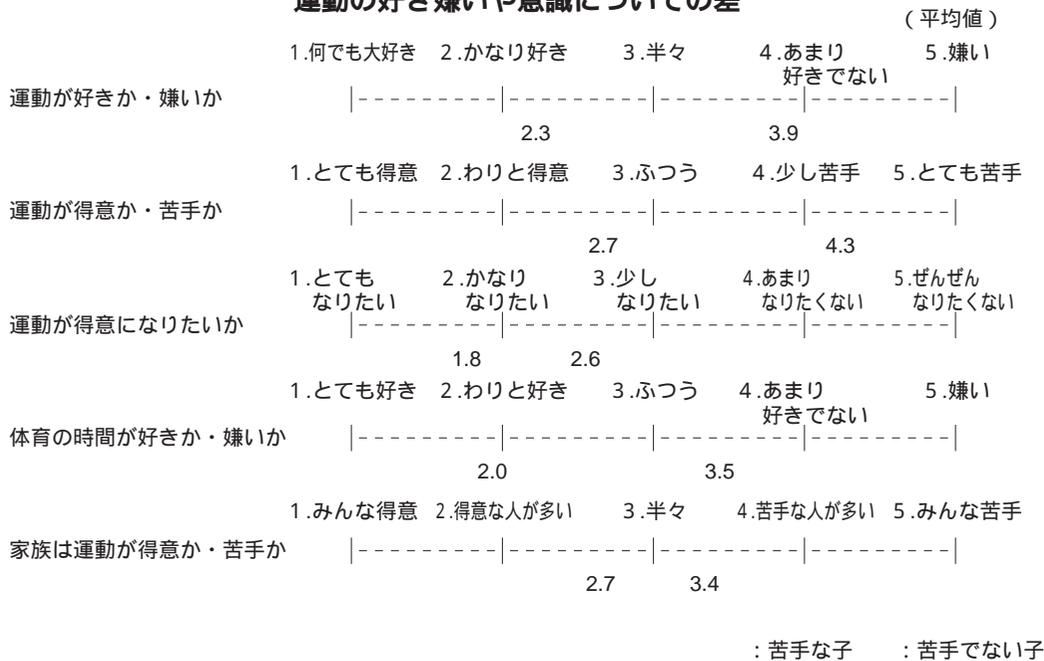
具体的な運動種目について「苦手」と回答した種目の数が5つ以上の子とそれ以外の子にグループを分けて、好き嫌いや意識についての質問項目への回答との関連を調べてみた。各質問項目の回答は5段階の選択肢となっているので、この回答の数値の平均値を求めてグループ間の差についてt検定を行ったところ、図2-4に示すような項目に有意な差がみられた ($p < 0.05$)。

例えば「運動が好きか嫌いか」については、「苦手でない子」群（具体的運動種目による）では平均値から判断するとおおよそ「半々」と「かなり好き」の間になっているのに、

「苦手な子」群では「あまり好きでない」のあたりに回答が集まっているという風に解釈することができる。「運動が得意か」についてもほぼ同様で、「苦手でない子」群は「ふつう」に近いのだが、「苦手な子」群の場合には「少し苦手」と「とても苦手」の間になっているのがわかる。他の3つの質問についても似た傾向がみられた。

* t検定 = 標本の母集団分布が正規型であることを前提として、2つの平均値の間に有意な差があるかどうかの検定。ふつうは $p < 0.05$ 以下の場合に有意差があるとみなし、 p (数値)が小さければ小さいほど有意となる。

図2-4 運動種目での「苦手な子」と「苦手でない子」別の運動の好き嫌いや意識についての差



< 部分苦手 > と < 全部苦手 >)))

「運動が得意か苦手か」の質問に「とても苦手」と答えた「苦手群」を対象に、実際に何が苦手なのかを調べるために、具体的運動種目の得意・苦手を尋ねた結果について、該当者の中の典型的な回答パターンを表2 - 4に示した。

Aは「苦手」と答えたのは「ドッジボール」1つだけであるが、他のものはすべて「ふつう」か「ちょっと苦手」であり、運動全般には「とても苦手」という意識を持つのも仕方ないかもしれない。一方BやCは、「とても

得意」も含めて得意なものが多い中で、どれか1つだけに「苦手」と答えている。これでも、運動全般では「とても苦手」と答えているのはどういう心境からだろうか。苦手なものはたった1つでも、印象が強烈で運動全般の苦手意識につながるのだとすると、これは「部分苦手」とでも呼ぶべきケースではないだろうか。

D～Gのように「苦手」の数が2、3、4個と増えていくと、全体的に「ふつう」や「ちょっと苦手」も多くなり、概して「運動が

表2 - 4 具体的運動種目の得意・苦手に対する回答例（苦手群の代表例）

ケース 性別	A 女	B 男	C 男	D 女	E 男	F 男	G 女	H 女	I 女	J 男
「苦手」の数	1	1	1	2	3	4	4	7	8	8
かけっこ	4	3	2	3	5	5	5	5	5	5
マラソン	4	4	2	4	5	5	5	5	5	5
サッカー	4	5	4	4	3	4	5	5	5	5
ドッジボール	5	1	2	1	4	3	4	2	4	5
水泳	3	1	1	2	2	3	4	1	5	5
とびばこ	3	4	1	5	4	5	5	5	5	5
なわとび	3	2	1	4	3	3	3	5	5	5
けんすい	4	3	5	4	5	5	3	5	5	5
ボール投げ	4	1	3	5	3	1	4	5	5	1

1：とても得意 2：わりと得意 3：ふつう 4：ちょっと苦手 5：苦手

「苦手」という意識を持つのも自然であると感じられるケースが目立っている。また、「苦手」の数が4つの場合を例にとると、該当者の7～8割で「かけっこ」「マラソン」「けんすい」のすべてに「苦手」と回答されていた。ここに例を示さなかった子も含めて、「苦手」の数が4つの場合には、この傾向がみられた。逆に「水泳」「なわとび」「ボール投げ」には「苦手」が少なく、「とても得意」の回答もみられた。

一方、H～Jのように「苦手」の数が7つ8つの場合には、興味深い回答パターンがみられる。Iの場合は「ちょっと苦手」が1つ

ある他はすべて「苦手」で、典型的な「全部苦手」のケースであるが、Jのようにほとんどが「苦手」でありながら、唯一「苦手」でないボール投げが「とても得意」となっているケースもあった。Hでも同様に「苦手」でないところは2か所で、「とても得意」「わりと得意」の回答となっている。HやJは、ほとんどすべてで苦手な中に1つだけでも「とても得意」と思えるものを持っていることで、救われているように思われる。このような「1つの種目」を手がかりに、得意感覚を広げて運動の苦手意識を克服することができれば素晴らしいことである。

実際の運動能力)))

実際の運動能力を尋ねる目的で、「鉄棒のさか上がり」がどのくらいできるかと、「立ち幅とび」「走り高とび」「50m走」の記録を聞いた。

「さか上がり」についての回答は図2 - 5の通りであった。「らくにできる」と答えた子が37%で最も多いが、「できない」との回答も21%あった。

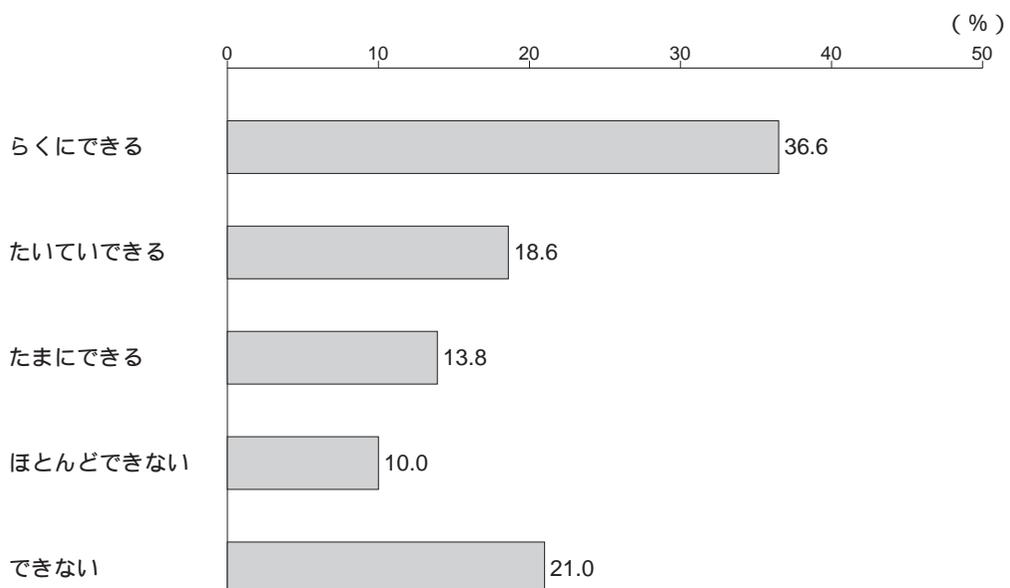
運動全般について「運動が得意か」と尋ねた質問に対する回答ごとにグループを分け、「さか上がり」への回答の帯グラフを書くと図2 - 6のようになり、「さか上がり」ができるかどうかと運動全般の得意・苦手の意識との関係が強いことがよくわかる。

「立ち幅とび」「走り高とび」「50m走」の記録についての回答を見る際には注意が必要である。この3項目に関しては、これまで計測した中での各人の最高記録を記入してもら

う形式であったが、結果的に「覚えていない」または無記入のケースがそれぞれ82%、75%、66%と非常に多かった。また「立ち幅とび」や「走り高とび」に「走り幅とび」の記録と思われる値が記入されているケースも相当数あって、実質的に有効な回答はそれぞれ、全体の15%、19%、33%しかなかった。

経験的にみて、運動に興味のある子の場合にはこの種の記録にはこだわりを持って記憶している場合が多く、実際に今回記入された数値には100分の1秒の細かさで書かれたものが多かったが、運動にそれほど興味がない子ども場合には、測定後の時間が経過していると忘れてしまうものなのであろうか。もうひとつ考えられる理由として、記録というのは勉強の成績と同様で、つい他の人と比べてしまうものなので、思わしくない記録は頭に残らなかつたり覚えていてもアンケートに

図2 - 5 さか上がりができるか



は記入したくないと考える気持ちがあっても不思議ではない。

試みに、一般的な「運動が得意か」の質問に対する回答ごとにグループを作り、それぞれに「50m走」の記録の記入の有無を調べてみたのが図2-7である。やはり、運動が苦手になるにつれて「記入なし」の割合が高くなり、運動の苦手群の8割は「50m走」の記録を記入していなかった。記入されている記録は、運動が苦手でない子のものが多いことになり、集計結果をストレートに受け止めて考察することはあまり正確ではないと判

断することとした。

ここでは、男女や学年による差異よりも、運動の得意・苦手による差異についてみておいた方が意味があると思われるので、上記のことを念頭において、「運動が得意か」の質問に対する回答と「50m走」タイムの平均値との関係を調べて表2-5に示した。きわめて当然の結果かもしれないが、自己評価として運動が「得意」と思っている子と運動が「苦手」と思っている子では、「50m走」の記録の差は1.6～2.5秒にもなっている。

図2-6 「運動が得意か」×「さか上がりができるか」

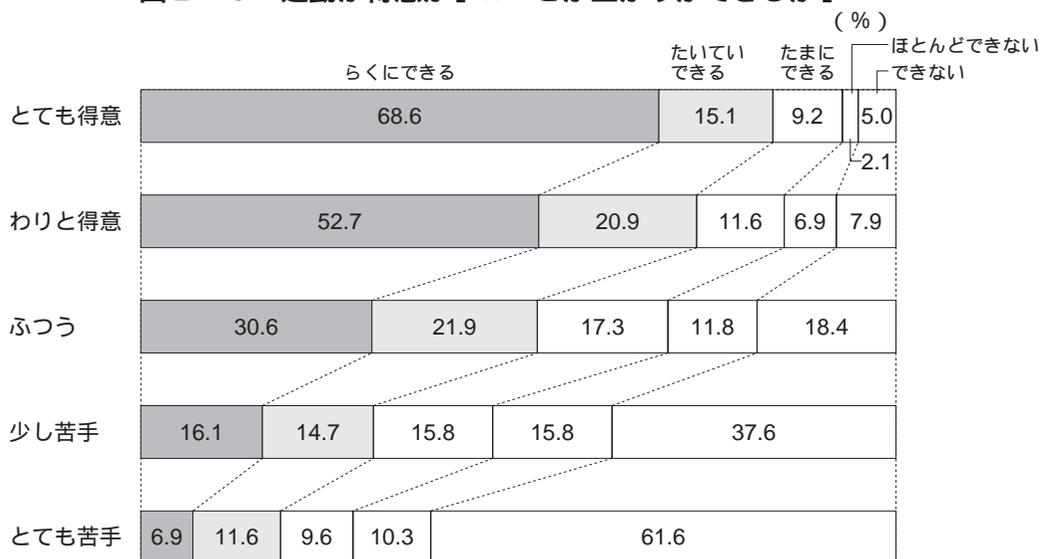


図 2 - 7 「運動が得意か」 × 「50m走」の記録記入率

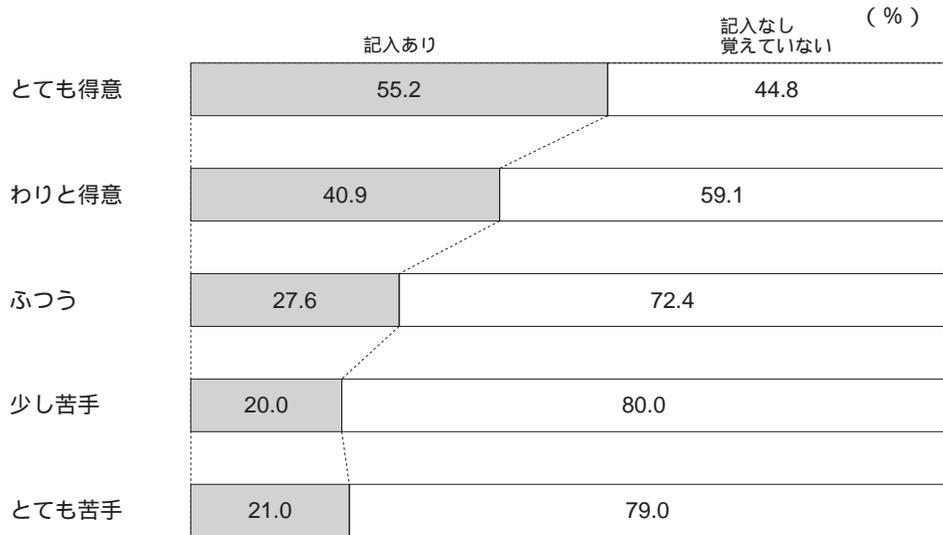


表 2 - 5 「50m走」タイムの平均値 × 「運動が得意か」 × 性・学年

(秒)

	全 体	5 年		6 年	
		男 子	女 子	男 子	女 子
とても得意	8.44	8.72	8.71	8.00	8.44
わりと得意	8.98	9.18	9.66	8.39	8.81
ふつう	9.38	9.43	9.69	9.13	9.27
少し苦手	9.93	10.00	10.35	9.86	9.61
とても苦手	10.30	10.41	10.43	10.53	10.01

3

運動の苦手な子の現在



家族と一緒にする運動)))

1) 親と一緒にするスポーツ

父親と一緒にするスポーツとしてあげられた種目は表3-1にあるように、全体では「キャッチボール」「水泳」「バドミントン」の順である。

男子では「キャッチボール」「水泳」「サッカー」の順で、「キャッチボール」が群を抜いて多い。女子では「水泳」「バドミントン」「キャッチボール」「サイクリング」の順で、女子の場合でも「キャッチボール」が3位にあがっている。

こうしてみると、家の付近で手軽にできるスポーツのなんと少ないことだろう。「キャッチボール」の他は、「バドミントン」やボール蹴り程度の「サッカー」くらいである。

女の子も父親とよく「キャッチボール」をする子がみられた。

また同じく表3-1の母親と一緒にするスポーツも、全体としては「バドミントン」「水泳」「キャッチボール」の順だが、男子では「キャッチボール」「バドミントン」「水泳」、女子では「バドミントン」「水泳」「サイクリング」の順である。それにしても、母親も男の子の「キャッチボール」につきあう姿がみられる。また「水泳」も健闘している。公営プールやスイミングスクールの普及と共に、家族の努力もあるのだろう。

さらに表3-1の家族そろってするスポーツは、全体では「水泳」「バドミントン」「キャッチボール」「サイクリング」が上位にあがっている。地域差もありそうなので、試み

に「水泳」について学校別に集計してみると、東京の区部ほど割合が高く、逆に低かったのは、おもしろいことに千葉県南部の海に近い地区の学校だった。また「テニス」「ゴルフ」など、父母の好むスポーツに子どもも親しん

でいる様子が見えてくる。スポーツに親しみを持ち、運動嫌いを作らないためには、両親とのスポーツが一役買いそうである。この点を見るために次の分析を試みた。

表 3 - 1 父親・母親・家族とするスポーツ

順位	父親と一緒に するスポーツ	母親と一緒に するスポーツ	家族そろって するスポーツ
1	キャッチボール	バドミントン	水泳
2	水泳	水泳	バドミントン
3	バドミントン	キャッチボール	キャッチボール
4	サイクリング	サイクリング	サイクリング
5	サッカー	テニス	山登り
6	ランニング(ジョギング)	ランニング(ジョギング)	テニス
7	卓球	なわとび	卓球
8	バスケットボール	卓球	ランニング(ジョギング)
9	テニス	山登り	ドッジボール
10	山登り	バレーボール	サッカー
11	ドッジボール	バスケットボール	バスケットボール
12	ゴルフ	ドッジボール	なわとび・ゴルフ
13	なわとび	鉄棒	—
14	鉄棒	ゴルフ	バレーボール
15	バレーボール	サッカー	鉄棒

2) 苦手とのかかわり

第2章でみた「運動種目の得意・苦手」についての質問で、5つ以上に「苦手」と回答した子と「それ以外の子」とで2群を作り、「家族との運動」の度合いと比べてみた。以下、前者を「運動種目による苦手群」と表記しておく。

まず、親とするスポーツの15種目のうち、がついた数を数えて比較したところ、表3-2のように「運動種目による苦手群」がつけられた数の平均値は、「それ以外の子」の半分以下であった。とりわけ、苦手な子と苦手でない子の差が大きい種目は、「キャッチ

ボール」「バドミントン」「水泳」「サイクリング」「ランニング(ジョギング)」であった。原因か結果かは別として、苦手な子は家族とスポーツをする機会が少ないことがわかる。

先にみたように「運動が苦手」なのに「ぜんぜん・あまり運動が得意になりたくない」子が61人いたが、「家族とする運動」種目の約半数で61人全員が「そうした運動をしない」と答えていた。裏を返せば、家族と運動をしない傾向の子は、「苦手でも、得意になろうと思わない」など、運動に対して屈折した思いがあるのかもしれない。この点からも、家族と運動することの意義がかいま見えるかのようである。

表3-2 「運動種目による苦手群」と「それ以外の子」での「家族とする運動」の差 (平均値)

	「運動種目による苦手群」	「それ以外の子」
父親とする運動の種目数	0.8	1.8
母親とする運動の種目数	0.5	1.2
家族そろってする運動の種目数	0.4	0.9

塾・おけいごと・スポーツ教室など)))

塾・おけいごと・スポーツ教室に通う子の割合の男女別・学年別集計を表3-3に、「運動が得意か」×「塾などに通っているか」のクロス集計を表3-4に示した。

1) 塾とおけいごと

全体として通塾者は約5割だが、男子でやや多く、学年では6年生がやや多くなる。「運動の得意・苦手」との関連では、運動が得意

な子ほど塾に通う割合が高く、得意群は他より10%近く多い。運動が得意な子は、何にでも積極性や意欲があるのだろうか。おけいごとに通う子は約6割だが、女子に多く72%。また、6年生では若干少なくなる。「運動の得意・苦手」との関連では、「とても得意」な子が通う割合は最も低く、運動が苦手な子ほどわずかにおけいごとに通う割合が増える。しかし大きな差ではない。

表3-3 「塾などに通っている」割合 × 性・学年

(%)

	全 体	性 別		学 年	
		男 子	女 子	5 年	6 年
塾	54.7	58.7	50.8	51.0	58.6
おけいごと	58.7	43.1	71.8	61.7	55.4
スポーツ教室	50.4	61.6	38.3	55.1	45.5

表3-4 「運動が得意か」×「塾などに通っているか」

(%)

	塾	おけいごと	スポーツ教室
とても得意	62.1	55.4	68.6
わりと得意	55.0	57.6	64.1
ふつう	54.8	59.4	45.2
少し苦手	50.6	61.7	34.9
とても苦手	53.5	58.3	29.3

2) スポーツ教室

スポーツ教室に通うのは男子が多く6割、女子は男子の約半数である。また、6年生では5年生よりもやや少なくなる。また運動の得意な子ほどスポーツ教室に通う割合が多い。例えば運動の得意群の7割近くがスポーツ教室に通うが、苦手群では3割を切る。得意な子の場合に、得意だから通うのか、通うから得意になるのかどちらだろうか。第1章でみた、「得意かどうか」と「得意になりたいかどうか」のクロス集計の結果では「とても得意で、(もっと)得意になりたい」子が90%で、「とても苦手で、得意になりたい」子の40%を大きく引き離していたが、それも考え合わせるとこの結果の意味がわかる。得意な子はずっと上手になりたいと思い、スポーツ教室にも通っている。その結果、いっそう運動好きに、また運動が得意になっていくという循環が生じているのであろう。

3) 通っているスポーツ教室の種類 (巻末の集計表参照)

全体では、「水泳」>「野球」>「サッカー」の順である。

男子は「野球」34%>「水泳」26%>「サッカー」16%で、スポーツ教室に通う男子の3人に1人、男子全体でみても5人に1人が「野球」を習っていることになり、「野球」にはやはり根強い人気がある。次いで「水泳」で、4人に1人。「野球」が健闘しているわりに「サッカー」が低率なのは意外だったが、昨今のサッカーブームの低迷と関連があるのだろうか。

一方、女子は「水泳」35%>「バスケットボール」11%>「テニス」「ドッジボール」がともに10%>「バレーボール」9%の順である。「クラシックバレエ」や「バトントアリング」などは、女子のみの教室があるなど種類が多いが、割合はあまり高くない。「バスケットボール」も、地域によって「ミニ・バスケットボール」のチームが学校ごと、地区ごとにあるなどで盛んな場合もあるが、地域差が大きいのも事実である。

運動の得意・苦手との関係を見てみると、苦手群でスポーツ教室に通っている場合は「水泳」が非常に多く半数以上となっていることが目についた。

4) 塾などに通う日数

塾・おけいごと・スポーツ教室に何も通っていない子は全体の12%であった。巻末の「習いごとに行かない日」の集計表から、通っている場合の日数がわかるが、男女差や学年差はほとんどなく、全体としては3日を最頻値として割合の多い順に4日>2日>5日と順に振り子の様子を示している。どこにも行かない日が0日や1日で、残りの6~7日はとにかくどこかへ出かけているという忙しい子も、何かに通っている子の17%と結構いる。

運動が得意・苦手による違いについては、得意群の方がむしろ通う日数が7日、6日、5日などで多めになっている。運動の得意な子の方が塾やおけいごとやスポーツ教室に関しても積極的な生活をしている傾向なのであろうか。

好きなこと)))

1) いちばん好きな教科と嫌いな教科 (表3-5)

いちばん好きな教科は、全体では「体育」33% > 「図工」16% > 「音楽」13% > 「家庭科」12%の順だが、男子では「体育」が4割を超え、女子は「体育」と「音楽」が2割。男子は「算数」をあげた子が14%で女子8%のほぼ2倍あり、女子で「音楽」を好きな教科とする子は男子の約5倍である。

運動の得意・苦手で見ると、運動の得意な子は当然のことながら「体育」が好きで、苦手な子は「理科」「音楽」「図工」「算数」

が好きと答える子が多い。運動が得意な子は「体育」に「好き」が集中するのに対して、運動が苦手になるにつれ、多くの教科への散らばりがみられるのも興味深い。

またいちばん嫌いな教科は、全体としては「算数」27% > 「社会」21% > 「国語」16%の順である。男子は「国語」> 「算数」> 「社会」> 「音楽」の順に、また女子では「算数」> 「社会」> 「理科」> 「国語」の順に、嫌いな割合が多くなる。

運動の得意・苦手で見ると、運動が苦手になるほど「体育」が嫌いな子の割合が増えるが、他教科では大きな差はない。

表3-5 いちばん好きな教科 × 全体・性・「運動が得意か」

		(%)							
		国語	算数	社会	理科	音楽	図工	体育	家庭科
全 体		4.0	10.9	4.8	6.7	13.1	15.9	33.0	11.6
男 子		3.1	14.0	6.8	9.5	4.6	14.0	43.2	4.8
女 子		4.9	7.9	2.8	3.8	21.9	17.9	22.2	18.6
運 動	とても得意	2.0	6.9	3.3	1.2	3.7	3.7	75.9	3.3
	わりと得意	1.9	9.8	2.5	3.8	10.2	12.1	51.6	8.1
	ふつう	4.0	11.5	6.8	6.4	14.0	17.5	26.1	13.7
	少し苦手	6.0	12.5	5.0	11.5	21.4	22.7	3.1	17.8
	とても苦手	9.7	13.1	6.2	14.5	14.5	26.8	1.4	13.8

2) テレビの視聴時間とテレビゲームの頻度 (巻末の集計表参照)

テレビの視聴時間は、全体としてみると3～4時間が最も多く、「4時間以内」に全体の6割が分布している。残りの4割が「4時間以上」テレビを見ている実態は、今回のテーマとは離れるが問題を感じる。またテレビゲームをする時間は性差が大きく、男子は「だいたい毎日する・する日の方が多い」が48%

だが、女子は「たまにする・ぜんぜんしない」が76%もいる。

テレビゲームをどれくらいするかと運動の得意・苦手の関係を図3-1に示したが、テレビゲームを「ぜんぜんしない」子は運動の苦手群に23%、得意群に18%と、多少の差がみられる。また、テレビゲームを「だいたい毎日する」のは苦手群で最も多いが、「だいたい毎日する・する日の方が多い」と答えたのは得意群で最も多かった。

図3-1 「テレビゲームをどれくらいするか」×「運動が得意か」

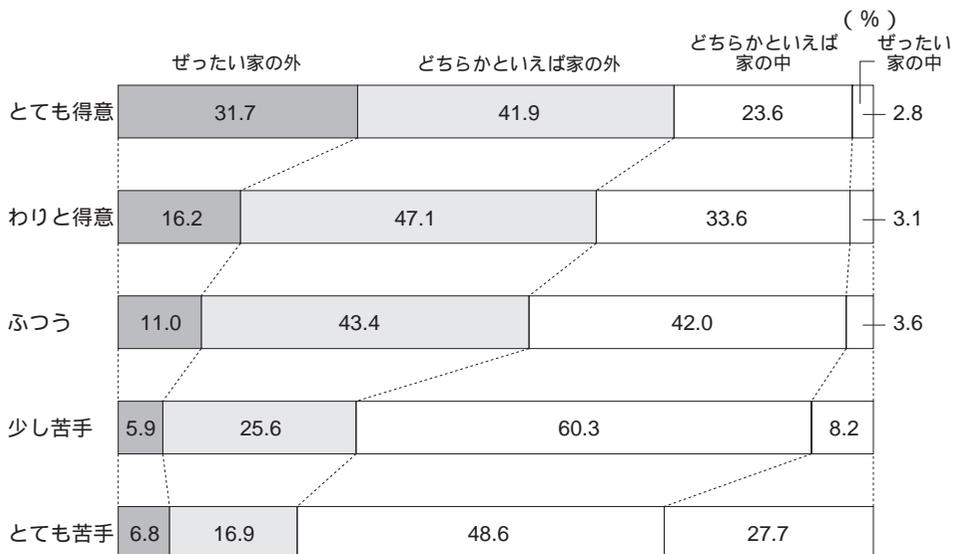
	(%)				
	だいたい毎日する	する日の方が多い	半々くらい	たまにする	ぜんぜんしない
とても得意	19.5	17.5	15.4	30.1	17.5
わりと得意	16.3	16.6	17.2	32.7	17.2
ふつう	15.6	12.3	13.6	38.2	20.3
少し苦手	15.4	13.6	14.1	34.0	22.9
とても苦手	21.1	8.8	13.6	33.4	23.1

運動の得意な子は得意でない子よりも、テレビゲームにも関心が高い傾向はなぜだろうか。運動の得意な子はテレビゲームをやらず、苦手な子がよくやっているように思われるが、そのイメージはどうも実際とは違うようだ。物事に対する興味・関心や意欲の高さ、活動性などの側面からこの問題をとらえ直した方がよさそうである。

3) 家の内と外、遊び場の好み

全体としても男女別でも、家の外と中の好みは半々である。運動の得意・苦手で見ると、図3-2の通り、運動が得意な子ほど外で遊ぶ方を好み、苦手な子は家の中を好む傾向がかなり強く出ている。得意群では「ぜったい・どちらかといえば家の外」が74%だが、苦手群では24%と差が大きく開く。他方「どちらかといえば・ぜったい家の中」は、その逆

図3-2 「家の外と中のどちらで遊ぶのが好きか」×「運動が得意か」



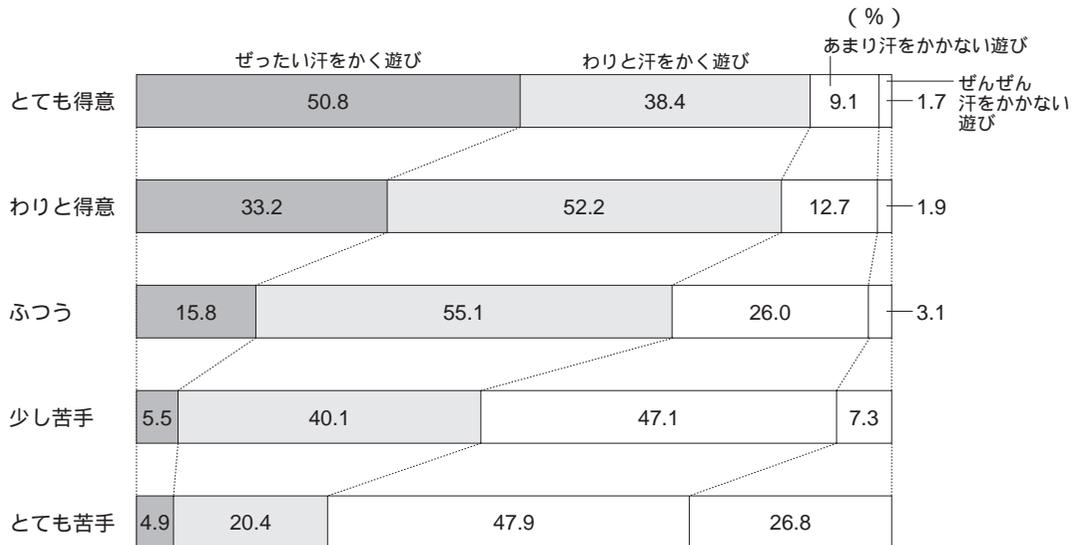
になっている。

4) 汗をかく遊び、かかない遊び

全体としては、「ぜったい・わりと汗をかく遊び」を好きとする子が69%もいるが、運動の得意・苦手からみると、図3-3の通り、

得意群は汗をかく遊びを好み（「ぜったい・わりと汗をかく遊び」が好き89%）、苦手群は汗をかかない遊びを好む（「あまり・ぜんぜん汗をかかない遊び」が好き75%）傾向が顕著である。

図3-3 「汗をかく遊びが好きか」×「運動が得意か」



学校が終わってから)))

1) 帰宅してからの外遊び

(巻末の集計表参照)

全体としては、「毎日のように遊びに行く・遊びに行く日の方が多い」が3割、「半々くらい」「たまに遊びに行く」がそれぞれ全体の4分の1程度、「ほとんど遊びに行かない」が2割弱である。

男女ではやや差があり、「毎日のように遊びに行く」が男子で17%に対し女子は6%、「毎日のように遊びに行く・遊びに行く日の方が多い」は、男子で39%女子では24%。「ほとんど遊びに行かない」は男子で15%、女子で20%というような差であった。

運動の得意・苦手からみると、図3-4のように、得意な子ほど「毎日のように遊びに行く」比率が上がり、苦手な子ほど「ほとんど遊びに行かない」比率が上がる。「たまに

遊びに行く・ほとんど遊びに行かない」の場合は得意群で33%、苦手群で62%となっている。

「運動が得意」「汗をかく遊びが好き」「外へ遊びに行く」の相互に関連があることは興味深い。外遊びと運動能力や運動の好みに互いに支え合う要素があるということが考えられる。「遊びの外志向と中志向」もこれらと似た傾向で、運動が得意な子には強い外志向があり、苦手な子は家の中志向がある、ということがわかる。

ただし、運動の得意な子は概して外志向ではあるが、テレビゲームをする時間をみると、彼らはテレビゲームでもしっかり遊んでいる。1つには、テレビゲームにもスポーツ関連のソフトがあり、そのこととも関係があるのかもしれない。得意群、苦手群で遊ぶソフトにどんな違いがあるかを調べてみるのもおもしろいのではなからうか。

図3-4 「帰宅後外に遊びに行くか」×「運動が得意か」

	(%)				
	毎日のように遊びに行く	遊びに行く日の方が多い	半々くらい	たまに遊びに行く	ほとんど遊びに行かない
とても得意	19.4	25.4	22.6	18.5	14.1
わりと得意	14.9	22.8	27.6	23.2	11.5
ふつう	10.0	18.9	27.1	28.0	16.0
少し苦手	6.2	16.5	20.4	34.0	22.9
とても苦手	6.8	8.8	22.4	27.2	34.8

2) よく行く遊び場 (巻末の集計表参照)

全体としては「友だちの家」が47%で、群を抜いている。男子では「グラウンド」と答えた子が女子の3倍強いるが、割合自体は7%弱にとどまっている。女子は「家のまわり」と答えた子が男子よりやや多い程度である。

運動の得意・苦手との関連をみても、「公園」「家のまわり」「友だちの家」などは、大きな差はみられない。わずかに、「グラウンド」に行く子の割合が、運動が得意な子ほど多くなる傾向がある。

結果としては<外志向>の子が多いと先に述べたものの、<外には遊びに行くけれど、行き先は友だちの家>というパターンもありそうである。友だちの家も自宅の外と考えたのか、友だちの家で遊ぶ場合も「外に遊びに行く」と答えている可能性が捨てきれないた

め、この結果を読む際には少し注意が必要であろう。「屋外で遊ぶ」という概念が、現代の子ども意識の中で薄くなっていることの現れかもしれない。

3) 行き先の遠い・近いとかかる時間 (巻末の集計表参照)

遊びに行く際に、「とても・わりと近い」ところという子が76%、「少し・とても遠い」ところという子が24%。この割合は男女間、学年間でもほとんど差がなかった。運動の得意な子が遠方にまで足を伸ばすかと思っただ、差はみられなかった。

行き先までの時間は徒歩で「20分未満」が80%弱。「30分以内」を加えると9割を超える。学年差、性差はない。自転車利用の場合も「20分未満」が94%で、20分が子どもの行動範囲の1つの境界線といえそうである。

4

運動の苦手な子の現在と小さい頃



運動の苦手な子は、今どんな過ごし方をしているか。小さい頃はどんな子だったのか。

またそれが、運動の得意・苦手の形成要因となっているのだろうか。

運動の苦手な子の特徴 - 現在)))

1) 運動の得意な子は「おなかが丈夫でたくさん食べる」

「おなかが丈夫でたくさん食べる」について全体でみると、「とても・わりとそう」が40%を超え、この年齢の子どもたちの元気さが見えてくる。男女別にみると、男子で5割を超え、女子は4割弱と多少の性差がある(巻末の集計表参照)。

運動の得意・苦手との関連は図4-1に示したが、「とても・わりとそう」と答えたのは、「とても得意」52%、「わりと得意」50%、「ふつう」「少し苦手」ともに38%と

苦手になるにつれてたくさん食べる子が減っていくが、「とても苦手」になると52%とまた数字がはねあがる。運動の得意な子ほど、食欲旺盛でよく食べよく眠り、よく動く、という一般的なイメージ通りの結果だが、対極の運動が「とても苦手」な子がなぜ大食なのだろう。「おなかが丈夫でたくさん食べる」と自己像の「太っている」との相関係数を計算してみると0.21で、弱いながらも有意な相関がみられる。それも合わせて考えると、この52%には「よく食べて、太っている」子どもが多く含まれているのかもしれない。

図4 - 1 「おなかが丈夫でたくさん食べる」×「運動が得意か」

	（％）				
	とてもそう	わりとそう	少しそう	あまり そうでない	違う
とても得意	23.0	28.6	29.1	15.3	4.0
わりと得意	17.3	32.5	25.4	21.0	3.8
ふつう	13.8	23.7	33.0	24.6	4.9
少し苦手	15.7	22.4	32.8	24.5	4.6
とても苦手	27.1	25.2	24.5	18.4	4.8

図4 - 2 「部屋でのんびりしたり、本を読んだりするのが好き」×「運動が得意か」

	（％）				
	とてもそう	わりとそう	少しそう	あまり そうでない	違う
とても得意	16.9	15.7	18.5	28.3	20.6
わりと得意	15.2	20.6	25.9	23.5	14.8
ふつう	19.9	23.9	25.3	18.7	12.2
少し苦手	30.9	22.9	24.0	14.7	7.5
とても苦手	46.6	17.8	17.8	5.5	12.3

2) 運動の苦手な子はのんびりしたり
読書好き

運動の得意・苦手との関連では、図4 - 2
のように「部屋でのんびりしたり、本を読ん

だりするの好き」の割合は苦手な子ほど高
くなり、得意群の17%から徐々に増加し、
苦手群では47%となり、約半数にまでなっ
ている。運動の苦手な子の不活発さが浮かび
上がる。

運動の苦手な子の特徴 - 小さい頃)))

1) 家で遊ぶ方が多かった

全体としては「あまりそうでない・違う」が60%を超え、外遊びの機会も多かったと答えている。性差はほとんどない。

しかし、運動の得意・苦手との関連では、

運動の苦手な子は家での中遊びが多かった傾向があり、得意な子には外遊びの傾向が現れている。図4-3からわかる通り得意群は70%以上が家より外で遊ぶことが多かったと答え、苦手群の39%を大きく上回る。

図4-3 「小さい頃、家で遊ぶ方が多かった」×「運動が得意か」

(%)

	とても そう	わりと そう	少し そう	あまり そうでない	違う
とても得意	10.1	7.7	10.1	33.1	39.0
わりと得意	4.7	13.8	13.2	34.2	34.1
ふつう	8.2	12.7	19.9	31.5	27.7
少し苦手	7.5	16.3	19.9	31.0	25.3
とても苦手	23.1	17.7	20.5	15.6	23.1

2) 親がよく外で遊んでくれた

全体としては「とても・わりとそう」を合わせて56%で、「あまりそうでない・違う」を合わせた21%を大きく上回っている。この傾向は男女間で差はない。

運動の得意・苦手による差を図4-4で見ると、運動が得意な子の場合ほど「両親がよく外で遊んでくれた」と答えた割合が高く、「とても得意」や「わりと得意」の子で「とても・わりとそう」が6割を超えている。逆に「とても苦手」な子は「とても・わりとそう」の割合が約40%にとどまり、運動の得意・苦手と両親が外遊びに連れだした頻度や触れ合いには関連がありそうである。

3) テレビやビデオをよく見ていた

全体としては「とてもそう」「わりとそう」「少しそう」がほぼ同率で25%前後、「あまりそうでない」と「違う」を合わせた24%とで全体を4分している。これは男女でも同傾向を示している。

図4-5に示した運動の得意・苦手との関

連では、苦手群で、「とても・わりとそう」が6割を超える。また得意群でも「とても・わりとそう」が54%と半数を超えているのも興味深い。ただ、予想したほど運動の得意・苦手意識と小さい頃からのテレビ・ビデオ視聴の頻度に差がなく、得意な子も苦手な子も同様にテレビを見ていたということには意外な感想を持った。メディアの時代を改めて感じる。

ここまで過去の体験や自分の傾向についてみてきたが、「運動の得意・苦手」によって興味深い違いがみられたので、主なものについて「運動種目による苦手群」と「それ以外」での差がわかるように図4-6に示した。数値は、これらの項目への回答の平均値を「苦手群」と「それ以外」で比較したものである。

「小さい頃、両親がよく外で一緒に遊んでくれた」子の方が、今、運動が苦手でない傾向にあり、「小さい頃、外で遊ぶより、家で遊ぶ方が多かった」子や「部屋でのんびりしたり、本を読んだりするのが好き」な子は、運動が苦手なことがわかる。「テレビ・ビデオを

図4-4 「小さい頃、両親がよく外で遊んでくれた」×「運動が得意か」

	とてもそう	わりとそう	少しそう	あまり そうで ない	(%) 違う
とても得意	35.5	24.9	20.8	9.4	9.4
わりと得意	31.3	31.6	19.9	11.6	5.6
ふつう	28.1	23.6	25.4	14.4	8.5
少し苦手	23.9	29.8	25.5	13.8	7.0
とても苦手	19.4	21.5	28.5	13.9	16.7

よく見ていた」はあまり差がなかった。裏返せば、テレビは運動が好きな子も嫌いな子もよく見るのだろう。

「おなかが丈夫でたくさん食べる」も差はそれほど大きくなかった。経験的に、おとなで能力の高いスポーツ選手はおなかが丈夫な傾向

がみられるが、子ども時代の「運動の好き嫌い」「運動の得意・苦手」とあまり関連はなさそうである。おなかが丈夫でなくても「運動が好き」や「運動が得意」でいられることは、歓迎できる結果といえそうである。

図4 - 5 「小さい頃、テレビやビデオをよく見ていた」 × 「運動が得意か」

	(%)				
	とてもそう	わりとそう	少しそう	あまりそうでない	違う
とても得意	27.4	26.6	19.8	14.1	12.1
わりと得意	21.8	25.1	25.5	21.5	6.1
ふつう	23.2	26.4	28.3	16.3	5.8
少し苦手	21.6	29.3	26.2	17.7	5.2
とても苦手	35.6	24.7	21.9	10.3	7.5

図4 - 6 「運動種目による苦手群」と「それ以外」での「過去の経験や自分の傾向」の差



遊びの中での様々な体験)))

ここでは、子どもたちの感覚を大事にした聞き方を工夫して、言葉のそばにその運動を子どもがしている写真をつけた。資料1～3はその写真の例である。

資料1 写真(ぶら下がる)



資料2 写真(すべる)



資料3 写真(よじ登る)



1) 運動の得意な子、苦手な子がしていた遊び

図4-7に、遊びの中での体験の集計結果を示したが、男女の差はほとんどないようである。「よく・ときどきやった」割合から、遊び項目の全体を通してしてみると、最も高いのは「高いところののって遊ぶ」や「少し高いところから飛び降りる」で、男女とも約80%であった。「森や林の中に入って遊ぶ」が40%以下なのを除けば、いずれも50～80%となっていて体験は豊かだといえるだろう。「森や林の中に入って遊ぶ」という遊び方の体験率は低かったが、身近に森や林がないなど環境条件によるものだろう。

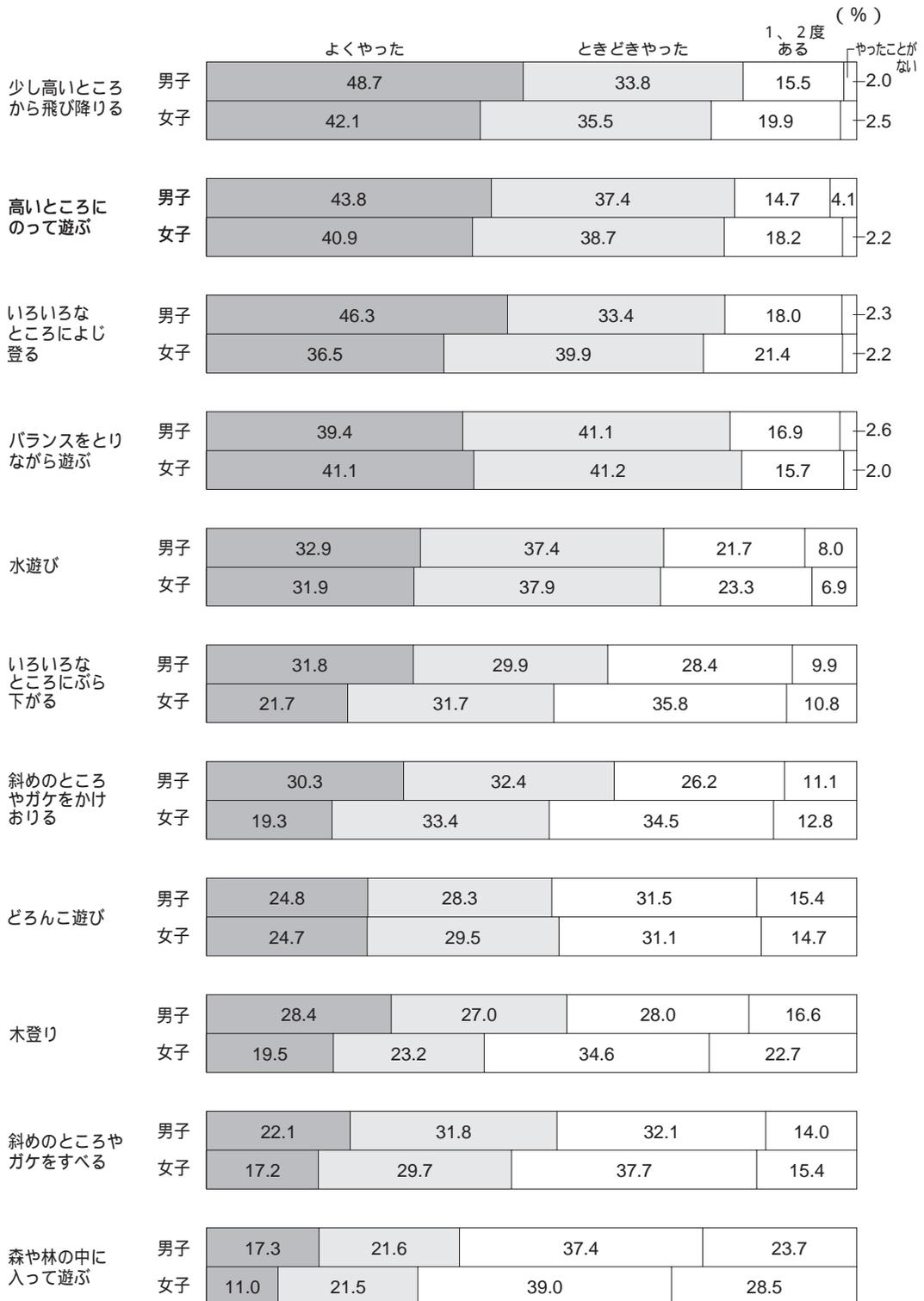
次に、表4-1に示すのは、「よく・ときどきやった」割合を全体、得意群、苦手群で比べたものである。苦手群の場合は全体に比べて、「よく・ときどきやった」の割合が一樣に少なくなる傾向があり、得意群との差はかなり大きいものもある。

苦手群でも体験している割合が高いのは、「バランスをとりながら遊ぶ」70%、「高いところから飛び降りる」65%、や「水遊び」「高いところののって遊ぶ」「いろいろなところによじ登る」である。反対に少ないのは、「木登り」26%、「森や林の中に入って遊ぶ」27%、「いろいろなところにぶら下がる」32%などであった。

とくに両群で差が大きいのは、「木登り」の70%と26%、「いろいろなところにぶら下がる」73%と32%、「高いところののって遊ぶ」「斜めのところやガケをかけおりる」「斜めのところやガケをすべる」などである。

これらの、「木登り」「ぶら下がる」「高いところののって遊ぶ」「斜面をかけおりる」などは、<高いところからの動き系>とくく

図4 - 7 遊びの中での体験 × 性



ることができそうだ。苦手群では、この系統の動きの体験が少ないようである。「ぶら下がる」という動きを例にとると、高いところに登ったり飛びついたりという準備のための動きがあり、また、高いところに自分の手でぶら下がることには覚悟や決心が必要である。覚悟や決心の場面では補助者の存在が大きく、親が遊んでくれたかどうか、多彩な運動を体験させてくれたかどうかで、この種目の体験率には違いが出たのだろうと推察できる。小学生高学年でも、「うんてい」が苦手な端まで渡りきれない子がいるが、そうした子の多くは、体育などに対して確かに消極的である。

登ることについても、自分の体重分を引き上げて「よじ登る」という動作をしない場合には腕や背筋が発達する機会が得られないといわれている。そういう意味からも、「木登

り」の体験は、運動が得意か苦手かの違いをみるときのキーとして使えるように思われる。

体力・運動能力の発達という視点から遊びの質を考えると、「高さの変化」というのは大きな意味があり、これらの遊び体験の差は運動体験の質の差となって、その後に影響してくるのではないだろうか。

2) 遊びの中での体験の意味

表4-1でみた全体と苦手群との比較と同様のことを、別の角度からも確かめることができる。

先の第3章で「具体的な運動種目の得意・苦手」の回答をもとに「苦手群」と「苦手でない群」の比較をしたが、「遊びの中での様々な体験」の度合いについてもこのグループで比較した。差がみられたものの例を図4-8

表4-1 遊びの中での体験 × 運動得意・苦手

(%)

	全 体	得意群	苦手群
バランスをとりながら遊ぶ	81.4	87.8	69.9
高いところののって遊ぶ	80.4	92.6	61.6
少し高いところから飛び降りる	80.2	89.5	65.1
いろいろなところによじ登る	78.1	88.2	61.6
水遊び	70.1	78.9	63.0
斜めのところやガケをかけおる	57.8	75.0	44.2
いろいろなところにぶら下がる	57.6	73.0	32.4
どろんこ遊び	53.6	59.0	47.0
斜めのところやガケをすべる	50.5	61.9	36.7
木登り	49.1	69.8	25.8
森や林の中に入って遊ぶ	35.7	49.2	26.5

「よく」+「ときどき」やった割合

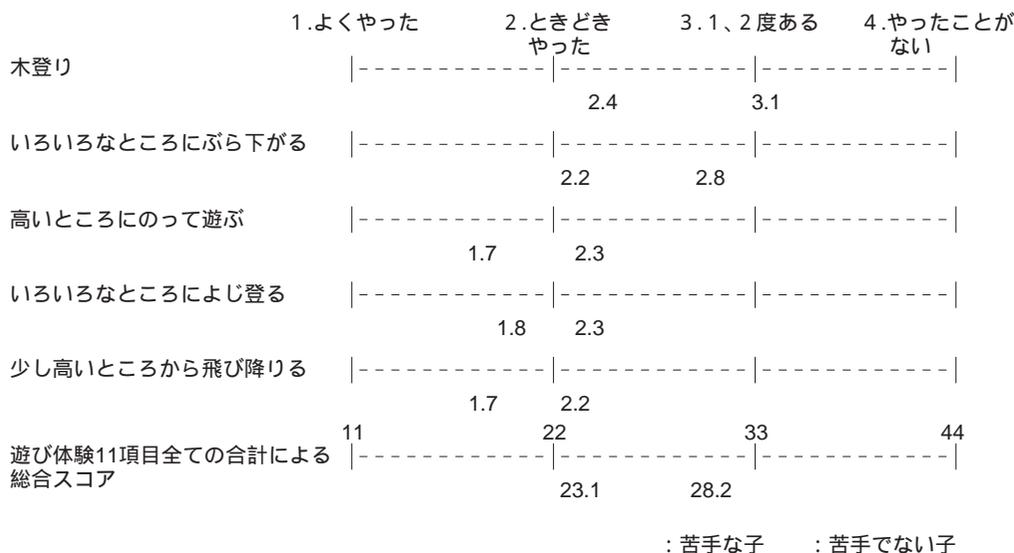
に示す。これらはいずれも「登る」「ぶら下がる」「飛び降りる」という要素を含んだものであることがわかる。「運動の苦手な子」とそうでない子の間の差が大きいという結果から、「もともと運動が苦手な子は、登ったり飛び降りたりする遊びは好まない」という解釈をする人も、「登ったり飛び降りたりを含んだような遊びに馴染んできたかどうか、運動の好き嫌いにも影響してくる」と解釈する人もあるだろう。

これまで筆者らが子どもの遊びや運動を観察してきた経験をもとに考えると、小さい頃からこのような遊びができる場所へ行って、そうした動作に少しずつ慣れ親しんでいる子は、登ったり飛び降りたりを楽しいと感じるような「活動的な子」であるように思う。原因か結果かは決められないが、運動の好き嫌

いを自覚するより前の幼少の段階から「こういう遊びに馴染むこと」と「活動的で活発であること」はお互いに影響し合って、ますますその関連が強まっていくのではないだろうか。おとなが、そういう機会を与えるか、「やめなさい」と遠ざけるかで、子どもがそれに慣れもするし、不慣れにもなるものだと考えられるので、小さい頃から外へ出ることや、こうした遊びに慣れるようにおとなが配慮してやるのが、「運動の苦手な子」を作らないためには重要ではなからうか。

そうだとすれば、すでに「運動が苦手」になってしまった子でも、このような遊び方に慣れて、運動が得意な子と共に遊ぶことを経て、徐々に苦手意識や嫌い意識から解放される可能性は十分あると思われる。

図4 - 8 「運動種目による苦手群」と「それ以外」での「遊びの中での体験」の差
(平均値)



5

運動の苦手な子の心理と友人関係



入学式で同じスタートをした子どもたちも、学年が進むにつれて、運動が得意な子・苦手な子に分かれてくる。むろんその他の教科の成績の良し悪しもそうかもしれないが、運動の得意と苦手は授業中だけでなく、子どもたちの遊び時間でも仲間から日常的に評価され

るわけで、もしかしたら子どもの友人関係や自己形成により大きな影響を及ぼすことも考えられる。本章では、子どもの自己像や友人関係に、＜運動の得意・苦手＞がどう影響するかをみていきたい。

運動の苦手な子の自己像)))

表5-1は子どもたちの自己像である。子どもがとらえている「自分」は、上位から「友だちが多い」「がんばる」「汗をかきやすい」で、いかにも子どもらしいイメージがあげられている。しかしすぐ下には「疲れやすい」などと、およそ子どもらしくない回答もみられる。

表5-2で自己像の性差をみると、「汗を

かきやすい」で「とてもそう」と答えた男子は41%、女子は21%とかなりの差がみられる($P < 0.001$)。同様に有意な性差を拾うと、男子は「勉強が得意」、そして意外にも「気が弱い」「おとなしい」も男子の自己像である。また女子では「給食を残す」「どんくさい」となっている。

表5 - 1 自己像

(%)

	とてもそう	少しそう	違う
友だちが多い	50.7	39.1	10.2
がんばる	33.5	52.3	14.2
汗をかきやすい	31.2	42.8	26.0
疲れやすい	19.2	43.1	37.7
心がやさしい	17.4	55.5	27.1
給食を残す	16.7	39.7	43.6
よくリーダーになる	16.3	32.4	51.3
あまり質問しない	16.0	42.4	41.6
親切	12.3	58.8	28.9
勉強が得意	12.2	46.9	40.9
太っている	10.5	31.3	58.2
どんくさい	9.5	31.2	59.3
気が弱い	6.9	29.2	63.9
おとなしい	4.9	27.3	67.8
いじめられやすい	4.9	15.7	79.4

表5 - 2 自己像 × 性

(%)

		とてもそう	少しそう	違う	
友だちが多い	男子	51.5	39.1	9.4	
	女子	49.7	39.2	11.1	
がんばる	男子	34.0	50.9	15.1	
	女子	33.1	53.6	13.3	
汗をかきやすい	男子	40.9	40.2	18.9	
	女子	21.3	45.4	33.3	***
疲れやすい	男子	19.4	43.0	37.6	
	女子	18.9	43.3	37.8	
心がやさしい	男子	17.8	53.5	28.7	
	女子	16.9	57.7	25.4	
給食を残す	男子	15.4	35.3	49.3	
	女子	18.1	44.2	37.7	***
よくリーダーになる	男子	15.7	32.9	51.4	
	女子	16.8	31.9	51.3	
あまり質問しない	男子	15.1	42.8	42.1	
	女子	16.8	42.2	41.0	
親切	男子	13.6	55.6	30.8	
	女子	10.9	62.0	27.1	
勉強が得意	男子	15.9	48.5	35.6	
	女子	8.5	45.3	46.2	***
太っている	男子	11.3	28.0	60.7	
	女子	9.7	34.7	55.6	
どんくさい	男子	7.7	27.7	64.6	
	女子	11.2	34.9	53.9	***
気が弱い	男子	8.4	31.3	60.3	
	女子	5.4	27.1	67.5	***
おとなしい	男子	6.6	29.7	63.7	
	女子	3.1	24.8	72.1	***
いじめられやすい	男子	5.6	16.1	78.3	
	女子	4.3	15.3	80.4	

* p<0.05 ** p<0.01 *** p<0.001

次に運動の苦手な子と得意な子の自己像の違いをみしてみる。

ここでは表5-3に示したように、「あなたは運動が得意か」に対して「とても得意」と答えた子(男子17%、女子8%)を得意群、「とても苦手」(男子5%、女子10%)と答えた子を苦手群とした。

表5-4をみると、得意群と苦手群の間には多くの項目で、自己イメージに有意差がみられる。両群の間に関連がみられなかったのは「汗をかきやすい」「給食を残す」「おとなしい(男子のみ)」「あまり質問しない(男子のみ)」だけで、あとはすべて運動が苦手かどうかと自己像は有意に関連が見いだされる。これを図示したのが図5-1である。

これを念のため性別でみると、表5-5(1)、表5-5(2)ようになる。男子をみると、「とてもそう」と答えた子は、「友だちが多い」で得意群69%に対して苦手群は26%、「がんばる」では56%に対して13%と大きな差を示している。同様に運動を得意とする子は自分を「親切」「勉強が得意」「よくリーダーになる」「心がやさしい」とポジティブに評価しており、逆に運動の苦手な子は自分を「気が弱い」「太っている」「どんくさい」「疲

れやすい」「いじめられやすい」とネガティブにとらえている。

女子も同様で、「友だちが多い」は得意群69%、苦手群41%、「がんばる」も73%、19%と大差が示されている。同様に運動が得意な子は「親切」「勉強が得意」「よくリーダーになる」「心がやさしい」、苦手な子は「おとなしい」「気が弱い」「太っている」「どんくさい」「疲れやすい」「あまり質問しない」と自己否定的である。

知的能力、社会性、情緒性などが、この結果が示すほど運動能力と関係があるとは、まず考えられない。とすると、これはどう解釈できるのか。運動能力の優劣は日常的に目に見える形で現れるため、自己像の他の側面に過大に投影されるのかもしれない。また次に検討するが、運動の得意・不得意で一般的なイメージが形成されていて、それを自分にあてはめることや、他からの役割期待に応える形で行動するなどの結果と考えることもできる。

たかが運動能力の差がこれほど性格形成に影響するとしたら、どの子にも、できるだけ運動能力を高めるようなプログラムが開発される必要があるのではないだろうか。

表5-3 「運動が得意か」× 性

	(%)				
	とても得意	わりと得意	ふつう	少し苦手	とても苦手
男子	17.4	30.9	32.2	14.1	5.4
女子	7.8	22.3	34.6	25.7	9.6

P < 0.001

「とても得意」と答えた者を得意群、「とても苦手」と答えた者を苦手群とした。

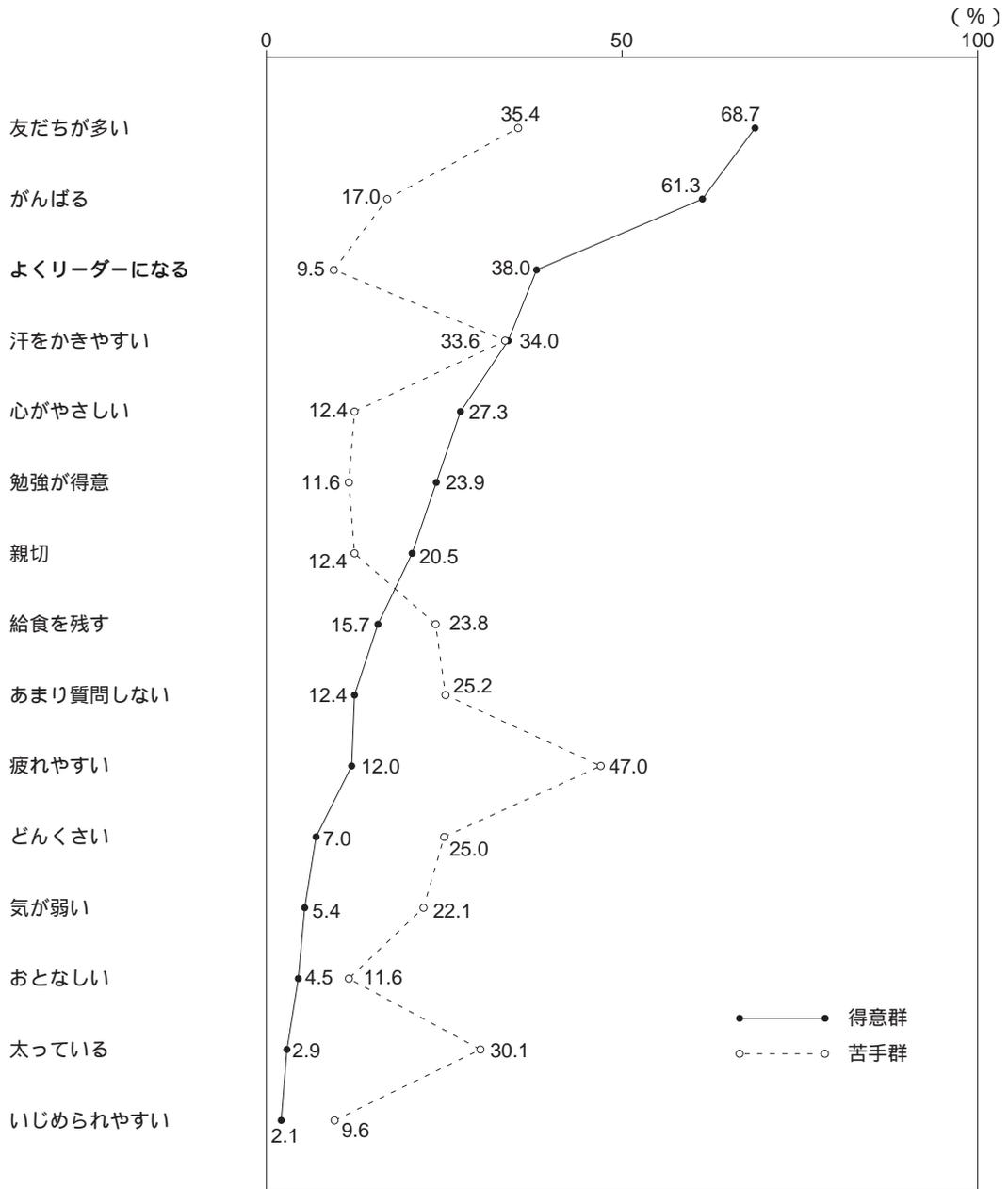
表5 - 4 自己像 × 運動得意・苦手

(%)

		とてもそう	少しそう	違う	
友だちが多い	得意群	68.7	24.7	6.6	***
	苦手群	35.4	39.4	25.2	
がんばる	得意群	61.3	29.6	9.1	***
	苦手群	17.0	56.5	26.5	
よくリーダーになる	得意群	38.0	33.5	28.5	***
	苦手群	9.5	19.7	70.8	
汗をかきやすい	得意群	34.0	39.8	26.2	***
	苦手群	33.6	35.6	30.8	
心がやさしい	得意群	27.3	50.0	22.7	***
	苦手群	12.4	43.8	43.8	
勉強が得意	得意群	23.9	45.2	30.9	***
	苦手群	11.6	34.9	53.5	
親切	得意群	20.5	55.3	24.2	***
	苦手群	12.4	42.1	45.5	
給食を残す	得意群	15.7	31.4	52.9	***
	苦手群	23.8	32.0	44.2	
あまり質問しない	得意群	12.4	41.3	46.3	**
	苦手群	25.2	36.1	38.7	
疲れやすい	得意群	12.0	31.0	57.0	***
	苦手群	47.0	37.4	15.6	
どんくさい	得意群	7.0	15.6	77.4	***
	苦手群	25.0	40.3	34.7	
気が弱い	得意群	5.4	15.0	79.6	***
	苦手群	22.1	27.6	50.3	
おとなしい	得意群	4.5	20.1	75.4	**
	苦手群	11.6	27.2	61.2	
太っている	得意群	2.9	13.6	83.5	***
	苦手群	30.1	37.0	32.9	
いじめられやすい	得意群	2.1	9.9	88.0	***
	苦手群	9.6	27.4	63.0	

* p<0.05 ** p<0.01 *** p<0.001

図5 - 1 自己像 × 運動得意・苦手



「とてもそう」の割合

表5 - 5(1) 自己像 × 運動得意・苦手(男子)

		(%)			
		とてもそう	少しそう	違う	
友だちが多い	得意群	68.7	26.0	5.3	***
	苦手群	25.9	42.6	31.5	
がんばる	得意群	56.2	34.3	9.5	***
	苦手群	13.0	50.0	37.0	
よくリーダーになる	得意群	37.5	33.3	29.2	***
	苦手群	7.4	14.8	77.8	
汗をかきやすい	得意群	36.7	39.0	24.3	***
	苦手群	51.8	35.2	13.0	
心がやさしい	得意群	26.6	48.0	25.4	***
	苦手群	11.1	33.3	55.6	
勉強が得意	得意群	23.2	45.8	31.0	**
	苦手群	16.7	38.9	44.4	
親切	得意群	20.1	53.9	26.0	***
	苦手群	9.3	35.2	55.5	
給食を残す	得意群	16.7	29.2	54.1	***
	苦手群	22.2	24.1	53.7	
あまり質問しない	得意群	11.9	47.0	41.1	***
	苦手群	13.0	37.0	50.0	
疲れやすい	得意群	11.9	31.0	57.1	***
	苦手群	51.9	29.6	18.5	
どんくさい	得意群	6.0	11.9	82.1	***
	苦手群	24.1	35.2	40.7	
気が弱い	得意群	6.1	15.8	78.1	***
	苦手群	32.1	22.6	45.3	
おとなしい	得意群	6.5	23.1	70.4	***
	苦手群	13.0	22.2	64.8	
太っている	得意群	3.6	11.9	84.5	***
	苦手群	33.3	37.1	29.6	
いじめられやすい	得意群	0.6	11.2	88.2	***
	苦手群	18.5	25.9	55.6	

* p<0.05 ** p<0.01 *** p<0.001

表5-5(2) 自己像 × 運動得意・苦手(女子)

(%)

		とてもそう	少しそう	違う	
友だちが多い	得意群	68.9	21.6	9.5	
	苦手群	40.9	37.6	21.5	***
がんばる	得意群	73.0	18.9	8.1	
	苦手群	19.4	60.2	20.4	***
よくリーダーになる	得意群	39.2	33.8	27.0	
	苦手群	10.8	22.6	66.6	***
汗をかきやすい	得意群	28.0	41.3	30.7	
	苦手群	22.8	35.9	41.3	
心がやさしい	得意群	28.8	54.8	16.4	
	苦手群	13.3	50.0	36.7	***
勉強が得意	得意群	25.3	44.0	30.7	
	苦手群	8.7	32.6	58.7	**
親切	得意群	21.3	58.7	20.0	
	苦手群	14.3	46.1	39.6	*
給食を残す	得意群	13.5	36.5	50.0	
	苦手群	24.7	36.6	38.7	
あまり質問しない	得意群	13.5	28.4	58.1	
	苦手群	32.3	35.4	32.3	***
疲れやすい	得意群	12.2	31.1	56.7	
	苦手群	44.1	41.9	14.0	***
どんくさい	得意群	9.3	24.0	66.7	
	苦手群	25.6	43.3	31.1	***
気が弱い	得意群	4.0	13.3	82.7	
	苦手群	16.3	30.4	53.3	***
おとなしい	得意群	0.0	13.3	86.7	
	苦手群	10.8	30.1	59.1	***
太っている	得意群	1.3	17.3	81.4	
	苦手群	28.3	36.9	34.8	***
いじめられやすい	得意群	5.4	6.8	87.8	
	苦手群	4.3	28.3	67.4	**

* p<0.05 ** p<0.01 *** p<0.001

運動の苦手な子のイメージ)))

このように、運動能力に大きく左右された自己像がなぜ生じるのか。もしかしたらこの差は実態ではなく、運動の苦手な子、得意な子についての一般的イメージがすでに子どもの間にできあがっていて、それが自己像に影響を及ぼしているとも考えられる。この点を検討してみよう。

表5-6は子どもたちに「運動の苦手な子」というと、どんな子を思い浮かべるか」と聞いた結果である。

表が示すように、運動の苦手な子のイメージの1位は「疲れやすい」で、「とてもそう」「少しそう」を合わせると約8割にも達している。2位は「気が弱い」で、以下「おとなしい」「太っている」「あまり質問しない」と、5位までネガティブな項目が並ぶ。逆に否定率の高い項目をみると、表の下部「リーダーにならない」「友だちが少ない」となっている。いずれにせよ、ネガティブなイメージである。

表5-6 運動の苦手な子のイメージ

(%)

	とてもそう	少しそう	違う
1. 疲れやすい	37.2	43.1	19.7
2. 気が弱い	34.4	40.6	25.0
3. おとなしい	32.3	48.2	19.5
4. 太っている	28.9	36.9	34.2
5. あまり質問しない	27.6	38.8	33.6
6. 勉強が得意	26.1	36.3	37.6
7. 心がやさしい	25.2	37.5	37.3
8. どんくさい	23.4	40.4	36.2
9. いじめられやすい	22.4	29.4	48.2
10. 給食を残す	21.4	38.2	40.4
11. がんばる	20.1	30.4	49.5
12. 汗をかきやすい	18.3	27.8	53.9
13. 親切	17.9	42.8	39.3
14. 友だちが多い	9.7	29.2	61.1
15. よくリーダーになる	6.4	15.0	78.6

念のため、性別で運動の苦手な子のイメージを比較してみると、表5 - 7が示すように、有意差のある項目は少なく、男女とも運動が苦手な子のイメージは似通っている。女子は男子より「勉強が得意でない」「親切でない」

「友だちが少ない」と価値的な特性を否定する傾向がみられる。それに比べて、男子は女子より「おとなしくない」「太っている」「汗をかきやすい」と評価する傾向がある。

表5 - 7 運動の苦手な子のイメージ × 性

		(%)		
		とてもそう	少しそう	違う
1. 疲れやすい	男子	39.4	39.4	21.2
	女子	34.9	46.7	18.4
2. 気が弱い	男子	35.5	38.8	25.7
	女子	33.3	42.5	24.2
3. おとなしい	男子	30.9	46.9	22.2
	女子	33.7	49.5	16.8
4. 太っている	男子	33.4	33.6	33.0
	女子	24.4	40.1	35.5
5. あまり質問しない	男子	28.8	39.4	31.8
	女子	26.3	38.4	35.3
6. 勉強が得意	男子	29.8	36.3	33.9
	女子	22.4	36.3	41.3
7. 心がやさしい	男子	24.7	39.0	36.3
	女子	25.7	36.1	38.2
8. どんくさい	男子	24.9	39.6	35.5
	女子	21.9	41.1	37.0
9. いじめられやすい	男子	23.2	29.6	47.2
	女子	21.5	29.2	49.3
10. 給食を残す	男子	21.8	37.8	40.4
	女子	21.0	38.6	40.4
11. がんばる	男子	20.1	31.2	48.7
	女子	20.2	29.6	50.2
12. 汗をかきやすい	男子	22.9	27.9	49.2
	女子	13.5	27.8	58.7
13. 親切	男子	17.8	45.6	36.6
	女子	17.9	40.1	42.0
14. 友だちが多い	男子	11.0	30.8	58.2
	女子	8.3	27.6	64.1
15. よくリーダーになる	男子	6.9	17.0	76.1
	女子	5.9	12.9	81.2

* p<0.05 ** p<0.01 *** p<0.001

さらに表5 - 4 でみた自己像では両群間で差があったが、表5 - 8(1)、表5 - 8(2)に示したように、運動の苦手な子のイメージは

得意群・苦手群で差が少ない。得意・不得意は、自己像への影響の方が大きいことがわかる。それでも、男子は運動の苦手な子は得意な子

表5 - 8(1) 運動の苦手な子のイメージ × 運動得意・苦手(男子)

(%)

		とてもそう	少しそう	違う
疲れやすい	得意群	39.4	34.7	25.9
	苦手群	46.3	24.1	29.6
気が弱い	得意群	31.8	38.8	29.4
	苦手群	35.8	30.2	34.0
おとなしい	得意群	32.4	38.2	29.4
	苦手群	24.5	41.5	34.0
太っている	得意群	31.4	32.5	36.1
	苦手群	37.0	27.8	35.2
あまり質問しない	得意群	30.2	32.5	37.3
	苦手群	20.8	39.6	39.6
勉強が得意	得意群	27.6	37.7	34.7
	苦手群	40.7	27.8	31.5
心がやさしい	得意群	26.0	39.1	34.9
	苦手群	43.4	22.6	34.0
どんくさい	得意群	24.9	29.0	46.1
	苦手群	20.8	35.8	43.4
いじめられやすい	得意群	23.5	24.7	51.8
	苦手群	29.6	25.9	44.5
給食を残す	得意群	23.7	36.7	39.6
	苦手群	26.4	28.3	45.3
がんばる	得意群	25.9	27.1	47.0
	苦手群	22.2	33.3	44.5
汗をかきやすい	得意群	22.4	28.2	49.4
	苦手群	28.3	22.6	49.1
親切	得意群	19.4	43.5	37.1
	苦手群	25.9	31.5	42.6
友だちが多い	得意群	19.0	28.6	52.4
	苦手群	3.8	30.2	66.0
よくリーダーになる	得意群	9.5	16.6	73.9
	苦手群	5.7	13.2	81.1

* p<0.05 ** p<0.01 *** p<0.001

より「太っている」「心がやさしい」「友だちが少ない」というイメージを苦手群の方が強く持ち、女子では運動が苦手な子は得意な子

より「気が弱い」「おとなしい」「あまり質問しない」「給食を残す」というイメージを得意群の方が強く持っている。

表5 - 8(2) 運動が苦手な子のイメージ × 運動得意・苦手(女子)

(%)

		とてもそう	少しそう	違う	
疲れやすい	得意群	41.9	40.5	17.6	
	苦手群	37.6	50.6	11.8	
気が弱い	得意群	44.0	36.0	20.0	
	苦手群	29.0	40.9	30.1	*
おとなしい	得意群	52.0	36.0	12.0	
	苦手群	29.0	50.6	20.4	**
太っている	得意群	22.7	36.0	41.3	
	苦手群	24.2	39.5	36.3	
あまり質問しない	得意群	43.3	29.7	27.0	
	苦手群	25.3	36.3	38.4	*
勉強が得意	得意群	40.0	29.3	30.7	
	苦手群	26.9	25.8	47.3	
心がやさしい	得意群	32.4	32.4	35.2	
	苦手群	26.9	31.2	41.9	
どんくさい	得意群	28.0	36.0	36.0	
	苦手群	20.0	51.1	28.9	
いじめられやすい	得意群	27.0	27.0	46.0	
	苦手群	23.7	28.0	48.3	
給食を残す	得意群	33.8	29.7	36.5	
	苦手群	17.6	40.7	41.7	*
がんばる	得意群	33.8	23.0	43.2	
	苦手群	22.6	30.1	47.3	
汗をかきやすい	得意群	16.0	21.3	62.7	
	苦手群	18.5	35.9	45.6	
親切	得意群	22.7	33.3	44.0	
	苦手群	23.9	34.8	41.3	
友だちが多い	得意群	10.7	22.7	66.6	
	苦手群	9.7	26.9	63.4	
よくリーダーになる	得意群	9.5	10.8	79.7	
	苦手群	14.0	6.5	79.5	

* p<0.05 ** p<0.01 *** p<0.001

運動の苦手な子の学校での友人関係)))

運動が苦手な子のネガティブな自己像を確認したところで、次に学校生活での友人関係への影響をみてみよう。

「いじめ」の現状をみていくと、運動の苦手な子がターゲットになりやすいといわれる。その点をみたのが表5 - 9で、「クラスで何週間も何か月もいじめられた経験があるか」

と尋ねた結果である。

男子では、苦手群でいじめられた経験が「ある」と答えた子は19%に対して得意群は8%と予想された結果となったが、女子には差がみられなかった。男子の場合、とりわけ運動ができないことが仲間の中で弱者とみなされ「いじめ」の対象になりやすいことが示され

表5 - 9 クラスでのいじめられ体験 × 性 × 運動得意・苦手

(%)

		ある	ない	
男子	得意群	8.4	91.6	*
	苦手群	18.5	81.5	
女子	得意群	18.7	81.3	
	苦手群	15.1	84.9	

* p<0.05

表5 - 10 仲よしグループに入っている × 性 × 運動得意・苦手

(%)

		入っていない	入っている	
男子	得意群	10.8	89.2	***
	苦手群	32.1	67.9	
女子	得意群	17.1	82.9	**
	苦手群	34.4	65.6	

** p<0.01 *** p<0.001

ている。

次に、運動の苦手な子の社会性をみてみよう。表5 - 10で「仲良しグループに入っているか」をみると、男子は苦手群で仲良しグループに「入っていない」子は32%、得意群では11%で、運動の苦手な子は集団から疎外されている傾向にある。女子も苦手群34%、得意群で17%と同様だ。では運動の苦手な子が運動の得意な子よりも、クラスで仲良しグループに入っていないのはなぜか。

表5 - 11で「クラスの中に気の合う友だちがいるか」をみると、男子の得意群でクラス

に気の合う友だちが「いる」は91%、苦手群では76%、逆に気の合う友だちが「いない」と答えた男子は、得意群ではわずか10%だが苦手群で24%もいる。また女子でも同様の傾向がみられる。社会性におけるこうした苦手群の傾向は、グループの大きさにも現れている。表5 - 12が示すように、男子の得意群の仲良しグループの人数の平均値は5.8人だが、苦手群の平均値は3.1人。同様に女子も得意群の平均値は3.5人に対して苦手群は2.7人。得意群の方に友人が多く、社会性がある。

表5 - 11 クラスに気の合う友だちがいる × 性 × 運動得意・苦手

(%)

		いる	いない	
男子	得意群	90.5	9.5	***
	苦手群	75.9	24.1	
女子	得意群	88.2	11.8	*
	苦手群	75.3	24.7	

* p<0.05 *** p<0.001

表5 - 12 グループの人数(平均) × 性 × 運動得意・苦手

(人)

		グループの人数の平均値
男子	得意群	5.8
	苦手群	3.1
	全体	5.2
女子	得意群	3.5
	苦手群	2.7
	全体	3.0

次に子どもたちが、学校でどのような友人関係の中にいるかをみる。表5 - 13が示すように、学校で「わりとよく失敗する」について「とても・わりと・少しそう」と肯定した子60%、また「学校に行きたくないと思うことがある」は同様に44%。決して

少ない数字ではない。また「友だちから大事に思われていない」は29%である。仲間の中で、自己価値感が感じられずにいる子の姿が浮かび上がる。

しかし全体としては「休み時間はたいてい1人である」に「違う」と答えた子が72%、

表5 - 13 学校での友人関係

(%)

	とても+わりとそう	少しそう	あまりそうでない	違う
わりとよく失敗する	26.3	33.4	26.8	13.5
学校に行きたくないと思うことがある	16.3	27.3	27.7	28.7
あまり得意なものがない	12.7	17.3	25.7	44.3
友だちから大事に思われていない	11.0	18.4	37.9	32.7
クラスが替わると、なかなか友だちができない	6.6	7.9	22.4	63.1
休み時間はたいてい1人である	5.8	7.1	15.5	71.6
友だちと一緒にいると疲れる	5.7	9.4	21.3	63.6
友だちから無視されているような気がする	5.7	10.2	26.0	58.1

「友だちと一緒にいると疲れる」に「違う」と答えた子が64%で、世間一般でいわれるほど学校での居心地は悪くなさそうである。

念のため性別によって、学校での友人関係をみた結果が表5 - 14である。性差がみられた項目は8項目中4項目で、男子は女子よ

り「わりとよく失敗する」「友だちと一緒にいると疲れる」と答える子が多く、女子では男子より「あまり得意なものがない」「休み時間はたいてい1人でいる」子が多い。

次に、運動の苦手な子の学校での友人関係をみしてみる。

表5 - 14 学校での友人関係 × 性

		(%)				
		とても+わりとそう	少しそう	あまりそうでない	違う	
わりとよく失敗する	男子	30.0	33.6	25.3	11.1	
	女子	22.5	33.1	28.5	15.9	***
学校に行きたくないと思うことがある	男子	18.2	26.3	26.8	28.7	
	女子	14.3	28.3	28.7	28.7	
あまり得意なものがない	男子	11.4	16.1	24.6	47.9	
	女子	14.1	18.5	26.8	40.6	**
友だちから大事に思われていない	男子	12.6	18.8	36.7	31.9	
	女子	9.4	18.0	39.0	33.6	
クラスが替わると、なかなか友だちができない	男子	6.2	7.9	23.6	62.3	
	女子	6.9	8.0	21.1	64.0	
休み時間はたいてい1人でいる	男子	4.9	6.5	14.3	74.3	
	女子	6.8	7.6	16.7	68.9	*
友だちと一緒にいると疲れる	男子	6.5	10.9	23.5	59.1	
	女子	4.9	8.0	19.1	68.0	***
友だちから無視されているような気がする	男子	5.6	9.7	28.2	56.5	
	女子	5.7	10.7	23.9	59.7	

* p < 0.05 ** p < 0.01 *** p < 0.001

まず全体では表5 - 15に掲げたように、両群間で学校での友人関係に大きな差がみられる。それを図示したのが図5 - 2である。

性別で作成した表5 - 16をみると、男子女子とも、ほとんどの項目で両群の友人関係には差がみられる。唯一両群に差がなかったのは、男子の「不登校傾向」だけである。

すなわち「学校に行きたくないと思うことがある（女子のみ）」「友だちから大事に思われていない」「友だちと一緒にいると疲れる」「休み時間はたいてい1人でいる」「クラスが替わると、なかなか友だちができない」「友だちから無視されている」「あまり得意なものがない」「わりとよく失敗する」など、ほ

表5 - 15 学校での友人関係 × 運動得意・苦手

		とても そう	わりと そう	とても+わりと (小計)	少し そう	あまり そうでない	違う	(%)
わりとよく失敗する	得意群	9.7	11.7	21.4	27.2	25.1	26.3	
	苦手群	19.2	28.8	48.0	32.8	9.6	9.6	***
学校に行きたくない と思うことがある	得意群	7.3	10.1	17.4	23.9	20.6	38.1	
	苦手群	11.5	14.9	26.4	25.7	27.6	20.3	***
あまり得意なものがない	得意群	2.8	2.0	4.8	4.5	10.2	80.5	
	苦手群	22.4	22.4	44.8	26.0	12.2	17.0	***
友だちから大事に思わ れていない	得意群	3.7	7.4	11.1	11.9	29.6	47.4	
	苦手群	10.3	10.3	20.6	24.8	31.8	22.8	***
クラスが替わると、な かなか友だちができない	得意群	1.6	2.5	4.1	4.5	12.7	78.7	
	苦手群	9.6	11.6	21.2	11.6	26.7	40.5	***
休み時間はたいてい1人 でいる	得意群	2.8	0.8	3.6	2.8	7.7	85.9	
	苦手群	13.5	9.5	23.0	12.2	20.3	44.5	***
友だちと一緒にいると 疲れる	得意群	3.7	2.4	6.1	5.7	17.1	71.1	
	苦手群	7.5	4.8	12.3	13.6	17.0	57.1	***
友だちから無視されて いるような気がする	得意群	2.8	2.8	5.6	5.3	17.8	71.3	
	苦手群	9.5	3.4	12.9	14.3	27.9	44.9	***

* p<0.05 ** p<0.01 *** p<0.001

とんどすべての項目で、苦手群は自分がそうした感情を持っている、そうした状態にあることを肯定している。

すなわち運動の苦手な子は、友人関係の中でもすると孤立し、自己否定的で、抑鬱感情が強い。学校生活の中でこうした体験の中にいる彼らが、先にみたように否定的な自己

像を形成するに至ったことが推察される。

以上みてきたように、運動の苦手さは子ども人間形成に大きくかかわってくる側面がある。運動の苦手な子の運動能力をできるだけ高める方策とともに、運動の苦手な子を生み出さないような子育て、また園、学校での指導のあり方の開発を望みたいところである。

図5 - 2 学校での友人関係 × 運動得意・苦手

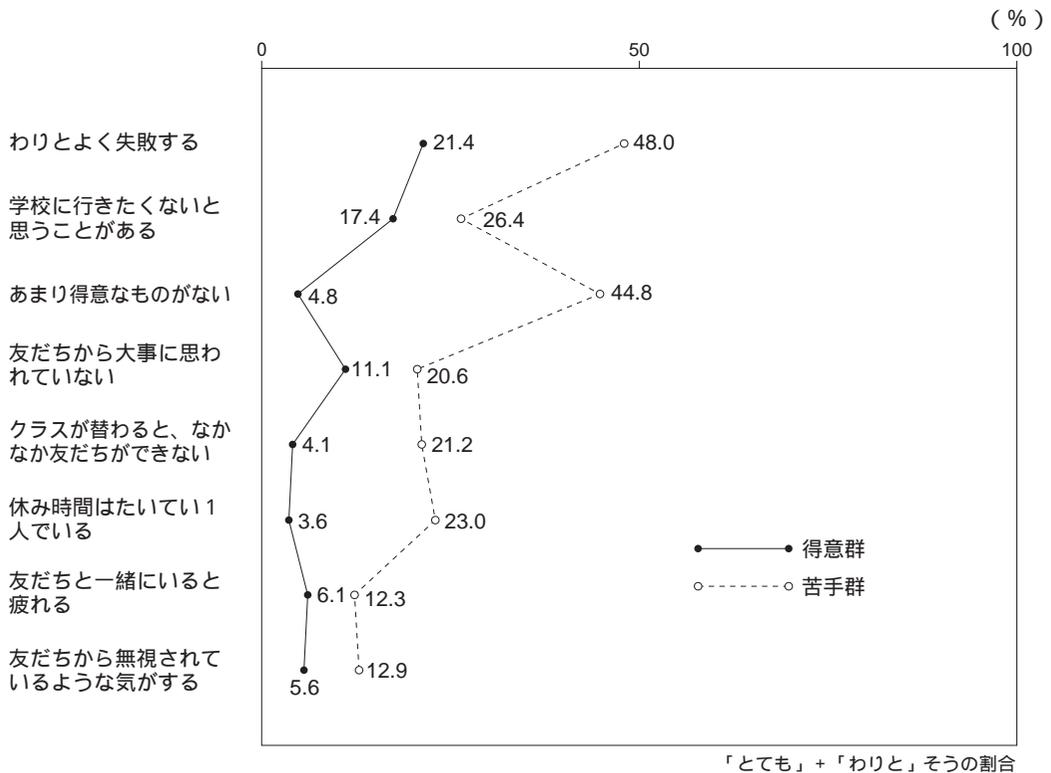


表5 - 16 学校での友人関係 × 運動得意・苦手 × 性

(%)

			とても そう	わりと そう	とても+ わりと(小計)	少し そう	あまり そうでない	違う	
男 子	わりとよく失敗する	得意群	11.1	14.0	25.1	29.3	24.0	21.6	
		苦手群	31.5	35.1	66.6	24.1	1.9	7.4	***
	学校に行きたくない と思うことがある	得意群	8.2	12.3	20.5	22.2	23.4	33.9	
		苦手群	14.8	13.0	27.8	24.1	25.9	22.2	
	あまり得意なもの がない	得意群	2.9	2.9	5.8	4.1	10.6	79.5	
		苦手群	32.1	20.8	52.9	26.4	9.4	11.3	***
	友だちから大事に思 われていない	得意群	3.0	7.7	10.7	14.8	26.6	47.9	
		苦手群	15.1	13.2	28.3	28.3	18.9	24.5	***
	クラスが替わると、 なかなか友だちが できない	得意群	2.4	1.2	3.6	5.3	14.8	76.3	
		苦手群	9.4	15.1	24.5	11.3	24.5	39.7	***
	休み時間はたいてい 1人である	得意群	2.4	0.0	2.4	2.9	5.3	89.4	
		苦手群	22.2	11.1	33.3	11.1	22.2	33.4	***
	友だちと一緒にいる と疲れる	得意群	4.1	2.3	6.4	6.4	20.5	66.7	
		苦手群	11.3	7.5	18.8	13.2	17.0	51.0	***
友だちから無視され ているような気がする	得意群	1.8	3.5	5.3	4.7	19.3	70.7		
	苦手群	11.1	7.4	18.5	22.2	25.9	33.4	***	
女 子	わりとよく失敗する	得意群	6.6	6.6	13.2	22.4	27.6	36.8	
		苦手群	12.0	25.0	37.0	38.0	14.1	10.9	***
	学校に行きたくない と思うことがある	得意群	5.3	5.3	10.6	27.6	14.5	47.3	
		苦手群	9.6	16.0	25.6	26.6	28.7	19.1	***
	あまり得意なもの がない	得意群	2.6	0.0	2.6	5.3	9.2	82.9	
		苦手群	17.0	23.4	40.4	25.6	13.8	20.2	***
	友だちから大事に思 われていない	得意群	5.4	6.8	12.2	5.4	36.5	45.9	
		苦手群	7.6	8.7	16.3	22.8	39.2	21.7	***
	クラスが替わると、 なかなか友だちが できない	得意群	0.0	5.3	5.3	2.7	8.0	84.0	
		苦手群	9.7	9.7	19.4	11.8	28.0	40.8	***
	休み時間はたいてい 1人である	得意群	3.9	2.6	6.5	2.6	13.2	77.7	
		苦手群	8.5	8.5	17.0	12.8	19.1	51.1	***
	友だちと一緒にいる と疲れる	得意群	2.7	2.7	5.4	4.0	9.3	81.3	
		苦手群	5.3	3.2	8.5	13.8	17.0	60.7	*
友だちから無視され ているような気がする	得意群	5.3	1.3	6.6	6.6	14.5	72.3		
	苦手群	8.6	1.1	9.7	9.7	29.0	51.6	*	

* p<0.05 ** p<0.01 *** p<0.001

運動以外に得意なことがあると)))

1) グループ分け

運動が苦手だと、自己評価や友人関係に大きな影を落とすことが明らかになったが、たとえ運動が苦手だったとしても、勉強が得意など、運動以外に自分を評価できるものがあるならば、状況はまた違って来るかもしれない。すなわち、友人関係や自己像が肯定的になる可能性もありそうだ。この点について分

析してみよう。

まず「あなたは勉強が得意か」の質問に「とても・少しそう」と答えた子を勉強得意群、「違う」と答えた子を勉強苦手群とし、運動の得意・苦手群とクロスした結果が表5-17(1)である。それからさらに、表5-17(2)にあるような4群を抽出した。

次からはこの4群について自己像や友人関係をみていきたい。

表5-17(1) グループ分け

		勉強が得意か		合計
		とても+少しそう	違う	
運 動	とても得意	A群 69.1 (168)	B群 30.9 (75)	100.0 (243)
	わりと得意	65.9 (336)	34.1 (174)	100.0 (510)
	ふつう	56.7 (365)	43.3 (279)	100.0 (644)
	少し苦手	52.4 (204)	47.6 (185)	100.0 (389)
	とても苦手	C群 46.6 (68)	D群 53.4 (78)	100.0 (146)

表5-17(2) グループの抽出

A群	勉強も運動も得意な群	168人
B群	運動は得意だが、勉強が苦手群	75人
C群	運動は苦手だが、勉強が得意群	68人
D群	勉強も運動も苦手群	78人

2) 勉強より運動

まずこれらの4群の特徴をみていきたい。図5-3は得意なものの有無である。「あまり得意なものがない」に対して「違う」とした割合をみていくと、きれいな大小関係がみられる。A群(両方得意)が8割以上も「違う」としていて、D群(両方苦手)ではそれが1割と当然ながら大差である。しかしおもしろいのは、B群とC群の関係である。「違

う」と自己により肯定的なのは、図が示すように、B群(運動得意・勉強苦手群)>C群(運動苦手・勉強得意)である。つまり運動と勉強のどちらが自己像を否定的にするかといえ、運動の苦手な方である。「どちらが得意になりたいか」と聞かれれば、たいていの方は「勉強が得意」な方をとるに違いないが、子どもには運動の苦手な方がつらいということが示されている。

同様な結果は図5-4「あなたはがんばる

図5-3 あまり得意なものがない × (A~D)群

	とても+ わりとそう 1.2	少しそう+ あまりそうでない	違う	(%)
A 運動得意・勉強得意群	13.8		85.0	
B 運動得意・勉強苦手群	13.3	14.7	72.0	
C 運動苦手・勉強得意群		34.3	40.3	25.4
D 運動苦手・勉強苦手群		53.8	35.9	10.3

図5-4 がんばる × (A~D)群

	とてもそう	少しそう	違う	(%)
A 運動得意・勉強得意群	66.5	28.1	5.4	
B 運動得意・勉強苦手群	50.7	32.0	17.3	
C 運動苦手・勉強得意群	23.5	54.4	22.1	
D 運動苦手・勉強苦手群	11.5	57.7	30.8	

子か」にもみられる。「とてもそう」の割合は、 $A > B > C > D$ となっていて、やはりB群の方がC群より自己肯定的である。もうひとつはリーダー性で、図5 - 5が示すように、D群からA群にかけて「よくリーダーになる自分」という肯定的な評価になっていく。ここでも運動のできないC群より運動のできるB群の方が自己肯定的である。

「得意なものがあり、がんばり屋で、リーダー性」がある点で4群にきれいな大小関係

がみられたわけだ。しかしおもしろいことに他の側では少し違った様相もある。次に図5 - 6から図5 - 11は友人関係をみたものである。 $A > B > C$ と3群についてはこれまでと同様な大小関係がみられるが、D群では $C < D$ となっているのである。

図5 - 6「友だちから大事に思われていない」とする自己評価の低さを「違う」の数字についてみると、D群だけがやや回復傾向にある。C群の21%がD群では25%とやや増

図5 - 5 よくリーダーになる × (A~D)群

	とてもそう		少しそう	違う (%)
A 運動得意・勉強得意群	44.0		32.5	23.5
B 運動得意・勉強苦手群	24.0	36.0		40.0
C 運動苦手・勉強得意群	13.2	25.0	61.8	
D 運動苦手・勉強苦手群	6.4	15.4	78.2	

図5 - 6 友だちから大事に思われていない × (A~D)群

	とても+わりとそう	少しそう+あまりそうでない	違う (%)
A 運動得意・勉強得意群	9.0	38.5	52.5
B 運動得意・勉強苦手群	16.4	46.6	37.0
C 運動苦手・勉強得意群	23.8	55.3	20.9
D 運動苦手・勉強苦手群	16.9	58.4	24.7

加している。次の図5 - 7「友だちから無視されているような気がする」を「違う」とする子も、C群の38%がD群では51%へと逆方向に増加する。図5 - 8「友だちと一緒にいると疲れる」も同様で、友人の間においてちばん心理的な不安定感を抱いているのは、C群（勉強は得意だが、運動が苦手）であることが特徴的である。

ここまでみてきて気づくのは、図5 - 6～図5 - 8のすべてにおいて、C群とD群の位置を入れ替えると、大小関係は図5 - 3などのようにきれいに並ぶことである。友人関係

のことはA > B > D > Cとなり、C群が最も厳しい状況におかれているようだ。

この点は友人の数や仲間集団への所属状況にも反映していて、図5 - 9「友だちが多い」で「とてもそう」の数字はA群からD群にしたがって減少するが、「違う」の数字はC群が26%でD群の24%よりやや多い点にもかいま見える。図5 - 10「仲良しグループに入っているか」では、「入っていない」子が、A群、B群、D群が12%、16%、28%と徐々に増えるのだが、とりわけC群（勉強は得意だが、運動が苦手）では41%と目立って多い。

図5 - 7 友だちから無視されているような気がする × (A～D)群

(%)

	とても+ わりとそう	少しそう+ あまりそうでない	違う
A 運動得意・勉強得意群	5.4	20.4	74.2
B 運動得意・勉強苦手群	6.7	29.3	64.0
C 運動苦手・勉強得意群	14.7	47.1	38.2
D 運動苦手・勉強苦手群	11.5	37.1	51.4

図5 - 8 友だちと一緒にいると疲れる × (A～D)群

(%)

	とても+ わりとそう	少しそう+ あまりそうでない	違う
A 運動得意・勉強得意群	4.2	22.9	72.9
B 運動得意・勉強苦手群	9.3	20.0	70.7
C 運動苦手・勉強得意群	16.5	32.8	50.7
D 運動苦手・勉強苦手群	9.0	28.2	62.8

図5 - 11も同様で「休み時間はたいてい1人
でいる」に「違う」とした子は、A群からC群
へと87%、84%、38%と減少し、とくにC群
の孤独な姿が気になるが、D群では再び
50%と数字が戻る。以上からみて、C群が最
も厳しいわけだが、運動も勉強も得意でない
D群は、勉強ができるが運動が苦手なC群よ
り、むしろ社会性があり友人間で心理的にも
いい状態にいるともいえる。

以上のC群の姿がみてとれるのが、図5 -
12の「いじめられやすい」だ。A群から順に
「とてもそう」と強く肯定する子が増加し「違

う」とする子が減少していくが、C群では
「とてもそう」は16%もいる。それに関連し
そうなのが図5 - 13で、「気が弱い」を肯定
する割合はA群、B群と比べC群で大きく増
加し29%も肯定する子があり、D群の16%
を大きく上まわる。いじめのターゲットにな
りやすさは、勉強ができて運動の苦手な子
のようだが、両方できない子は結構たくましく、
それが先にみた集団での地位や多少の安定感
につながって4群の中で最低の数字を免れる
結果となっているのかもしれない。

図5 - 9 友だちが多い × (A~D)群

	友だちが多い × (A~D)群 (%)		
	とてもそう	少しそう	違う
A 運動得意・勉強得意群	73.8	20.2	6.0
B 運動得意・勉強苦手群	56.8	35.1	8.1
C 運動苦手・勉強得意群	36.8	36.8	26.4
D 運動苦手・勉強苦手群	33.3	42.3	24.4

図5 - 10 仲良しグループ × (A~D)群

	仲良しグループ × (A~D)群 (%)	
	入っていない	入っている
A 運動得意・勉強得意群	11.6	88.4
B 運動得意・勉強苦手群	16.2	83.8
C 運動苦手・勉強得意群	40.9	59.1
D 運動苦手・勉強苦手群	27.6	72.4

図5-11 休み時間は1人である × (A~D)群

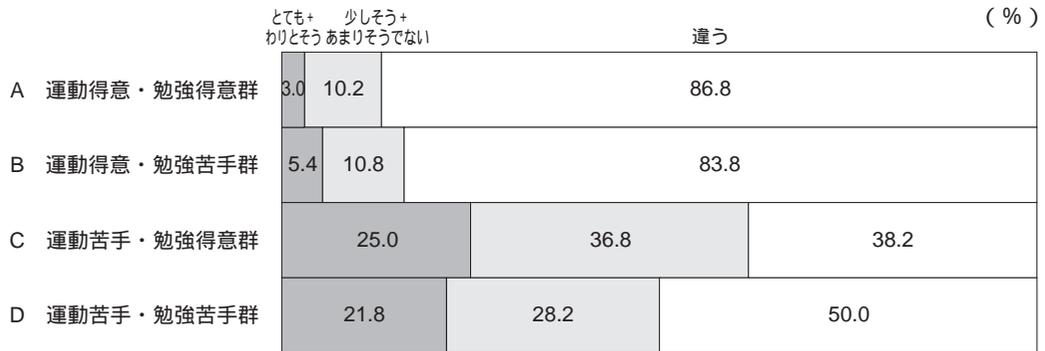


図5-12 いじめられやすい × (A~D)群

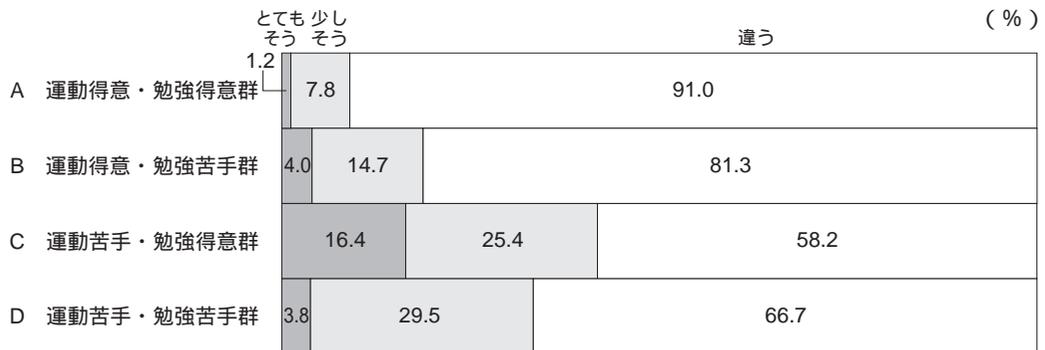
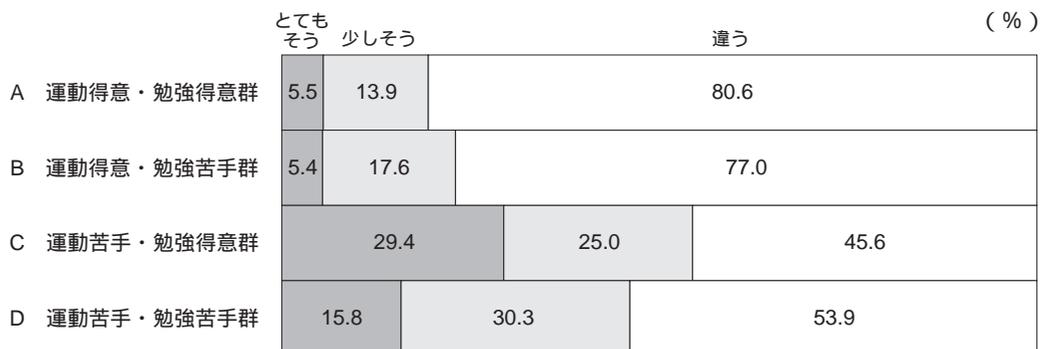


図5-13 気が弱い × (A~D)群



3) しかし学校への感情は

以上のまとめとして、図5 - 14「学校に行きたくないと思うことがある」をみよう。全体としては、さすがにA群（両方得意）はダントツに学校への否定的感情が低いことがわかる。「違う」とする子は44%もいる。

しかし「とても・わりとそう」とする学校に否定的な感情を持つ子の割合は、これまでと少し違った様相をみせている。B群31%、D群30%で、両者は勉強の苦手群である。つまり運動ができてもできなくても、勉強がで

きる子に比べて勉強のできない子にとっては学校はつらいところとなりやすいのだろう。友人の中でつらい思いをしているC群はここではD群とは差をつけている。

以上で運動が苦手な子のおかれている状況を成績がいいかどうかで分析してきたが、印象的なのはC群の仲間の中でおかれている状況だ。成績がいいが気が弱い傾向をもつ彼らが、運動が苦手であることでこうむっているマイナスをなんとかしてやりたいという気にさせられる。

図5 - 14 学校に行きたくないと思うことがある × (A~D)群

	とても+わりとそう	少しそう+あまりそうでない	違う	(%)
A 運動得意・勉強得意群	12.0	43.8	44.2	
B 運動得意・勉強苦手群	30.7	44.0	25.3	
C 運動苦手・勉強得意群	23.6	57.3	19.1	
D 運動苦手・勉強苦手群	29.5	48.7	21.8	

まとめに代えて

運動の苦手な子をなくすために

1. 幼少期の運動体験を大切に

遺伝的な優劣は無論あるとしても、すなわち遺伝的に劣っていたとしても、遊びや運動に親しむ中で運動体験を重ねることで、「好きこそものの上手なれ」の例のように、ある程度まで運動が得意な子の仲間になれると考えられる。

幼少時からの生活体験や遊び体験、本人の志向や両親の姿勢、さらには学校生活や仲間関係における体験などが影響して、運動が得意になったり苦手になったりする。今回の調査からは、小さい頃の体験などのうち、運動好きと関与していると思われるのは、「好んで外に出ること」「汗をかくような遊びを好むこと」「両親と一緒に遊んでくれること」「家族とスポーツをすること」や、「よじ登る、ぶら下がる、飛び降りる」など「高さの変化がある動き」を含む遊びをしてきたかどうかなどであった。

運動が苦手な子の場合、「家の中が好き」「のんびりしたり本を読んだりするのが好き」など、上の条件を満たしていない場合が多いことが目についた。同じ運動が苦手な子であっても、「運動が得意になりたい」という意欲のある子どもはその意欲が少ない子と比べて、

前述の点についての体験がそう悪くないようである。数値で比較してみると、運動が苦手でも意欲のある子どもは、どちらかという運動が得意な子どもの方に近い体験をしている場合もみられたのである。

前述にあげた体験や遊び方をもっとどんどんさせるように、遊びを見守り援助してやりたいものである。

2. 苦手意識が生まれる前に

運動の好きな子どもは、学校の開門と同時に遊びはじめ、「なわとび」「サッカー」「ドッジボール」と、始業前の短い時間をフルに使って動き回っている。低学年の子どもにとっては、体を動かすことイコール遊びであり、彼らは本当に運動が好きで、すでに立派な運動能力の持ち主である。ほとんどの子どもが「<どろけい>」「<たかおに>」「<こおりおに>」などのおにごっこを好み、休み時間を待ちかねて外へ飛び出す子どもも多い。「サッカー」や「ドッジボール」の場合も、能力の巧拙にかかわらず楽しく運動する姿がみられる。

この段階では、運動が得意・苦手という意識はあまり入っていないはずだ。休み時間が終わり、みんな汗だくの真っ赤な顔でガヤガヤと教室に戻ってくる時の充実感は高学年

でも同じである。

しかし、体を動かすことに評価や競技性などが入りだすと話が違ってくる。体育の授業ではどうしても評価を主とすることになりやすく、運動能力や上手・下手に意識がおかれやすい。また高学年では、運動というと<体を動かすこと>より<競技をすること>という認識が変わっていく。こうして他者との能力の差を意識し出すときが、運動の苦手意識のターニングポイントとなるのではないだろうか。

今回の調査でも、<評価>に対して「くやしい」「どうせ自分は、というあきらめ」のような気持ちや、「恥ずかしい」「人の目や言葉が気になる」「自分だけダメという疎外感」などの能力差の自覚が、苦手意識のきっかけになるらしいことが見いだされた。

調査結果からは離れるが、早くは幼稚園児くらいから、自由な遊び場面でも自発的に、「かけっこ」のタイム競争や競技志向の「サッカー」などをやりたがる場合がある。スポーツクラブなどの影響かもしれない。そんなときに幼児の中にも、今回の調査対象の小学生と同じように苦手意識を持つ子があるのを目にすることがある。遺伝的素質は備えていても、発育発達の遅速の差のために、その時点で仲間のスピードやリズムについていけない場合も十分ありえるので、子どもは自分なりに「これはうまくできない」と自己評価して応援にまわったりする。ただ、これは一時的で部分的な運動能力の差であって、時期がくれば追いつける程度のことであるし、違う種目になると人より優っていることもある。こうした一時的で部分的な能力差を絶対的な能力差のように感じさせることはできるだけ避けて、動くこと自体に親しみ楽しむのを狙いに指導をすべきである。そのような配慮を持って指導が行われれば、この時期の<苦手意識>は可逆的なものといってよいであろう。後の8でも述べるが、遅れて能力が開く場

合も十分あるので、その芽をつむことは避けなければならない。

そうした配慮をせずに、能力差を感じさせる機会が積み重なって高学年にもなると、不可逆的な<苦手意識>になっていくと考えられる。この岐路にある子どもを指導するときには、ぜひとも、どんなことが苦手意識につながるのかを知って接したいものである。

3. 個人でできる種目から始める

調査結果から次のようなポイントをあげることができる。

①実際の運動能力で最も意識に関係するのは、足の速さである。速ければヒーローだし、遅ければ人物評価までもが低くなり、自分自身の得意・苦手意識も大きく変わってくる。

②「マラソン」「けんすい」など身体的にきつい種目は、やりかたに少し配慮をしないと、運動が嫌いという意識の原因になりやすい。

③「とびばこ」「鉄棒」のように、できるかできないかのどちらかにはっきり分かれてしまう種目は、がんばってもできない場合、どうにもつらい思いをする可能性を持った種目である。

④ボールゲームは、うまい人のペースやリズムに合わせてできなければおもしろくないし、つらい、こわい、痛いという思いをする。苦手な子どもが集中的に攻撃されることもあり得るので、苦手な子どもにはちょっとつらいものである。

⑤球技やリレーなどの集団スポーツでは、人の足を引っ張ると悪いという気兼ねや、足を引っ張ったことを仲間から責められるのをイヤだと感じる子どもも多いようである。

本当は、ボールゲームや集団スポーツを楽しめるようにすることで、運動の楽しさや醍醐味が伝わるのだと思うが、現代っ子の気質や対人関係の傾向からみると、まず「水泳」

など個人で行うスポーツから始めて、時間をかけて順々にボールゲームなどへ進めていかなければうまくいかない。もちろん、個人でできる種目でも他の人との競争ばかりになってはいけませんが。

4．性格を改善しよう

運動が嫌いな理由の中に、運動以前の生活全般において、物事に取り組む姿勢ややる気がないとか、面倒くさがりという性格がみられる。また、「うまくできないことは嫌い」「得意にならなくてもいい」「がんばってもムダ」という意見からも察せられるように、粘りがないとかがまん強さがない子もいる。こうしたタイプは運動嫌い、運動が苦手になる可能性も高いと思われる。

また社会性との関連で、仲間関係をつくるのがうまくないとか、対人関係のトラブルをうまく処理できないなどの傾向も、原因か結果かは別として、運動嫌いとは相互に関係しあっていると考えられる。

意欲・やる気、粘り強さなども同様だが、幼少期の遊びや運動がうまくできないことが性格に影響し、その性格がもとになって運動に馴染めない子や苦手意識が生じ、またそれが性格形成に影響するような悪循環が起こってくるとも考えられる。運動を楽しむ方法いかんでは、このような点の改善に、運動自体が一役買える可能性があるといえよう。

5．上手に励ます

運動が得意な子のイメージは「友だちが多い」「がんばる」「勉強が得意」「よくリーダーになる」「心がやさしい」「親切」などであり、一方、運動が苦手な子のイメージは「気が弱い」「太っている」「どんくさい」「疲れやすい」「いじめられやすい」「おとなしい」「あまり質問しない」などであった。子どもたちは、こ

のような傾向をみて得意・苦手のレッテルを貼ることが考えられるので、こういう傾向がみられる子どもへの励ましや周囲の子どもの言葉かけに留意した指導ができるのが望ましい。

また、運動が苦手な子の場合、「自分には友だちが多い」と自己評価しているにもかかわらず実際の友だちの数は全体より少なかったり、「自分は心やさしい」と自己評価しているのに周囲の活発な子どもたちからはそう見られておらず、「気が弱い」「あまり質問しない」「おとなしい」存在に映っているようである。

運動が苦手な子の多くは、気の許せる友だちがおらず、クラスメートから軽視されたり孤立しやすく、自己否定的で学校生活をエンジョイできていない。皆と一緒にスポーツをするときも、迷惑をかけるのではないかと悪く言われたり笑われたりしないかと他者の評価が気になってプレーを楽しめなかったり、うまくできないことを恥と考へておぼつかないことには後込みをする面がある。

子どもの仲間関係を把握して悪循環のもとを改善してやるのが大事ではないだろうか。

6．運動の苦手意識をなくす

体力や運動能力に恵まれているのが運動の得意な子、という単純な図式は成り立たない。現実に、体が不自由でも運動が大好きという子どもも少なくない。脳性マヒで肢体不自由なある男子の場合を例にとると、負けず嫌いで、杖で両手両足を支えながらも「野球」や「バスケットボール」のゲームに参加して、ぶつかって倒れても転んでもめげないで楽しんでいる。また、「リレー」や「サッカー」を見学するときには、「もっと速く走れ！」「この下手クソ！」などと叫ぶのである。昨今話題になった著書『五体不満足』(講談社 1998年)の作者の乙武洋匡氏もスポーツが大好きで、

車椅子で試合に参加したときの様子を同書に著している。

このようなことから、運動の好き・嫌い、身に備わった能力や身体的自由・不自由によって決まってしまうものではないことがわかる。体を動かして楽しむことに親しみをもち、馴染んでいることが大きな条件となって、運動は好きになれるだろう。

だとすれば、運動に親しんだり馴染んだりするための体験を幼少の時からすべきである。その意味からは、外へ出での遊びに慣れ親しむことや友だちとの外遊びをすること、家族とスポーツを楽しむことなどに意義があるのである。裏を返せば、屋内の温度や湿度の快適さ、室内での楽しい遊びやゲームのおもしろさにとらわれすぎないように、おとなの配慮が必要であろう。

7. 運動の苦手な子を運動に誘い込む

昔は、運動がうまくできないことが引き金になって運動嫌いが生じるという単純明快な図式であったが、近年では性格的に運動をやるうとしない運動嫌い(やればできる場合も多い)がいるようだ。例えば、「面倒くさがる、億劫がる、さめている、できるかどうかわからないことには挑まない、失敗は恥と考えておぼつかないことはしようとする、何事もあまり真剣にはせず茶化している、粘りやがまん強さがない」というような傾向のある子どもには、拙速に運動を好きにさせるためのプログラムを施す訳にはいかない。遠回りかもしれないが、まず他律的・受け身的な行動パターンから脱して、自分の意志や興味関心に添って活動するようにしむけていくのが先であろう。自分の意志や興味関心に添って活動すれば、自分の手足を使って動くことや試行錯誤を繰り返すことも苦になりにくく、そういう過程を認めて評価してやれば、徐々に物事に取り組む意欲が回復してくるはずである。

行動の楽しさを知って腰が上がるようになった子どもには、次のようなことが可能性のある方法である。

友だちと外で動き回って遊べる条件が整えば、極力これを目指すべきである。それが難しければ、家族とでもいいので「よじ登る、ぶら下がる、飛び降りる」などの<高さの変化のある動き>に代表されるような遊びをするとか、家族とのスポーツを楽しむことである。さらには、その次の策として「水泳」などのスポーツをやってみることも考えられる。この場合、手始めは、人との競争・接触・奪い合い・ぶつけ合いがあったり、うまい人のペース・リズムに合わせる必要があるボールゲームや集団スポーツを避けて、自分自身のペースやリズムで運動できるものを選択するのが適切と思われる。人気のある「スイミング」や家でやるなら「なわとび」のようなものがいいのではないだろうか。

ただし、スポーツクラブやスポーツ教室などは、いずれも「習う」という他律的で受け身的な運動になりやすいし、タイムの競争や競技志向に偏るケースも多いことが心配されるので、「安易にスイミングへ」のように考えるのではなく、できることなら自分たちの自由な意志で行える遊びや運動をまず優先して考えてやるべきである。

8. 運動の苦手な子が トップアスリートになれる？

男子テニスの松岡修造選手は、世界に通用する実力を持った選手であったが、彼の述懐によると小学生の時は太っていて動きがおそい子だったということである。

体が大柄で太めであるとかリズム感がよくないなどのために小学校の頃には動きがおそかった子でも、1つ自分の好きな種目を見つけて中学や高校のクラブ活動で夢中になって取り組むと、日本を代表するような選手にも

なれるというのは実際にあることだ。

小学校では運動が苦手だった子が、中学や高校で何かの種目において花開くことは、身近にも経験する。そんな子が、数年前の小学校時代には小柄ながらスポーツ万能だった子を逆転してしまうこともよく耳にする話である。

先の松岡選手が、「素質がなくても努力をすれば、世界でもやれることを知ってほしい」という意味のことを言っているが、その「努

力」をする気になるかどうか大きなポイントではないだろうか。見ることでいいから運動に親しみを感じ、うまくできなくても楽しんで体を動かす、できないことを負い目を感じず友だちとともに活動する、うまくなりたいという希望を持っている、というような要素がまわりの人たちの配慮で確保されれば、今は運動が苦手であっても先の道は開けるだろう。

参考文献

- 池田猪佐巳 (1974) 「体育嫌いを直すための10章」、体育科教育、第22巻、第4号、15 - 16
- 石橋保・佐久本稔 (1973) 「“運動ぎらいに関する研究(第2報) 運動ぎらいを規定する年令別要因について」、福岡教育大学 紀要第5分冊 芸術・保健体育・家政・技術科編、第23号、27 - 36
- 市村操一 (1983) 「子どもの好きなスポーツ、嫌いなスポーツ」、体育科教育、第31巻、第5号、29 - 31
- 岡田和雄 (1974) 「運動ぎらいと体育ぎらい」、体育科教育、第22巻、第4号、12 - 14
- 加賀秀夫 (1989) 「運動の好きな子、嫌いな子」、体育科教育、第37巻、第12号、14 - 17
- 鹿島敬子・杉原隆 (1994) 「運動好きの体育ぎらい その実態と原因」、学校体育、第47巻、第6号、68 - 71
- 小林篤 (1970) 「運動ぎらいにさせるものは何か～その社会的条件～」、体育の科学、第20巻、第5号、289 - 293
- 佐久本稔 (1970) 「運動ぎらいにさせるものは何か」、体育の科学、第20巻、第5号、283 - 288
- 佐久本稔 (1976) 「運動の好きな子、嫌いな子」、学校体育、第29巻、第6号、31 - 38
- 佐久本稔 (1978) 「運動群別に見た好き嫌いの現状」、学校体育9月号臨時増刊 下手な子、嫌いな子を好きにさせる体育指導、第31巻、第11号、31 - 37
- 佐久本稔・篠崎俊子 (1979) 「学校体育期の“運動ぎらい”に関する研究(1)」、生活科学、第12巻、第1号、55 - 78
- 鈴木清 (1974) 「運動ぎらいの子ども背景」、体育科教育、第22巻、第4号、6 - 8
- 高田典衛 (1970) 「運動ぎらいな子どもの体育指導」、体育の科学、第20巻、第5号、298 - 300
- 調枝孝治 (1978) 「体育嫌いの原因の探求とその対策」、学校体育9月号臨時増刊 下手な子、嫌いな子を好きにさせる体育指導、第31巻、第11号、12 - 17
- 藤巻公裕 (1983) 「子どもを運動ぎらいにする背景」、体育科教育、第31巻、第5号、22 - 24
- 末利博 (1978) 「運動の下手な子の原因の探求とその対策」、学校体育9月号臨時増刊 下手な子、嫌いな子を好きにさせる体育指導、第31巻、第11号、18 - 24
- 末利博 (1983) 「運動の好きな子、嫌いな子」、体育科教育、第31巻、第5号、14 - 18
- 山市孟 (1976) 「運動に対する興味の発達的变化」、学校体育、第29巻、第6号、24 - 30
- 浅田隆生 (1980) 「運動嫌いを形成するもの 学習者とつまづきとの関連で」、体育科教育、第28巻、第10号、12 - 15
- 猪俣公宏 (1989) 「運動意欲と運動嫌い」、体育科教育、第37巻、第12号、21 - 24
- 小原孝徳 (1998) 「運動が苦手(接し方・かわり方がわからない「気がかりな子」)の理解と指導 教師はどう理解し、指導したらよいか)、児童心理8月号、第52巻、第12号、101 - 103
- 佐久本稔 (1990) 「運動嫌いとその指導法」、教育と医学、第38巻、第11号、1082 - 1088
- 船越正康 (1991) 「運動嫌い」、児童心理11月号、第45巻、第14号、1716 - 1719
- 古屋三郎 (1978) 「下手な子、嫌いな子を好きにさせる体育指導」、学校体育、第31巻、第11号、38 - 43
- 松木伸子 (1997) 「幼児期の遊びの指導方法 運動遊びの不得意な幼児の場合」、大手前女子大学論集、第30巻、165 - 178

わいわい・ガヤガヤ 子どもの広場

東京成徳大学教授	深谷和子
筑波大学大学院生	下山晃司
浦安市心の教室相談員	志村聡子
東京学芸大学大学院生	田中ゆみ
東京学芸大学学生	出水衣絵
東京学芸大学学生	北原令子
東京学芸大学学生	持田恭子



わいわい・ガヤガヤ 子どもの広場

子どもたちに聞いてみたい。
君たちの中にある時間の流れ、君たちの心の風景、君たちの夢の色。
そして暮らしの四季。

日頃のアンケート調査では拾い上げられない、
子どもたちの心の世界をのぞいてみました。
小学校4・5・6年生の子どもたち、300人との交信をお届けします。

(印は子どもの声、 < >内はコメントです)



1 あなたの学校にお化けが出るって話、
聞いたことがある？
名前は？



花子さん、トイレに(4年男子)
<そう決めてるのね>

こっくりさん(4年女子)
<こっくりさん、まだやってるんだ。昔から出るんだよ。でもお化けかな？>

ガミガミゆうれい。プールの裏の納屋に
(4年男子)

ムッシュという名前、A棟の2階、階段の
陰に(4年女子)

かめゾンビ、学校の裏に(5年男子)
<お化けも個性がでてきたね>

学校のプールの裏で呪縛霊らしいものを見
たよ(4年女子)

<こわーい。でも、最近お化けは出なくな
ったみたいね。昔はどこにもいっぱいいた
んだけどね。電気が明るすぎるので、どっ
かへ行っちゃったんだ>



2 あなたがおうちの人からいつも言われることは何？



勉強しなさい！(4年男子)

本を読みなさい！(4年女子)

宿題やりなさい！(5年男子)

<子どもの仕事は勉強なんだ、早くおとな
になりたいね>

テーブルの上に座るな(4年男子)

言葉をはっきり言いなさい(4年男子)

人の話はちゃんと聞く(4年男子)

日本語しゃべってない(4年男子)

靴をそろえる(4年女子)

食事のとき肘をつかない(5年女子)

よその家に行ったら敬語を使うのよ(5年
女子)

スカートをはいているとき、足を広げたり
しないの(6年女子)

遊ぶときは5時には帰って(4年女子)

うがいをしろ(4年女子)

テレビを近くで見るのはやめなさい(4年
女子)

食事は片寄りなく食べる(6年女子)

<子どもがみんな、何十年も言われ続けて
きたことよ。がまんしてね>

机の上をきれいにしなさい(4年男子)

ちゃんと整頓しなさい(4年男子)

<片づけるのって、どうしてあんなに億劫な
んだろうね。お片づけロボット出てこい！>

だらだらしないの(5年女子)

早く起きろ！(4年男子)

早く寝ろ！(4年男子)

早くご飯食べなさい！(4年男子)

早くお風呂はいりなさい！(4年女子)

<早く、早く、早く。それを言うのが親の
努め>

無駄遣いをするな(4年女子)

友だちにお菓子を買ってもらったり、買っ
てあげたりしてはいけない(4年女子)

<おうちの人働いて、もらったお金。お
金の重みわかるかな？>

ゲームをやめなさい！(4年男子)

連絡帳出しなさい！(4年男子)

ミルク(うちのうさぎ)を散歩させなさい！
(4年女子)

仕事を手伝え！(6年男子)

静かにしろ！(6年男子)

やればできるんだから(4年男子)

<宝の持ち腐れって思われてるのね。おう
ちの人に、君の宝を見せてあげよう！>

このごろちょっと、親に対しての態度が悪
いよ(6年女子)

<自立のきざしだってこと、親はわかって
ないらしいね>

しっかりしなさい！(5年女子)

人間らしい生活をしなさい！(6年女子)

<どういうことなんだろう？ めちゃめち
ゃだね>

3 受け持ちの先生を「かわいそうだね」と思うのは、
どんなとき？



これ（調査用紙）を書いているとき、みんなから「かわいそうなことはない！」と言われていた（4年男子）

<（笑い）>

風邪をひいて授業してる時（4年女子）

<あなたはきっといいお母さんになるわ>

先生のお兄さんが亡くなったとき（4年男子）

疲れているとき（5年男子）

<先生だっていろいろあるからね>

ボクが迷惑をかけるから（5年男子）

<わかってるんだ！ いいよ、いいよ、そのうち君もいい子になるから>

生徒を怒っているとき（4年男子）

<先生は怒るのも仕事だけど、本当は怒りたくないんだと思うよ>

先生のまちがいを、クラスみんなが責めるとき（5年女子）

みんなが静かにしないとき（4年女子）

生徒にいじめられているとき（4年男子）

<あなた、先生をいじめるの？>

クラスがだらしないとき（4年女子）

クラスのだらしない人が、もっとだらしないくなる時（4年女子）

<先生が、いちばん手を焼くことの1つだね>

校長先生に命令されているとき（5年女子）

<子どもの目にもわかるような態度なんだね。校長先生、子どもも見てますよ>

給食を他の子にあげなくてはいけないとき（6年女子）

<先生もおなか空いてるのにね>

4 学校でいちばんイヤなことは？



クラスのイヤな子にあーだこーだ言われること（4年男子）

<学校ってイヤな子もいるから、おもしろいんじゃない？>

お互いが「勝手にすれば」だったら寂しいぞ>

掃除（4年女子）

朝会と体育とボランティア（4年女子）

算数（4年男子）

音楽（4年男子）

図工（4年男子）

国語（4年女子）

勉強（4年男子）

<嫌がる子どもを何とか楽しく勉強させたいと思ってるのが先生。その苦労もわかってね>

女子においかげられること(4年男子)

<まあ、うらやましい。でも10年後でいいかな?>

担任が嫌いな先生になったとき(4年女子)
友だちと遊んでいて何か横取りされるとき(4年女子)

<「とらないで」って言ってみようよ>

仲間はずれ(4年男子)

けんか(4年女子)

悪口(5年女子)

いやみを言われるとき(5年女子)

<人生には避けられないことだけど、イヤだね>

教室まで階段を3階までのぼらないといけないから(4年女子)

<もっと鍛えよう。今からそんなでどうする>

6時間目(5年男子)

授業が長いとき(6年男子)

<大学の授業は90分だって知ってる?>

女子がいばること(6年男子)

<男の子も、もう少しいばってみたら?>

体育着が夏と冬同じ服だから(6年女子)

ちょっとしたことで男子がはやしたてたりすること(6年女子)

発育測定(6年女子)

<誰にも見られたくない気持ちや、知られたい数字があるよね。早くおとなになりたいような、なりたくないような>

本当に役に立つかどうかわからない勉強をやっていること(6年女子)

<きっと全部役に立つよ>

5 病気じゃなくて、本気で「学校を休みたい」と思ったことがある?



算数があるとき(4年男子)

宿題が多いとき(5年男子)

テストがあるとき(5年男子)

<テストなんてこの世からなくなればいいのに、と私も何度思ったことか>

何かを忘れたとき(5年男子)

<先生、責めないでね>

ねむたいとき(4年男子)

夏であつーい日(4年男子)

あの人に会いたくないなーと思うとき(4年女子)

起きるのが面倒くさかったとき(5年女子)

<学校に行けば何か楽しいことあるかもよ。気合い入れて!>

班でみんなが、ぼくだけをいじめるとき(4年男子)

女子にいじめられたとき(4年男子)

クラスの男子にいじめられそうだったとき(4年女子)

<こわいね、学校は楽しいところでなきゃいけないのに>

クラスメートに変なことをして、罪悪感を感じたとき(6年女子)

< くらいね、君は。いつまでもそういう子でいてね >

先生に怒られたとき(4年男子)

友だちが冷たくするとき(5年女子)

友だちとケンカしたとき(4年女子)

前の日にイヤなことがあったとき(5年男子)

< 「明日は明日の風が吹く」って言うじゃない >

ゲームをやりたくて休みたい(4年男子)

< 日曜日にしなさい! >

6 お父さんやお母さんが、今いちばん心を痛めていることは何だと思う？



ボクの勉強ができないことかな(4年男子)

< それほどじゃないと思うよ。たかが成績ぐらい、人生の一大事ってわけじゃないさ >

お兄ちゃんが反抗期に向かいつつあること(4年男子)

ボクがいうことをきかないから(5年男子)

弟が自分勝手なこと(5年女子)

< 親は大変だ！ 反抗期って誰にでもあるけど、親の立場になると、悲しいこともあるんだよね >

誘拐殺人にあわないか(4年男子)

< こんなこと子どもに思わせるのは、おとなの責任だ >

お兄ちゃんが高校の試験に合格できるか？(4年男子)

お兄さんの受験勉強のこと(6年男子)

< 早く終わって、みんなでニコニコしたいね。お食事に行こうか？ >

家族が事故にあわないように(4年男子)

ボクがケガをしすぎること(4年男子)

< 家族みんなが健康に暮らせるのが、幸せの基本ね >

私の道具箱がグチャグチャ(4年女子)

< 今すぐ片づけよう! >

お金関係(6年男子)

残りのローン(5年男子)

< あなたも無駄遣いしないで協力しようね >

くだらないこと(5年男子)

親の体重(5年女子)

< きっといつもダイエットダイエットって言いながら、食べてる人なのね >

私の学校や友だち関係(5年女子)

学校で子どもがどんなことをしているんだろう？(5年女子)

< 子どもにしてみれば、詮索されたくないかもね >

子どもの性格(6年男子)

< 親にひどい心配かけてるの？ >

自分たちの将来のこと(6年女子)
<老後は子どもを当てにできないって、今はどの親も思ってるの。でも利子は超安いし、いつまでも働けるってわけじゃないし。せめてあなたが精神的に親孝行してね>

中学生になるにつれて、私が体力的にもつかどうか(6年女子)
わかんない(4年男子)
<親の心配がわかんないから、子ども時代は平穏なんだね>

7 あなたが最近、泣いたことは？



妹をいじめて怒られて(4年男子)
お母さんに怒られて(4年男子)
お母さんに殴られて(5年男子)
お父さんに殴られて(5年女子)
お父さんが勉強で意味のわからないことをガーガー言ったときに(5年女子)
<君への愛情でいっぱいなんだ。大切な君への、何かのメッセージなのかもしれないよ>

おばあちゃんが死んで泣いた(5年男子)
<大好きな人だったんだね。でもおばあちゃんはお星様になっていつも君を見てくれるよ>

妹にいじめられたとき(4年男子)
おねえちゃんに泣かされた(5年女子)
<きょうだいゲンカも今が華？ でも、ケンカのしすぎには注意してね>

試合で負けたとき(6年男子)
<その涙は君の一生の宝物よ>

寅さん見て泣いた(5年男子)
ドラマを見たとき(4年女子)
本を読んでボロボロ泣いた(5年女子)
<感動の涙を流せるあなたの心、いつまでも忘れないでほしいな>

誰かに責められたとき(4年女子)
<モーレツに反発してやりなさい>

友だちに噛みつかれたとき(4年男子)
<4年生で、まだ噛みつく子がいるの？>

SPEEDの解散(6年女子)
<突然の発表にはびっくりしたね。でも、ほんとに泣いたの？>

仲間はずれにされたとき(5年男子)
友だちから裏切られたとき(5年女子)
<泣いていてもはじまらない。「何でそんなことする？」と勇気を持って聞こう>

笑いすぎて(5年男子)
<ある、ある>

さんが入院して(5年女子)
<そのとき、君は何をしてあげたかな？>

保育園のころの友だちを思い出したら、だんだん泣けてきた(5年女子)
<思い出は、人と人をつなぐんだ。その友だちも同じように君のことを思い出してるよ>

犬に耳を噛まれたとき(6年男子)
<すごく痛かったんだね。その耳どうなっ
た? >

偏差値が急に下がって、志望校に受かるか
心配になったとき(6年女子)
<今、自分ができることを精一杯やろうよ。
今度はうれし涙に変わるから >

8 もし友だちが「死にたい」と言ったとしたら、
あなたはどんなふうに話してやめさせる?



とにかく話す!(4年男子)
<そうだ、人の声がいちばんいい薬よ >

好きな人には「早まるな」、嫌いな人には
「生まれ!」(4年男子)
「勝手に死ねば」(4年男子)
「勝手にしろ」(4年男子)
「ドンマイ」(4年男子)
「自分が考えればいいじゃん」(4年男子)
<その通りだけど、冷たいんじゃない? >

「死ぬなんて簡単に言うな。自分のまわり
にいる人を悲しませるな!」(6年女子)
「死んでどうするの? 残された人のこと
を考えてみな?」(6年女子)
「家族と一生会えなくなるよ」(4年女子)
「人生これからいいことがあるさ。これから
がんばればいーじゃん」(4年女子)
「ちょっと。まだ若いし、命がもったいな
い。だからやめろよ」(4年女子)
「お父さんやお母さんが悲しむよ」(4年女
子)
「まだいっぱいやることがあるよ」(4年女
子)
「自分は一人しかいないし、あなたが死ん
だら悲しむ人、いっぱいいるよ」(4年女
子)
「やめなよ」(4年女子)
<女の子の言いかたは、あったかいね >

「皆が悲しむぞ」(4年男子)
「生きてる方がいいことあるぞ」(4年男子)
「きっといいことがあるよ。だから生きる
んだ」(4年男子)
「人生長いんだ」(4年男子)
「生きてりゃ人生いろいろなおことがあるよ」
(4年男子)
<そうだね、その通りだね。君たちまだ人
生そう長くはやってないのに、けっこう哲
学者じゃないか >

「死ぬ勇気もないのに、死ぬなんて言うな
よ」(4年女子)
「まだ早いぞ」(5年男子)
「やめてくれえ」(5年男子)
「死んでもおもしろくないぞ」(5年男子)
<そうだ、そうだ、おもしろくないよ >

「死ぬな。おまえには、みんなが持ってい
ないものがある。死んだらなにもかも終わ
るぞ」(5年女子)
「そのうち、いいことがあるからね。悩み
があるんだったら、うちに相談して」(5
年女子)
「今度はいいことあるよ」(5年女子)
「いっしょに楽しい思い出をつくっていこ
うよ」(5年女子)

募集！

「わいわい・ガヤガヤ - 子どもの広場 - 」の調査にご参加くださるクラスを募集しています。

1. クラス単位でお申し込みください。記入用紙(B 4 ・ 2 枚程度)はお送りいたします。
2. 書いたお子さんが特定できるような、プライバシーにふれる内容は拾いませんので、ご安心ください。
3. 10クラス程度を募集します。はじめにまとめて学校名を下記のように入れさせていただきますが、ご都合で伏せていただいても結構です。
小学校、 小学校、 小学校.....の4年、5年、6年の皆さん
4. ご応募が多いときは、ご希望に添えない場合もありますことをお含みください。

「まだ、楽しいことがあるよ。いっしょに楽しもう？」(5年女子)
<女の子の言葉はやさしいねえ。天性のカウンセラーなんだ、きっと>

「ここで死なれると困るから、ほかのところで死ね」(6年男子)
<頭が冷えれば、また気持ちも変わるからね>

「きつとだいじょうぶだよ」(5年女子)
<心にしみる言葉だね>

「死んでも意味ない」(5年男子)
<死んでも意味がない、生きていても意味がない。その中でどう生きるかを、見つけなきゃね>

「勝手に死ぬなよ」(6年男子)
「友だちじゃないか」(6年男子)
「死ぬな、死ぬな、おまえが死ぬなら俺も死ぬ」(5年男子)
死ぬ前、そいつをぶんなぐる(6年男子)
<男の子の友情もすばらしいね>

本人が死にたいと言っているんだから、無理にとめないで死なせてあげる(6年男子)
<(無言)>

9 あなたは将来、どんな人と結婚したい？



『女の子編』

やさしい人(4年女子)
やさしくて、人をいじめない人(5年女子)

やさしい、頼もしい人(5年女子)
<やさしい人がいいっていうのは、女の子の定番だね。でもやさしいって、どういうところで判断するんだろう？>

やさしくてお金持ち、AB型で、20歳で、
かっこいい人(4年女子)
<人生は、まずよくばってスタートしよう>

まじめな人(4年女子)
仕事をまじめにする人(4年女子)
ちゃんと仕事のできる人(4年女子)
<現実的ね。でもまじめは大事よ。生き方の基本だとお姉さんは思うの>

料理のできる人(4年女子)
家事を手伝ってくれる人(4年女子)
まじめで楽しくて、たまにはご飯をつくってくれる人(4年女子)
<お兄さんの得意料理は、酢豚なんだよ。うまいぞ~！ でも、「手伝ってくれる」とか「たまには」でいいのかな？ 男女平等の時代なんだよ>

性格がいい人(4年女子)
明るい人(5年女子)
<これも基本！>

子どもと遊んでくれる人(4年女子)
<子どもは「しつける対象」でなくて、「遊ぶ対象」になってるんだっていうよ、最近のお父さん>

ギャンブルをしない人(4年女子)
<お父さんのパチンコに悩むお母さんも、多いのかもしれないね>

お酒をあんまり飲まない人、タバコをあんまり吸わない人(4年女子)
<ギクッ！ お兄さんも耳が痛い>

あんまり太ってない人(4年女子)
<まいったなあ、でもおとなになると中年太りはしょうがないんだよ>

かっこよくて、夜遊びに行かない人(4年女子)
<夜遊びって言葉、もう知ってるんだね>

保育園からいっしょの人、学校のクラスもずーっといっしょの人(4年女子)
<幼なじみってやつだね。もう具体的な人がいるのかな>

私よりも頭がよくて背が高い人(5年女子)
<君より頭のキレる人を見つけるのは大変かも>

どうせなら玉の輿(6年女子)
<おや、まあ...>

外国人(6年女子)
<国際派だね。言葉の壁も文化の壁も乗り越えて、大きな人生を祈りますよ>

私の気持ちをわかってくれる人(6年女子)
<夫婦でも、最後までわかりあえない人々が多いんだって。悲しいね>

無口だけど頼れる人(6年女子)
<もう6年生は、おとなの心をもってるね>

穴を埋めてくれるような自分と反対な人(6年女子)
<いいね、いいね。夫婦って似たもの同士とも、2人で1人ともいうから>

一生ついていける人(6年女子)
<何かの演歌の歌詞みたいだ>

ひ・み・つ(5年女子)
<おいおい、かわいすぎるぞ！>

『男の子編』

独身でいる(4年男子)

<いろんな生き方があるよな。でも、もう女の子にひどいめにあわされたの？>

運命にまかせる(4年男子)

<夢も、理想もないわけだ>

子ども好きな人(4年男子)

<お姉さん子ども大好き！ 子だくさんの大家族が作れる経済力がほしいね>

やさしい人(4年男子)

やさしい人、こわくない人、かわいい人(4年男子)

やさしくて、人のことを真剣に考えてくれる人(4年男子)

料理がうまい人、健康な人、気が合う人、お金の使い方がうまい人(4年男子)

料理が作れて、乱暴じゃなくて、短気じゃなくて、やさしくて、お金を無駄遣いしない人(4年男子)

<ないモノねだりみたいな気がするの、お兄さんのひがみかな？>

背の同じ人で、両思いな人(4年男子)

<あなたより、背が低くなくてもいいんだね！ 背の高い女性には朗報よ>

清潔でしとやかな人(6年男子)

<お見合いのコメントのように古風な言い回しね>

頼れる人(5年男子)

<最近はこういう女の子いっぱいいるぞ。お兄さんも尻にしかれっぱなしだよ>

この「わいわい・ガヤガヤ - 子どもの広場 - 」は、2000年1月、首都圏の小学4・5・6年生300人を対象に行われたオープンアンサー形式の調査の結果に、深谷研究室のゼミ生(現役・OB・OG)がコメントを加えて構成しました。

ちょうさのおねがい

これはテストではありません。日本の子どもたちにたくさんおねがいして、その生活をしらべるためのものです。思ったことをそのまま答えてください。

やりかたの練習

あなたはカレーライスがすきですか？

とても すき	かなり すき	ふつう	すこし きらい	とても きらい
1	②	3	4	5

あなたがもしカレーライスを「かなりすき」だと思ったら
上のように番号のところを でかこんでください。

1 まず、学年などを書いてください。

1. 学校の名前..... () 小学校

2. 学 年..... (1. 5年 2. 6年) でかこむ

3. 男 女..... (1. 男子 2. 女子) でかこむ

資料1 調査票見本

2 子どもたちの中には、運動が「とくいな子」も「にがてな子」もいます。また、運動が「すきな子」も「きらいな子」もいます。あなたはどうか。

(1) あなたは、運動がすきですか。

何でも 大すき	かなり すき	半々	あまり すきでない	きらい
1	2	3	4	5

(2) 上の(1)のしつもんで、あなたがそう答えたわけを書いてください。

(3) あなたは、運動がとくいですか。

とても とくい	わりと とくい	ふつう	すこし にがて	とても にがて
1	2	3	4	5

(4) あなたは、運動がとくいになりたいですか。

とても なりたい	かなり なりたい	すこし なりたい	あまり なりたくない	ぜんぜん なりたくない
1	2	3	4	5

(5) 上の(4)のしつもんで、あなたがそう答えたわけを書いてください。

(6) あなたは、体育の時間がすきですか。

とても すき	わりと すき	ふつう	あまり すきでない	きらい
1	2	3	4	5

(7) あなたは、どんな運動やスポーツをするのがすきですか。すきな運動やスポーツをいくつか書いてください。

- (8) あなたは、「自分はしないけれど、見るのが好き」な運動やスポーツがありますか。

いくつでも書いてください。

()

- (9) あなたの家の人たちは、運動がとくいですか。

みんな とくい	とくいな 人が多い	半々	にがてな 人が多い	みんな にがて
1 _____	2 _____	3 _____	4 _____	5 _____

- (10) あなたは、よくお父さんといっしょにする運動やスポーツがありますか。
あったら、いくつでも をつけてください。

1. バドミントン
2. キャッチボール
3. ドッジボール
4. サッカー
5. 水泳
6. サイクリング
7. ランニング(ジョギング)
8. テニス
9. 卓球
10. バレーボール
11. バスケットボール
12. なわとび
13. 鉄棒
14. ゴルフ
15. 山のぼり
16. その他()

- (11) あなたは、よくお母さんといっしょにする運動やスポーツがありますか。
あったら、いくつでも をつけてください。

1. バドミントン
2. キャッチボール
3. ドッジボール
4. サッカー
5. 水泳
6. サイクリング
7. ランニング(ジョギング)
8. テニス
9. 卓球
10. バレーボール
11. バスケットボール
12. なわとび
13. 鉄棒
14. ゴルフ
15. 山のぼり
16. その他()

- (12) あなたの家では、よくかぞくそろってする運動やスポーツがありますか。
あったら、いくつでも をつけてください。

1. バドミントン
2. キャッチボール
3. ドッジボール
4. サッカー
5. 水泳
6. サイクリング
7. ランニング(ジョギング)
8. テニス
9. 卓球
10. バレーボール
11. バスケットボール
12. なわとび
13. 鉄棒
14. ゴルフ
15. 山のぼり
16. その他()

資料1 調査票見本

(13) あなたは、「じゅく」や「おけいごと」「スポーツ教室」などに行っていますか。

- 1. じゅく..... (1. 行っている 2. 行っていない)
- 2. おけいごと..... (1. 行っている 2. 行っていない)
- 3. スポーツ教室など..... (1. 行っている 2. 行っていない)

—————
何ですか？ ()

(14) 【「じゅく」や「おけいごと」「スポーツ教室」などに行っている人にききます】あなたがそうした「ならいごと」にぜんぜん行かない日は、1週間のうち、日曜日もいれて、何日ありますか。

どこにも行かない日は、週に..... (0. 1. 2. 3. 4. 5. 6) 日

3 あなたが好きなことを教えてください。

(1) あなたが今、熱中していること、しゅみや楽しみは、何ですか。(いくつでも書いてください)

{

(2) 勉強で、いちばん好きな科目は何ですか。(1つだけ をつけてください)

- 1. 国語 2. 算数 3. 社会 4. 理科
- 5. 音楽 6. 図工 7. 体育 8. 家庭科

(3) では、いちばんきらいな科目は何ですか。(1つだけ をつけてください)

- 1. 国語 2. 算数 3. 社会 4. 理科
- 5. 音楽 6. 図工 7. 体育 8. 家庭科

(4) あなたはふだん、テレビを 1日 にどれくらい見ますか。

だいたい () 時間 () 分くらい

(5) テレビゲームはどのくらいしますか。

だいたい毎日する する日のほうが多い 半々くらい たまにする ぜんぜんしない
 1 ————— 2 ————— 3 ————— 4 ————— 5

(6) 家の外と家の中とは、どちらで遊ぶのが好きですか。

ぜったい 家の外	どちらかといえば 家の外	どちらかといえば 家の中	ぜったい 家の中
1 _____	2 _____	3 _____	4 _____

(7) 走りまわったりして汗をかき遊びと、静かであまり汗をかかない遊びでは、どちらが好きですか。

ぜったい 汗をかき遊び	わりと 汗をかき遊び	あまり汗をかかない (静かな)遊び	ぜんぜん汗をかかない (静かな)遊び
1 _____	2 _____	3 _____	4 _____

4 あなたが学校にいるときのことをききます。

(1) 次のことは、あなたにどのくらいあてはまりますか。

	とても そう	わりと そう	すこし そう	あまり そうでない	ちがう
1. 学校に行きたくないと思うことがある...	1 _____	2 _____	3 _____	4 _____	5 _____
2. 友だちから大事に思われていない.....	1 _____	2 _____	3 _____	4 _____	5 _____
3. 友だちといっしょにいと、つかれる...	1 _____	2 _____	3 _____	4 _____	5 _____
4. 休み時間は、たいてい1人でいる.....	1 _____	2 _____	3 _____	4 _____	5 _____
5. クラスがかわると、なかなか友だちが できない.....	1 _____	2 _____	3 _____	4 _____	5 _____
6. 友だちから無視されているような気がする...	1 _____	2 _____	3 _____	4 _____	5 _____
7. あまりとくいなものがない.....	1 _____	2 _____	3 _____	4 _____	5 _____
8. わりとよく失敗する.....	1 _____	2 _____	3 _____	4 _____	5 _____
9. クラスで、何週間も、何か月もの間、 ずっといじめられていたことが.....	ある 1 _____	ない 2 _____			

(2) あなたはクラスで、どこかのグループ（なかよしの仲間）に入っていますか。

1. 入っていない
2. 入っている → ()人くらいのグループ

(3) では、あなたには今、クラスの中に、いちばんなかよしの（気のあう）友だちがいますか。

1. いる
2. いない

資料1 調査票見本

5 学校が終わってからのことをききます。

(1) 学校が終わって家に帰ってから、外に遊びに行くことがありますか。

毎日のように 遊びに行く	遊びに行く日 のほうが多い	半々くらい	たまに 遊びに行く	ほとんど 遊びに行かない
1	2	3	4	5

(2) 家に帰ってから、いちばんよく遊びに行く場所は、どこですか。

1つだけ をつけてください。

- | | |
|----------|------------|
| 1. 公園 | 2. グラウンド |
| 3. 家のまわり | 4. 友だちの家 |
| 5. 空き地 | 6. その他 () |

(3) そこは、あなたの家から近いですか、遠いですか。

とても近い	わりと近い	すこし遠い	とても遠い
1	2	3	4

(4) そこに行くには、どのくらい時間がかかりますか。

歩いて () 分くらいのところ
または、自転車で () 分くらいのところ

6 次のようなことは、あなたにあてはまりますか。

- | | | | | | |
|---|-----------|-----------|-----------|--------------|-----|
| | とても
そう | わりと
そう | すこし
そう | あまり
そうでない | ちがう |
| 1. おなかがじょうぶで、たくさん食べる..... | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 2. 部屋でのんびりしたり、本を読んだり
するのがすき..... | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 3. 小さいころから、運動がとくい..... | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 4. 小さいころ、外で遊ぶより、家で
遊ぶほうが多かった..... | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 5. 小さいころ、お父さんやお母さんは、
あなたとよく外で遊んでくれた..... | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 6. 小さいころ、テレビやビデオをよく
見ていた..... | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |

7 次の写真をみてください。
あなたは、遊んでいるときになどに、次の写真にあるようなことをしたことがありますか。

1. 水遊び

よく ときどき 1、2度 やったこと
やった やった ある がない
1 ————— 2 ————— 3 ————— 4



2. どんご遊び

よく ときどき 1、2度 やったこと
やった やった ある がない
1 ————— 2 ————— 3 ————— 4



3. ななめのところやガケをすべる

よく ときどき 1、2度 やったこと
やった やった ある がない
1 ————— 2 ————— 3 ————— 4



注) すべり台やスキーはいれない

4. ななめのところやガケをかけおる

よく ときどき 1、2度 やったこと
やった やった ある がない
1 ————— 2 ————— 3 ————— 4



5. 森や林の中に入って遊ぶ

よく ときどき 1、2度 やったこと
やった やった ある がない
1 ————— 2 ————— 3 ————— 4



6. 木のぼり

よく ときどき 1、2度 やったこと
やった やった ある がない
1 ————— 2 ————— 3 ————— 4



資料1 調査票見本

7. すこし高いところから飛びおりる

よく やった ときどき やった 1、2度 ある やったこと がない
 1 ————— 2 ————— 3 ————— 4



8. いろいろなところにぶら下がる

よく やった ときどき やった 1、2度 ある やったこと がない
 1 ————— 2 ————— 3 ————— 4



9. いろいろなところによじのぼる

よく やった ときどき やった 1、2度 ある やったこと がない
 1 ————— 2 ————— 3 ————— 4



10. バランスをとりながら遊ぶ

よく やった ときどき やった 1、2度 ある やったこと がない
 1 ————— 2 ————— 3 ————— 4



11. 高いところののって遊ぶ

よく やった ときどき やった 1、2度 ある やったこと がない
 1 ————— 2 ————— 3 ————— 4



8 あなたは、次のようなことがとくいですか。

- | | とても
とくい | わりと
とくい | ふつう | ちょっと
にがて | にがて |
|----------------|------------|------------|-----|-------------|-----|
| 1. かけっこ..... | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 2. マラソン..... | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 3. サッカー..... | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 4. ドッジボール..... | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 5. 水泳..... | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 6. とびばこ..... | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 7. なわとび..... | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 8. けんすい..... | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 9. ボール投げ..... | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |

9 あなたは、次のようなことができますか。

(わすれた人は、おぼえていないのところに をつけてください。)

- | | らくに
できる | たいてい
できる | たまに
できる | ほとんど
できない | できない |
|----------------------|------------|-------------|------------|--------------|------|
| 1. 鉄棒のさか上がりができる..... | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 2. 立ちばとびで()cmとべる | おぼえていない | | | | |
| 3. 走り高とびで()cmとべる | おぼえていない | | | | |
| 4. 50mを()秒で走れる | おぼえていない | | | | |

10 運動が「にがてな子」ときくと、あなたは、どんな子をそうぞうしますか。

- | | とてもそう | すこしそう | ちがう |
|-----------------|-------|-------|-----|
| 1. おとなしい..... | 1 | 2 | 3 |
| 2. しんせつ..... | 1 | 2 | 3 |
| 3. 気がよわい..... | 1 | 2 | 3 |
| 4. 勉強がとくい..... | 1 | 2 | 3 |
| 5. ふとっている..... | 1 | 2 | 3 |
| 6. 友だちが多い..... | 1 | 2 | 3 |
| 7. どんくさい..... | 1 | 2 | 3 |
| 8. 汗をかきやすい..... | 1 | 2 | 3 |

資料1 調査票見本

- | | とてもそう | すこしそう | ちがう |
|-------------------------------------|-------|-------|-----|
| 9. がんばる..... | 1 | 2 | 3 |
| 10. 給食を残す..... | 1 | 2 | 3 |
| 11. つかれやすい..... | 1 | 2 | 3 |
| 12. いじめられやすい..... | 1 | 2 | 3 |
| 13. わからないところがあっても、
あまり質問しない..... | 1 | 2 | 3 |
| 14. よくリーダーになる..... | 1 | 2 | 3 |
| 15. 心がやさしい..... | 1 | 2 | 3 |

11 あなたはどんな子ですか。

- | | とてもそう | すこしそう | ちがう |
|-------------------------------------|-------|-------|-----|
| 1. おとなしい..... | 1 | 2 | 3 |
| 2. しんせつ..... | 1 | 2 | 3 |
| 3. 気がよわい..... | 1 | 2 | 3 |
| 4. 勉強がとくい..... | 1 | 2 | 3 |
| 5. ふとっている..... | 1 | 2 | 3 |
| 6. 友だちが多い..... | 1 | 2 | 3 |
| 7. どんくさい..... | 1 | 2 | 3 |
| 8. 汗をかきやすい..... | 1 | 2 | 3 |
| 9. がんばる..... | 1 | 2 | 3 |
| 10. 給食を残す..... | 1 | 2 | 3 |
| 11. つかれやすい..... | 1 | 2 | 3 |
| 12. いじめられやすい..... | 1 | 2 | 3 |
| 13. わからないところがあっても、
あまり質問しない..... | 1 | 2 | 3 |
| 14. よくリーダーになる..... | 1 | 2 | 3 |
| 15. 心がやさしい..... | 1 | 2 | 3 |

～これで終わりです。どうもありがとう。～

資料2 学年・性別集計表

単位：サンプル数以外は%

質問項目			全 体	性 別		学 年		
				男 子	女 子	5 年	6 年	
サンプル数			1,983	1,003	980	1013	970	
①	属性別	学年	1. 5年	1,013	521	492		
			2. 6年	970	482	488		
	性別		1. 男子	1,003				
			2. 女子	980				
②	運 動 に つ い て	運動が好きか	1. 何でも大好き	19.4	25.5	13.3	21.5	17.3
			2. かなり好き	34.7	39.5	29.6	36.5	32.6
			3. 半々	31.3	25.3	37.5	28.8	34.0
			4. あまり好きでない	11.4	7.8	15.0	10.1	12.7
			5. 嫌い	3.2	1.9	4.6	3.1	3.4
		運動が得意か	1. とても得意	12.6	17.4	7.8	13.2	12.0
			2. わりと得意	26.6	30.9	22.3	28.5	24.6
			3. ぶつう	33.4	32.2	34.6	32.7	34.1
			4. 少し苦手	19.9	14.1	25.7	19.4	20.4
			5. とても苦手	7.5	5.4	9.6	6.2	8.9
		運動が得意でないか	1. とてもなりたくない	49.6	52.1	47.0	54.2	44.8
			2. かなりなりたくない	20.2	17.7	22.8	20.2	20.2
			3. 少しなりたくない	25.6	24.7	26.5	22.0	29.3
			4. あまりなりたくない	3.2	3.6	2.8	2.7	3.7
			5. ぜんぜんなりたくない	1.4	1.9	0.9	0.9	2.0
		体育の時間が好きか	1. とても好き	36.2	45.7	26.7	40.4	32.0
			2. わりと好き	27.1	26.4	27.8	26.8	27.4
			3. ぶつう	25.2	20.2	30.3	23.2	27.2
			4. あまり好きでない	8.0	5.6	10.3	6.7	9.3
			5. 嫌い	3.5	2.1	4.9	2.9	4.1
		家族が得意か	1. みんな得意	8.2	9.4	6.9	8.8	7.6
			2. 得意な人が多い	29.3	26.8	31.8	32.2	26.3
			3. 半々	45.3	46.9	43.7	44.7	45.8
			4. 苦手な人が多い	15.3	14.6	16.0	13.0	17.7
	5. みんな苦手		1.9	2.3	1.6	1.3	2.6	
	な ど	お父さんと一緒にする運動やスポーツ (複数回答)	1. バドミントン	21.5	8.4	36.5	24.1	18.3
			2. キャッチボール	56.2	75.1	34.4	58.0	54.0
			3. ドッジボール	9.2	8.2	10.4	11.3	6.6
			4. サッカー	16.8	22.3	10.5	17.7	15.7
			5. 水泳	34.3	28.3	41.2	38.6	28.9
			6. サイクリング	19.4	16.2	23.1	22.0	16.2
			7. ランニング(ジョギング)	14.9	15.8	13.8	15.5	14.1
			8. テニス	10.5	7.8	13.6	9.4	11.8
			9. 卓球	11.0	10.5	11.6	12.4	9.2
			10. バレーボール	2.5	1.3	3.9	2.7	2.3
			11. バasketボール	10.8	8.3	13.6	9.7	12.1
			12. なわとび	7.1	3.9	10.8	7.6	6.5
			13. 鉄棒	3.7	2.9	4.6	4.8	2.4
			14. ゴルフ	8.8	9.9	7.4	9.4	7.9
			15. 山登り	10.1	10.3	9.9	10.1	10.2
			16. その他	11.3	11.8	10.7	12.0	10.3

資料2 学年・性別集計表

質問項目	全体	性別		学年					
		男子	女子	5年	6年				
2	運動にまついてな	塾 い お こ け 教 室 習 い と	何 で す か (自由回答)	お母さんと一緒にする運動やスポーツ (複数回答)					
				1. バドミントン	38.7	24.9	48.9	40.6	36.4
				2. キャッチボール	21.9	32.3	14.3	24.4	18.6
				3. ドッジボール	6.2	5.2	6.9	7.6	4.3
				4. サッカー	3.7	5.6	2.3	3.2	4.3
				5. 水泳	28.1	24.4	30.8	32.6	22.5
				6. サイクリング	18.9	17.5	20.0	19.7	18.0
				7. ランニング(ジョギング)	13.5	14.6	12.8	14.8	12.0
				8. テニス	16.9	15.5	17.9	16.1	17.8
				9. 卓球	11.5	13.9	9.7	12.4	10.3
				10. バレーボール	7.9	5.4	9.7	8.1	7.5
				11. バスケットボール	7.4	6.5	8.0	7.1	7.7
12. なわとび	12.1	10.1	13.6	14.4	9.2				
13. 鉄棒	5.0	2.9	6.6	5.9	3.9				
14. ゴルフ	4.1	5.2	3.3	4.6	3.4				
15. 山登り	8.6	9.0	8.4	8.5	8.8				
16. その他	6.5	7.4	5.9	5.6	7.7				
家族そろってする運動やスポーツ (複数回答)				1. バドミントン	22.2	13.6	29.9	23.4	20.8
				2. キャッチボール	21.1	27.9	15.2	22.0	20.1
				3. ドッジボール	7.7	7.9	7.6	9.4	5.6
				4. サッカー	7.2	9.0	5.5	8.0	6.1
				5. 水泳	30.9	27.4	34.1	33.9	27.2
				6. サイクリング	19.6	17.4	21.5	22.2	16.2
				7. ランニング(ジョギング)	9.9	10.7	9.3	12.4	6.9
				8. テニス	15.6	14.0	17.1	14.4	17.3
				9. 卓球	10.4	11.7	9.3	11.4	9.1
				10. バレーボール	3.6	2.1	4.8	4.0	3.0
				11. バスケットボール	6.9	6.7	7.2	6.6	7.4
				12. なわとび	4.8	3.6	5.9	5.8	3.6
				13. 鉄棒	1.6	1.4	1.7	2.0	1.0
				14. ゴルフ	4.8	6.7	3.2	6.2	3.0
				15. 山登り	15.9	16.4	15.4	14.4	17.8
				16. その他	11.4	14.8	8.4	12.6	9.9
				1. 行っている	54.7	58.7	50.8	51.0	58.6
				2. 行っていない	45.3	41.3	49.2	49.0	41.4
				1. 行っている	58.7	43.1	71.8	61.7	55.4
				2. 行っていない	41.3	56.9	28.2	38.3	44.6
				1. 行っている	50.4	61.6	38.3	55.1	45.5
				2. 行っていない	49.6	38.4	61.7	44.9	54.5
				1. 野球	21.6	34.2	1.4	22.4	20.7
				2. サッカー	10.2	16.1	0.3	7.5	13.4
				3. 水泳	29.6	26.4	35.3	35.4	22.7
				4. 卓球	0.1	0.2	0.0	0.0	0.3
				5. テニス	5.9	3.6	9.7	5.4	6.4
				6. カラテ	2.2	2.9	1.0	1.9	2.6
				7. バスケットボール	8.5	7.1	10.7	5.0	12.8
				8. 剣道	4.2	4.6	3.4	5.2	2.9
				9. 体操	3.1	1.3	6.2	4.5	1.5
				10. バドミントン	0.5	0.0	1.4	0.2	0.9
				11. ドッジボール	4.2	0.8	9.7	2.6	6.1
				12. 少林寺拳法	0.3	0.4	0.0	0.0	0.6

資料2 学年・性別集計表

質問項目			全 体	性 別		学 年						
				男 子	女 子	5 年	6 年					
2	運動 について など	習いごと 何ですか(自由回答)	13. ジャズダンス	1.3	0.0	3.4	1.7	0.9				
			14. バレーボール	3.5	0.0	9.3	3.1	4.1				
			15. 柔道	0.7	1.0	0.0	0.9	0.3				
			16. クラシックバレエ	2.0	0.0	5.2	1.9	2.0				
			17. パトントアリング	0.4	0.0	1.0	0.7	0.0				
			18. ゴルフ	0.1	0.2	0.0	0.2	0.0				
			19. ソフトボール	0.7	0.0	1.7	0.5	0.9				
			20. 合気道	0.3	0.2	0.3	0.2	0.3				
			21. ボクシング	0.1	0.2	0.0	0.0	0.3				
			22. 弓道	0.1	0.2	0.0	0.0	0.3				
			23. レスリング	0.1	0.2	0.0	0.2	0.0				
			24. ラグビー	0.3	0.4	0.0	0.5	0.0				
		は週に何日か習いごと に行っている人のみ	習いごとに行かない日	1. 0日	6.5	7.6	5.4	5.3	7.9			
				2. 1日	10.0	10.7	9.3	8.4	11.7			
				3. 2日	15.9	17.8	14.0	15.5	16.2			
				4. 3日	19.6	19.1	20.0	19.1	20.0			
				5. 4日	20.4	19.8	21.3	22.6	18.3			
				6. 5日	16.9	15.0	18.8	17.7	16.1			
				7. 6日	10.7	10.0	11.2	11.4	9.8			
				3	好きな こと	いちばん好きな教科	1. 国語	4.0	3.1	4.9	3.2	4.8
							2. 算数	10.9	14.0	7.9	10.2	11.7
							3. 社会	4.8	6.8	2.8	3.2	6.5
							4. 理科	6.7	9.5	3.8	6.8	6.6
							5. 音楽	13.1	4.6	21.9	11.7	14.6
6. 図工	15.9	14.0	17.9				15.8	16.0				
7. 体育	33.0	43.2	22.2				33.1	32.8				
8. 家庭科	11.6	4.8	18.6				16.0	7.0				
		いちばん嫌いな教科	1. 国語	15.6	21.4	9.9	18.0	13.1				
			2. 算数	27.1	19.3	35.1	27.3	26.9				
			3. 社会	20.5	16.0	25.0	21.9	19.0				
			4. 理科	7.7	5.5	10.0	5.6	9.9				
			5. 音楽	8.3	13.5	2.9	9.0	7.6				
			6. 図工	5.7	7.0	4.3	5.6	5.8				
			7. 体育	6.4	4.2	8.6	5.9	6.9				
			8. 家庭科	8.7	13.1	4.2	6.7	10.8				
		ふだんテレビを1日に どれくらい見るか	1. 0～1時間	7.3	7.6	6.9	7.4	7.1				
			2. 1～2時間	15.3	15.0	15.8	15.6	15.2				
			3. 2～3時間	16.8	16.9	16.7	15.7	17.9				
			4. 3～4時間	19.3	20.7	17.8	17.8	20.9				
			5. 4～5時間	12.6	11.6	13.5	11.4	13.6				
			6. 5～6時間	11.6	12.0	11.2	12.5	10.9				
			7. 6時間以上	17.1	16.2	18.1	19.6	14.4				
		どのくらいゲームは するの	1. だいたい毎日する	16.6	28.0	5.1	18.8	14.4				
			2. する日の方が多い	14.1	20.2	7.9	14.5	13.7				
			3. 半々くらい	14.9	18.5	11.3	14.9	15.0				
			4. たまにする	34.5	23.8	45.2	35.4	33.3				
			5. ぜんぜんしない	19.9	9.5	30.5	16.4	23.6				
		家の外と中、 どちらで遊ぶ のが好きか	1. ぜったい家の外	13.8	16.7	10.9	15.3	12.3				
			2. どちらかといえば家の外	38.5	38.9	38.2	38.8	38.2				
			3. どちらかといえば家の中	41.5	38.5	44.5	40.4	42.6				
			4. ぜったい家の中	6.2	5.9	6.4	5.5	6.9				

資料2 学年・性別集計表

質問項目		全体	性別		学年		
			男子	女子	5年	6年	
3	好きなこと いび汗をかく遊びとでかくな遊	1. ぜったい汗をかく遊び	22.2	31.2	13.1	26.1	18.2
		2. わりと汗をかく遊び	46.7	47.0	46.2	45.2	48.1
		3. あまり汗をかかない遊び	25.9	17.2	34.9	24.1	27.9
		4. ぜんぜん汗をかかない遊び	5.2	4.6	5.8	4.6	5.8
4	学校にいかないと思うた	1. とてもそう	6.0	7.5	4.4	5.2	6.7
		2. わりとそう	10.3	10.7	9.9	9.1	11.6
		3. 少しそう	27.3	26.3	28.3	27.7	26.8
		4. あまりそうでない	27.7	26.8	28.7	27.2	28.2
		5. 違う	28.7	28.7	28.7	30.8	26.7
	友達から大事に思われていない	1. とてもそう	3.5	3.8	3.2	3.1	3.9
		2. わりとそう	7.5	8.8	6.2	8.1	6.9
		3. 少しそう	18.4	18.8	18.0	17.0	19.8
		4. あまりそうでない	37.9	36.7	39.0	35.7	40.2
		5. 違う	32.7	31.9	33.6	36.1	29.2
	友達と一緒にいると疲れる	1. とてもそう	2.7	3.0	2.4	1.8	3.6
		2. わりとそう	3.0	3.5	2.5	2.2	3.9
		3. 少しそう	9.4	10.9	8.0	8.6	10.3
		4. あまりそうでない	21.3	23.5	19.1	20.3	22.4
		5. 違う	63.6	59.1	68.0	67.1	59.8
	休み時間はいたい	1. とてもそう	2.9	3.0	2.8	2.6	3.2
		2. わりとそう	2.9	1.9	4.0	3.4	2.5
		3. 少しそう	7.1	6.5	7.6	7.0	7.2
		4. あまりそうでない	15.5	14.3	16.7	15.0	16.0
		5. 違う	71.6	74.3	68.9	72.0	71.1
	ちがなかなか友だ	1. とてもそう	2.4	2.3	2.4	2.2	2.5
		2. わりとそう	4.2	3.9	4.5	3.9	4.5
		3. 少しそう	7.9	7.9	8.0	7.7	8.2
		4. あまりそうでない	22.4	23.6	21.1	19.4	25.4
		5. 違う	63.1	62.3	64.0	66.8	59.4
	視されて無	1. とてもそう	2.7	2.5	2.8	2.9	2.4
		2. わりとそう	3.0	3.1	2.9	3.1	2.9
		3. 少しそう	10.2	9.7	10.7	10.6	9.7
		4. あまりそうでない	26.0	28.2	23.9	23.5	28.7
		5. 違う	58.1	56.5	59.7	59.9	56.3
	もあが得意な	1. とてもそう	3.9	4.1	3.7	3.3	4.6
		2. わりとそう	8.8	7.3	10.4	8.2	9.5
		3. 少しそう	17.3	16.1	18.5	18.0	16.5
		4. あまりそうでない	25.7	24.6	26.8	23.7	27.8
		5. 違う	44.3	47.9	40.6	46.8	41.6
	失敗する	1. とてもそう	9.9	12.0	7.7	9.9	9.9
		2. わりとそう	16.4	18.0	14.8	15.7	17.2
		3. 少しそう	33.4	33.6	33.1	32.4	34.3
		4. あまりそうでない	26.8	25.3	28.5	27.3	26.4
		5. 違う	13.5	11.1	15.9	14.7	12.2
こられため	1. ある	10.4	10.2	10.7	9.1	11.8	
	2. ない	89.6	89.8	89.3	90.9	88.2	
仲間	1. 入っていない	19.7	21.0	18.5	21.6	17.7	
	2. 入っている	80.3	79.0	81.5	78.4	82.3	

資料2 学年・性別集計表

質問項目			全 体	性 別		学 年		
				男 子	女 子	5 年	6 年	
4	学校に いるときの こと	仲間 何人 くらいの グループか	1. 1~2人	6.1	3.9	8.1	7.4	4.8
			2. 3~4人	41.6	33.5	49.3	44.6	38.4
	3. 5~6人		32.4	33.5	31.6	30.0	34.9	
	4. 7~8人		9.1	11.5	6.6	6.4	11.6	
	5. 9~10人		6.3	10.1	2.6	5.9	6.7	
	6. 11人以上		4.5	7.5	1.8	5.7	3.6	
	だしの 友よ	クラス に仲 友ス	1. いる	88.1	87.7	88.6	89.3	86.9
			2. いない	11.9	12.3	11.4	10.7	13.1
5	学校 が終 わっ てか らの こと	外に 行く こと 遊び に	1. 毎日のように遊びに行く	11.7	16.8	6.4	12.9	10.4
			2. 遊びに行く日が多い	19.7	21.7	17.5	21.1	18.2
			3. 半々くらい	24.8	25.3	24.4	25.7	23.8
			4. たまに遊びに行く	26.4	21.3	31.8	25.6	27.4
			5. ほとんど遊びに行かない	17.4	14.9	19.9	14.7	20.2
	場 所	よく 遊び に行 く	1. 公園	17.2	16.6	17.8	18.5	15.7
			2. グラウンド	4.3	6.6	1.8	4.6	3.9
			3. 家のまわり	16.9	14.6	19.3	18.5	15.2
			4. 友だちの家	46.5	48.3	44.8	44.9	48.4
			5. 空き地	1.2	1.5	0.9	1.3	1.0
			6. その他	13.9	12.4	15.4	12.2	15.8
	か 遠 い か 近 い	家 か 近 い	1. とても近い	36.4	38.4	34.4	40.1	32.5
			2. わりと近い	39.6	36.3	43.1	37.8	41.7
			3. 少し遠い	20.3	21.5	19.0	18.5	22.1
			4. とても遠い	3.7	3.8	3.5	3.6	3.7
	い ち ば ん よ く 遊 び に 行 く 場 所 へ の 時 間	歩 い て	1. 10分以下	41.9	42.4	41.4	45.1	38.5
			2. 10分台	34.7	34.4	35.1	33.5	36.1
			3. 20分台	15.6	13.9	17.3	14.0	17.2
			4. 30分台	5.1	5.9	4.4	5.2	5.1
			5. 40分以上	2.7	3.4	1.8	2.2	3.1
自 転 車		1. 10分以下	61.7	63.1	60.3	64.4	59.0	
		2. 10分台	31.8	30.1	33.6	29.8	33.9	
		3. 20分台	4.8	4.3	5.3	4.4	5.2	
		4. 30分以上	1.7	2.5	0.8	1.4	1.9	
		6	自 分 に つ い て	お な か が 丈 夫	1. とてもそう	17.4	21.3	13.5
2. わりとそう	26.5				29.0	23.8	27.0	25.9
3. 少しそう	29.7				26.5	33.1	29.8	29.6
4. あまりそうでない	21.9				18.8	25.1	19.4	24.5
5. 違う	4.5				4.4	4.5	4.6	4.4
読 書 す る の が 好 き	の ん び り し た り		1. とてもそう	22.5	18.1	27.0	22.4	22.7
			2. わりとそう	21.2	20.8	21.7	20.7	21.8
			3. 少しそう	23.7	23.8	23.6	25.0	22.2
			4. あまりそうでない	19.4	21.8	16.9	18.8	20.0
			5. 違う	13.2	15.5	10.8	13.1	13.3
運 動 が 得 意 か ら	小 さ い 頃 か ら		1. とてもそう	14.8	19.1	10.4	16.3	13.2
			2. わりとそう	19.7	21.8	17.5	19.2	20.1
			3. 少しそう	20.7	22.7	18.7	21.1	20.3
			4. あまりそうでない	29.4	23.7	35.1	29.0	29.9
			5. 違う	15.4	12.7	18.3	14.4	16.5
家 で 遊 ぶ 方	が 多 か 遊 ぶ 方		1. とてもそう	8.7	10.0	7.4	8.4	9.1
			2. わりとそう	13.6	14.0	13.1	14.0	13.1
			3. 少しそう	16.9	16.3	17.5	17.1	16.6
			4. あまりそうでない	30.9	30.6	31.3	29.9	32.2
			5. 違う	29.9	29.1	30.7	30.6	29.0

資料2 学年・性別集計表

質問項目		全体	性別		学年		
			男子	女子	5年	6年	
6	自分について 両親は外で遊んでくれた	1. とてもそう	28.6	26.1	31.0	32.4	24.5
		2. わりとそう	26.9	26.4	27.4	27.2	26.6
		3. 少しそう	23.5	24.3	22.7	20.9	26.2
		4. あまりそうでない	12.8	14.5	11.2	11.4	14.4
		5. 違う	8.2	8.7	7.7	8.1	8.3
	自分をよく見ていた	1. とてもそう	24.1	25.5	22.8	26.9	21.2
		2. わりとそう	26.5	24.7	28.3	27.4	25.5
		3. 少しそう	25.5	24.6	26.4	24.2	27.0
		4. あまりそうでない	17.2	18.1	16.2	14.4	20.0
		5. 違う	6.7	7.1	6.3	7.1	6.3
7	遊び 水遊び	1. よくやった	32.4	32.9	31.9	33.9	30.8
		2. ときどきやった	37.7	37.4	37.9	37.6	37.8
		3. 1、2度ある	22.5	21.7	23.3	20.5	24.5
		4. やったことがない	7.4	8.0	6.9	8.0	6.9
	遊び どろんこ遊び	1. よくやった	24.7	24.8	24.7	26.8	22.6
		2. ときどきやった	28.9	28.3	29.5	28.9	28.9
		3. 1、2度ある	31.3	31.5	31.1	29.8	32.9
		4. やったことがない	15.1	15.4	14.7	14.5	15.6
	遊び ななめをすべるヤカケ	1. よくやった	19.7	22.1	17.2	20.6	18.8
		2. ときどきやった	30.8	31.8	29.7	31.1	30.4
		3. 1、2度ある	34.8	32.1	37.7	34.3	35.4
		4. やったことがない	14.7	14.0	15.4	14.0	15.4
	遊び ななめをかけるヤカケ	1. よくやった	24.9	30.3	19.3	25.5	24.2
		2. ときどきやった	32.9	32.4	33.4	33.3	32.5
		3. 1、2度ある	30.3	26.2	34.5	30.0	30.6
		4. やったことがない	11.9	11.1	12.8	11.2	12.7
	遊び 森や林の中	1. よくやった	14.2	17.3	11.0	13.6	14.8
		2. ときどきやった	21.5	21.6	21.5	20.7	22.4
		3. 1、2度ある	38.2	37.4	39.0	37.3	39.2
		4. やったことがない	26.1	23.7	28.5	28.4	23.6
	遊び 木登り	1. よくやった	24.0	28.4	19.5	24.1	23.8
		2. ときどきやった	25.1	27.0	23.2	24.2	26.0
		3. 1、2度ある	31.2	28.0	34.6	29.5	33.2
		4. やったことがない	19.7	16.6	22.7	22.2	17.0
	遊び 高いところから飛び降りる	1. よくやった	45.5	48.7	42.1	47.6	43.2
		2. ときどきやった	34.7	33.8	35.5	33.4	36.0
		3. 1、2度ある	17.6	15.5	19.9	17.0	18.3
		4. やったことがない	2.2	2.0	2.5	2.0	2.5
遊び がら下	1. よくやった	26.8	31.8	21.7	29.0	24.6	
	2. ときどきやった	30.8	29.9	31.7	30.2	31.4	
	3. 1、2度ある	32.1	28.4	35.8	31.0	33.1	
	4. やったことがない	10.3	9.9	10.8	9.8	10.9	
遊び よじ登る	1. よくやった	41.4	46.3	36.5	44.1	38.6	
	2. ときどきやった	36.7	33.4	39.9	35.4	38.0	
	3. 1、2度ある	19.7	18.0	21.4	18.8	20.6	
	4. やったことがない	2.2	2.3	2.2	1.7	2.8	
遊び がらとランブラス	1. よくやった	40.2	39.4	41.1	43.3	36.9	
	2. ときどきやった	41.2	41.1	41.2	40.4	42.1	
	3. 1、2度ある	16.3	16.9	15.7	14.1	18.6	
	4. やったことがない	2.3	2.6	2.0	2.2	2.4	

資料2 学年・性別集計表

質問項目		全体	性別		学年			
			男子	女子	5年	6年		
7	遊びの体験 高いところ遊ぶのこ	1.よくやった	42.3	43.8	40.9	42.8	41.8	
		2.ときどきやった	38.1	37.4	38.7	38.5	37.7	
		3.1、2度ある	16.4	14.7	18.2	15.8	17.1	
		4.やったことがない	3.2	4.1	2.2	2.9	3.4	
8	得意	かけっこ	1.とても得意	18.7	22.1	15.2	22.2	15.0
			2.わりと得意	23.1	23.8	22.3	22.6	23.6
			3.ふつう	29.2	27.9	30.6	28.9	29.7
			4.ちょっと苦手	16.7	14.5	19.0	15.1	18.3
			5.苦手	12.3	11.7	12.9	11.2	13.4
	得意	マラソン	1.とても得意	12.5	17.6	7.3	14.5	10.4
			2.わりと得意	16.4	18.4	14.3	16.1	16.8
			3.ふつう	28.5	28.8	28.4	30.5	26.5
			4.ちょっと苦手	22.1	17.7	26.6	19.2	25.1
			5.苦手	20.5	17.5	23.4	19.7	21.2
	得意	サッカー	1.とても得意	9.6	16.3	2.8	11.4	7.8
			2.わりと得意	14.5	20.8	7.9	16.2	12.6
			3.ふつう	32.7	36.0	29.3	31.5	34.0
			4.ちょっと苦手	22.8	16.9	28.9	21.6	24.1
			5.苦手	20.4	10.0	31.1	19.3	21.5
	得意	ドッジボール	1.とても得意	14.3	18.5	10.1	16.2	12.4
			2.わりと得意	23.4	28.3	18.5	23.5	23.3
			3.ふつう	33.9	33.9	33.8	31.7	36.2
			4.ちょっと苦手	16.8	12.6	21.0	17.3	16.2
			5.苦手	11.6	6.7	16.6	11.3	11.9
	苦手	水泳	1.とても得意	20.4	21.3	19.6	23.3	17.5
			2.わりと得意	27.9	28.0	27.8	27.5	28.3
			3.ふつう	31.2	30.7	31.6	28.5	33.8
			4.ちょっと苦手	12.5	12.1	12.9	12.9	12.1
			5.苦手	8.0	7.9	8.1	7.8	8.3
	苦手	とびばこ	1.とても得意	17.4	22.0	12.8	20.3	14.5
			2.わりと得意	25.7	25.7	25.7	25.8	25.6
			3.ふつう	31.0	31.8	30.1	29.1	32.8
			4.ちょっと苦手	16.3	13.1	19.7	16.0	16.7
			5.苦手	9.6	7.4	11.7	8.8	10.4
	苦手	なわとび	1.とても得意	13.4	13.5	13.2	14.4	12.2
			2.わりと得意	26.1	23.4	28.9	27.0	25.3
			3.ふつう	37.4	35.8	39.1	35.2	39.6
			4.ちょっと苦手	17.0	20.0	13.9	17.5	16.5
			5.苦手	6.1	7.3	4.9	5.9	6.4
	苦手	けんすい	1.とても得意	4.4	5.5	3.3	4.9	3.9
			2.わりと得意	9.3	11.3	7.3	9.0	9.6
			3.ふつう	23.3	23.9	22.7	22.8	23.9
			4.ちょっと苦手	28.0	28.0	28.1	27.6	28.5
			5.苦手	35.0	31.3	38.6	35.7	34.1
	苦手	ボール投げ	1.とても得意	23.4	33.1	13.5	26.0	20.6
			2.わりと得意	19.4	21.6	17.2	19.3	19.5
			3.ふつう	30.9	26.7	35.3	31.2	30.8
			4.ちょっと苦手	16.2	11.3	21.1	14.9	17.4
			5.苦手	10.1	7.3	12.9	8.6	11.7

資料2 学年・性別集計表

質問項目		全体	性別		学年			
			男子	女子	5年	6年		
9	運動能力	上鉄が棒のさか	1.らくにできる	36.6	38.1	35.1	33.6	39.6
			2.たいていできる	18.6	19.1	18.2	18.5	18.8
			3.たまにできる	13.8	13.4	14.2	16.0	11.6
			4.ほとんどできない	10.0	9.6	10.4	10.5	9.5
			5.できない	21.0	19.8	22.1	21.4	20.5
	立ち幅とび	1.0~50cm	14.0	14.3	13.6	14.7	12.8	
		2.51~100cm	18.6	18.8	18.2	15.4	24.4	
		3.101~150cm	33.9	34.4	33.0	35.9	30.2	
		4.151cm以上	33.5	32.5	35.2	34.0	32.6	
	走り高とび	1.0~50cm	5.0	5.8	3.9	9.8	1.7	
		2.51~100cm	54.1	48.0	61.8	53.0	54.8	
		3.101~150cm	33.4	39.5	25.9	24.4	39.7	
		4.151cm以上	7.5	6.7	8.4	12.8	3.8	
	50m走	1.8秒未満	9.4	12.5	4.9	3.3	15.7	
		2.8秒台	37.3	40.3	33.1	31.6	43.3	
		3.9秒台	34.9	29.3	42.8	41.7	27.9	
4.10秒台		12.3	12.0	12.8	16.4	8.0		
5.11秒以上		6.1	5.9	6.4	7.0	5.1		
10	運動の苦手な子のイメージ	しおいな	1.とてもそう	32.3	30.9	33.7	34.2	30.3
			2.少しそう	48.2	46.9	49.5	45.9	50.6
			3.違う	19.5	22.2	16.8	19.9	19.1
	親切	1.とてもそう	17.9	17.8	17.9	19.2	16.4	
		2.少しそう	42.8	45.6	40.1	45.6	40.0	
		3.違う	39.3	36.6	42.0	35.2	43.6	
	気が弱い	1.とてもそう	34.4	35.5	33.3	35.5	33.2	
		2.少しそう	40.6	38.8	42.5	40.1	41.2	
		3.違う	25.0	25.7	24.2	24.4	25.6	
	得勉強が	1.とてもそう	26.1	29.8	22.4	26.2	26.1	
		2.少しそう	36.3	36.3	36.3	36.9	35.6	
		3.違う	37.6	33.9	41.3	36.9	38.3	
	い太って	1.とてもそう	28.9	33.4	24.4	29.1	28.7	
		2.少しそう	36.9	33.6	40.1	37.2	36.6	
		3.違う	34.2	33.0	35.5	33.7	34.7	
	が友だち	1.とてもそう	9.7	11.0	8.3	10.9	8.3	
		2.少しそう	29.2	30.8	27.6	30.5	27.8	
		3.違う	61.1	58.2	64.1	58.6	63.9	
	さどいんく	1.とてもそう	23.4	24.9	21.9	23.5	23.3	
		2.少しそう	40.4	39.6	41.1	37.5	43.4	
		3.違う	36.2	35.5	37.0	39.0	33.3	
	や汗すをかき	1.とてもそう	18.3	22.9	13.5	20.0	16.4	
		2.少しそう	27.8	27.9	27.8	26.5	29.3	
		3.違う	53.9	49.2	58.7	53.5	54.3	
がんばる	1.とてもそう	20.1	20.1	20.2	21.6	18.6		
	2.少しそう	30.4	31.2	29.6	30.5	30.3		
	3.違う	49.5	48.7	50.2	47.9	51.1		

明らかに誤記入と思われるサンプルを無効とし、除いて割合を出している。

資料2 学年・性別集計表

質問項目		全体	性別		学年			
			男子	女子	5年	6年		
10	運動の苦手のイメージ	残給す食を	1. とてもそう	21.4	21.8	21.0	21.6	21.2
			2. 少しそう	38.2	37.8	38.6	40.0	36.3
			3. 違う	40.4	40.4	40.4	38.4	42.5
		す疲いれや	1. とてもそう	37.2	39.4	34.9	38.6	35.8
			2. 少しそう	43.1	39.4	46.7	40.8	45.4
			3. 違う	19.7	21.2	18.4	20.6	18.8
		すらいれじめ	1. とてもそう	22.4	23.2	21.5	21.5	23.3
			2. 少しそう	29.4	29.6	29.2	28.4	30.5
			3. 違う	48.2	47.2	49.3	50.1	46.2
		な質あましり	1. とてもそう	27.6	28.8	26.3	28.0	27.1
			2. 少しそう	38.8	39.4	38.4	40.5	37.2
			3. 違う	33.6	31.8	35.3	31.5	35.7
るダよくりに	1. とてもそう	6.4	6.9	5.9	7.2	5.6		
	2. 少しそう	15.0	17.0	12.9	13.6	16.4		
	3. 違う	78.6	76.1	81.2	79.2	78.0		
し心がいやさ	1. とてもそう	25.2	24.7	25.7	26.0	24.3		
	2. 少しそう	37.5	39.0	36.1	39.4	35.6		
	3. 違う	37.3	36.3	38.2	34.6	40.1		
11	自己像	しおいな	1. とてもそう	4.9	6.6	3.1	5.1	4.6
			2. 少しそう	27.3	29.7	24.8	28.4	26.1
			3. 違う	67.8	63.7	72.1	66.5	69.3
		親切	1. とてもそう	12.3	13.6	10.9	13.0	11.6
			2. 少しそう	58.8	55.6	62.0	60.1	57.3
			3. 違う	28.9	30.8	27.1	26.9	31.1
		気が弱い	1. とてもそう	6.9	8.4	5.4	7.3	6.5
			2. 少しそう	29.2	31.3	27.1	28.1	30.4
			3. 違う	63.9	60.3	67.5	64.6	63.1
		得勉強が	1. とてもそう	12.2	15.9	8.5	12.9	11.6
			2. 少しそう	46.9	48.5	45.3	48.8	44.8
			3. 違う	40.9	35.6	46.2	38.3	43.6
い太って	1. とてもそう	10.5	11.3	9.7	10.5	10.5		
	2. 少しそう	31.3	28.0	34.7	31.8	30.8		
	3. 違う	58.2	60.7	55.6	57.7	58.7		
が友だいち	1. とてもそう	50.7	51.5	49.7	55.4	45.7		
	2. 少しそう	39.1	39.1	39.2	36.3	42.1		
	3. 違う	10.2	9.4	11.1	8.3	12.2		
さどいんく	1. とてもそう	9.5	7.7	11.2	8.0	11.0		
	2. 少しそう	31.2	27.7	34.9	30.3	32.3		
	3. 違う	59.3	64.6	53.9	61.7	56.7		
や汗すいかき	1. とてもそう	31.2	40.9	21.3	36.0	26.1		
	2. 少しそう	42.8	40.2	45.4	40.6	45.1		
	3. 違う	26.0	18.9	33.3	23.4	28.8		
がんばる	1. とてもそう	33.5	34.0	33.1	36.9	29.9		
	2. 少しそう	52.3	50.9	53.6	51.4	53.2		
	3. 違う	14.2	15.1	13.3	11.7	16.9		
残給す食を	1. とてもそう	16.7	15.4	18.1	16.7	16.8		
	2. 少しそう	39.7	35.3	44.2	40.4	39.1		
	3. 違う	43.6	49.3	37.7	42.9	44.1		
す疲いれや	1. とてもそう	19.2	19.4	18.9	17.6	20.8		
	2. 少しそう	43.1	43.0	43.3	44.8	41.3		
	3. 違う	37.7	37.6	37.8	37.6	37.9		

資料2 学年・性別集計表

質問項目			全 体	性 別		学 年		
				男 子	女 子	5 年	6 年	
11	自 己 像	すらい いれじ やめ	1. とてもそう	4.9	5.6	4.3	4.5	5.4
			2. 少しそう	15.7	16.1	15.3	15.5	15.8
			3. 違う	79.4	78.3	80.4	80.0	78.8
		な質あ い問ま しり	1. とてもそう	16.0	15.1	16.8	16.9	15.0
			2. 少しそう	42.4	42.8	42.2	42.4	42.5
			3. 違う	41.6	42.1	41.0	40.7	42.5
		るダよ くりに な	1. とてもそう	16.3	15.7	16.8	17.8	14.7
			2. 少しそう	32.4	32.9	31.9	30.9	34.0
			3. 違う	51.3	51.4	51.3	51.3	51.3
	し心 いが やさ	1. とてもそう	17.4	17.8	16.9	18.3	16.3	
		2. 少しそう	55.5	53.5	57.7	56.6	54.5	
		3. 違う	27.1	28.7	25.4	25.1	29.2	